五十匁　二錢　三錢　四錢

百匁　四錢　六錢　八錢

第十四條　刻烟草ヲ玉造ニ爲ストキハ帶印紙ヲ以テ結束シ其封緘ノ箇所及印紙ノ彩紋ヘカケ製造人ノ印章ヲ以テ消印シ箱結又ハ紙包ハ封緘ノ要部ニ印紙ヲ貼用シ製造人ノ印章ヲ以テ之ニ消印ス可シ

第十五條　刻烟草ヲ五匁以下崩シ賣ニ爲ストキハ二厘ノ帶印紙ヲ結束ス可シ

第十六條　刻烟草ヲ玉造又ハ崩シ賣ニ爲ストキハ帶印紙ノ外他ノ紙類ヲ以テ之ヲ結束スルコトヲ得ス

第十七條　外國ヘ輸出スル烟草ニ限リ輸出ノ節稅關ニ於テ戻稅トシテ印稅相當ノ金額ヲ輸出人ヘ下付ス可シ

第十八條　烟草印紙ノ種類價格左ノ如シ

印紙帶印紙黑色　一枚二厘　同淡赭色　同三厘　同黃色　同四厘　同赭色　同六厘　同萌黃色　同八厘　同淡青色　同九厘　同茶褐色　同一錢二厘　同淡紅色　同一錢六厘　同桔梗色　同一錢八厘　同橙黃色　同二錢　同老綠色　同二錢四厘　同濃青色　同三錢　同黃綠色　同四錢　同紫色　同六錢　同赤色　同八錢

第十九條　煙草印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第二十條　印紙貼用ノ細則ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

第五章　雜則

第二十一條　刻煙草ハ每個必ス製造人ノ氏名住所ヲ附記ス可シ

第二十二條　煙草營業者ハ無印紙又ハ不足印紙ノ刻煙草ヲ所持スルコトヲ得ス仕入出賣ヲ爲ス者モ亦同シ

第二十三條　煙草營業者ハ左ノ帳簿ヲ調製ス可シ其記載方ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

煙草製造人　烟草製造帳　煙草仲買人　烟草買入帳　烟草賣渡帳

烟草小賣人　烟草買入帳

第二十四條　煙草營業者ハ管轄廳ニ願出印紙買入鑑札ヲ受ケ印紙買入ヲ爲ス毎ニ其鑑札ヲ携帶シ印紙賣捌人ニ示ス可シ

第二十五條　印紙賣捌人ハ印紙買受人ニ鑑札ヲ照査シテ其賣渡高及ヒ買受人ノ氏名住所賣渡ノ年月日ヲ帳簿ニ登記ス可シ

第二十六條　煙草營業者煙草印紙ノ買受高其買入場所及ヒ使用高ヲ帳簿ニ登記ス可シ

第二十七條　煙草營業者ハ前年七月一日ヨリ其年六月三十日迄ノ烟草並ニ印紙ノ現在高ヲ取調ベ七月三十一日限造高並ニ印紙買入高及六月三十日ノ烟草並ニ印紙ノ現在高ヲ取調ベ七月三十一日限リ管轄廳ニ届出ツ可シ

第二十八條　印紙賣捌人ハ前年七月一日ヨリ其年六月卅日迄ノ印紙賣捌高並ニ買受人ノ氏名住所ヲ取調ベ七月卅一日限リ管轄廳ニ届出ツ可シ

第二十九條　烟草營業者ハ營業ノ鑑札ヲ戸外ニ掲出ス可シ

但書式布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

第三十條　印紙買入鑑札ハ貸借賣買及ヒ讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條　未製造烟草ハ煙草營業者ニアラサル者ニ賣渡スコトヲ得ス

但貸與讓與ノ名義ヲ以テスルモ亦同シ

## 第六章　檢查

第三十二條　烟草營業者ノ帳簿及ヒ其所持ノ烟草ハ主任官臨時之ヲ檢查ス可シ

第三十三條　檢查官吏ハ檢查ノ時官ノ印章ヲ携帶シ營業者ノ求ニ應シテ之ヲ示ス可シ

## 第七章　罰則

第三十四條　營業鑑札ヲ受ケスシテ烟草營業ヲ爲ス者ハ營業稅逃脫ニ係ル金高三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ烟草ヲ沒收シ之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ス

第三十五條　烟草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻煙草ヲ所持シ又ハ賣渡シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其賣渡シ代價ヲ追徵ス之ヲ貸與讓與シタル者モ同シ其罪ヲ論ス

第三十六條　帳簿ノ登記ヲ詐シテ脫稅ヲ謀リ若クハ脫稅ノ便ヲ與タル者又ハ届書ニ詐僞ノ記載ヲ爲シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條　烟草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻烟草ヲ買受ケタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス之ヲ借受讓受ケタル者モ同ノ其罪ヲ論ス

第三十八條　第六條第十四條第十五條第二十一條第二十四條ニ違犯シタル者及ヒ第二十三條ニ違犯シテ帳簿ノ調製ヲ怠ル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收シ之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ス

第三十九條　管轄廳ノ許可ヲ得スシテ印紙ヲ發賣スル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其印紙ヲ沒收ス之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條　未製造ノ烟草ヲ烟草營業者ニアラサル者ニ賣渡シタル者ハ三圓以上三拾以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條　第十三條ノ烟草裝造區分ニ違フ者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第四十二條　鑑札ヲ賣買貸借マタハ讓受讓渡シタルモノ及ヒ第二十五條第二十六條ニ違犯シタルモノハ一圓以上廿圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條　烟草自用者ニシテ未製造ノ烟草又ハ無印紙ノ刻烟草ヲ買受ケタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十四條　第八條第九條第二十七條第二十八條ノ届出ヲ怠リタル者及ヒ第二十九條ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十五條　第二十條第二十三條第二十九條ニ依リ定メタル布達ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十六條　此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四十七條　烟草營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

○第六拾四號　十二月二十七日　農商務卿連名

明治十一年(五月)第八號布告樣式取引所條例中左ノ通改正追加ス

第三十三條　取引所ニ於テ違約人ヲ處分スルハ其違約ニ依リ取引所ノ取引上ニ於テ失

ヒタル利得ト蒙リタル損害トヲ其者ノ證據金及ヒ身元金ヲ以テ償ハシメ其者ヲ除名スルコト能サルトキハ取引所ニ於テ其賣ニ任スヘシ

第四十條　賣買主ニ於テ諸證據金ノ差入レヲ怠リ又ハ期限ニ至リテ其約定ヲ履行セサル者ハ都テ之ヲ遲約人ト爲スヘシ

第四十九條　官員檢査ノ節取引所役員及ヒ仲買人ヲシテ簿册書類ヲ差出スコトヲ拒ミ又ハ疑問ニ答辯ヲ爲サヽル者アルトキハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第五十條　取引所ノ規約ニ背犯シタル役員及ヒ株主仲買人ヲ取引所限リ處分スルハ之ヲ除名スルカ或ハ過怠料ヲ取立ツルニ止ルモノトス

但其過怠料ハ株金身元金ノ高ニ超ユルヲ得ス

右奉　勅旨布告候事

○第六拾五號　十二月二十七日　大藏卿　農商務卿連名

米商會所幷株式取引所仲買人納稅規則左ノ通制定シ來十六年四月一日ヨリ施行ス

米商會所株式取引所仲買人納稅規則

第一條　米商會所仲買人定期賣買ヲ爲スヘキハ賣買雙方ヨリ各約定代金高千分ノ五ヲ納稅スヘシ

第二條　株式取引所株引仲買人公債證書幷諸株式ノ定期賣買ヲ爲ストキハ賣買雙方ヨリ各約定代金高千分ノ一ヲ納稅スヘシ

第三條　第一條第二條ノ場合ニ於テ定期内ニ轉賣又ハ買戻ヲ爲ス者ハ其轉賣又ハ買戻ニ係ル稅ヲ免除ス

第四條　株式取引所金銀貨仲買人金銀貨ノ取引ヲ爲ストキハ賣買雙方ヨリ各其取引代金高千分ノ二半ヲ納稅スヘシ

第五條　賣買ヲ解約スルコトアルモ其稅金ハ之ヲ還付セス

第六條　稅金ハ會所又ハ取引所ニ納ムヘシ

第七條　會所及取引所ハ仲買人ヨリ納メタル稅金ヲ毎一箇月取纏メ翌月十日限リ地方廳ニ上納スヘシ

第八條　稅金徵收ノ方法ハ大藏卿ノ達ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第九條　大藏卿ハ地方廳ニ委任シ又ハ隨時官吏ヲ派出シ納稅ノ精算ヲ檢査セシムヘシ

第十條　稅金ヲ納メスシテ賣買取引スル者ハ脫稅高三倍ノ罰金ニ處ス但此場合ニ於テハ仲買人タルノ認許ハ其效ヲ失フモノトス

第十一條　前條ノ罰金ハ仲買人ノ身元金ニ對シテ第一先取ノ特權ヲ有スヘシ

第十二條　會所及取引所ニ於テ本則納稅ノ取締ヲ怠ルトキハ米商會所條例第十九條第一節株式取引所條例第四十八條及本年第四十六號布告ニ依リ處分シ仍ホ其資本金ヲ以テ納稅ノ欠額ヲ追徵スヘシ

右奉　勅旨布告候事

○第六拾六號　十二月二十七日　大藏卿　農商務卿連名

明治九年八月第百五號布告米商會所條例第十條第三節中約定代金高十分ノ二トアルヲ十分ノ一ト改メ第十五條第一節中賣買手數料總金高十分ノ四トアルヲ十分ノ二ト改ム但シ來十六年四月一日ヨリ施行ス

右奉　勅旨布告候事

○第六拾七號　十二月二十七日　大藏卿　農商務卿連名

明治十一年(九月)第三拾號布告株式取引所稅額ノ儀手數料其他現收セル總金高十分ノ一トアルヲ賣買手數料總金高十分ノ一ト改ム但來十六年四六月一日ヨリ施行ス

右奉　勅旨布告候事

○第六拾八號　十二月二十八日　內務卿連名

明治十三年(四月)第拾五號布告同年(十一月)第四拾九號布告府縣會規則中左ノ通追加改正ス

第六條　二項　出納決算ノ報告書ニ付府縣會ヨリ說明ヲ求ムルトキハ府知事縣令若シクハ其代理人之ヲ說明スヘシ

第三十一條　府縣會ハ每年一度三月ニ於テ之ヲ開ク其開閉ハ府知事縣令ヨリ之ヲ命ス會期ハ三十日以內トス但區部郡部會ヲ開ク地方ニ於テハ七日以內延期スルコトヲ得

第三十二條　通常會期ノ外會議ニ付スヘキ事件アルトキ府知事縣令ハ臨時會ヲ開クコトヲ得其會期ハ七日以內トス但該會ヲ要スル事由ヲ直ニ內務卿ニ報告スヘシ

第三十三條　二項　四項　府縣會ニ於テ若シ法律上議定ヘキ議案ヲ議決シ終ラサルトキ又ハ會期內ニ於テ議案ヲ議決シ終ラサルトキハ府知事縣令ハ更ニ其議定ヲ要セス內務卿ニ具狀シ其認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テ內務卿ハ府縣會ヲ停止スルコトヲ得而シテ更ニ開會ヲ命スル迄ノ間ハ府知事縣令ニ於テ地方稅ノ經費豫算及徵收方法ヲ定メ內務卿ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得

第三十七條　常置委員ハ府縣會ノ議定ニ依リ事業ヲ執行スルノ方法順序及豫備費ノ支出ニ付府知事縣令ニ對シ諸門アルトキハ其意見ヲ述フ

常置委員ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テハ其經費ノ豫算及徵收方法ヲ議決シ追テ府縣會ニ報告スルヲ得

右奉　勅旨布告候事

○第六拾九號　十二月二十八日　內務卿　大隈卿連名

明治十三年（四月）第拾六號布告地方稅規則中左ノ通追加改正ス

第三條　二十項　一豫備費（豫算外ニ生シタル事件ノ費途及豫算ノ臨時不足ニ充ル者）

第四條　二項　地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事件數年ヲ期シテ施行スルモノハ初年ニ於テ其年期間各年度ノ經費豫算ヲ定メ府縣會ノ議決ヲ取リ府知事縣令ヨリ內務卿ニ具狀シ認可ヲ得テ其年期間之ヲ施行スルコトヲ得

第五條　二項

前年度經費決算ノ場合ニ於テ已ムヲ得サル事故アリテ費目中不足ヲ生スルモノアルトキハ府知事縣令ハ府縣會ノ議決ヲ取リ其補充費ヲ徵收スルコトヲ得

右奉　勅旨布告候事

○第七拾號　十二月二十八日　內務卿連名

府縣會議員會議ニ關スル事項ヲ以テ他ノ府縣會議員ト聯合集會シ又ハ往復通信スルコトヲ許サス

其集會スル者何等ノ名義ヲ以テスルモ府知事縣令ニ於テ此禁令ヲ犯ス者ト認ムルトキハ直ニ解散ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ解散ノ命ニ從ハサルモノハ集會條例第十三條ニ依テ處分ス

右奉　勅旨布告候事

○第七拾壹號　十二月二十八日　司法卿連名

明治十四年(十月)第五拾三號布告裁判所管轄表中東京始審裁判所管内日本橋本郷淺草四谷品川ノ各治安裁判所ヲ廢シ管轄區畫左ノ通改定ス(原達訂正)

右奉　勅旨布告候事

○第七拾貳號　十二月二十八日

明治六年(五月)第百七拾八號布告ヲ廢止ス

右奉　勅旨布告候事

○第七拾三號　十二月二十八日　陸軍卿　司法卿連名

憲兵卒其職務ニ關シ罪ヲ犯シタル時ハ官吏犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

憲兵卒ノ職務ニ對シ罪ヲ犯シタル者ハ官吏ニ對スル犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

右奉　勅旨布告候事

○第七拾四號　十二月廿八日　大藏卿連名

備荒儲蓄金及區町村會若シハ水利土功ノ集會ニ於テ評決シタル土木費ニ關シ不服アリテ出訴セントスルモノハ都テ明治十五年(五月)第貳拾貳號布告ニ依ルヘシ

右奉　勅旨布告候事

○太政官布達之部

○第壹號　一月十四日　工部卿連名

工部省所轄陸中國釜石鐵山分局ニ於テ今般同所ヨリ大橋マテノ間鐵山用ニ供スニ鐵道落成ニ付テハ工業用ノ餘暇一般人民便利ノ爲メ別紙心得書幷賃金表ニ從ヒ乘車又ハ荷物運輸共之ヲ許ス（別紙略之）

○第貳號　一月三十一日　大藏卿連名

明治十三年（十一月）第五拾貳號布告土地賣買讓渡規則第一條但書ノ儀ニ付左ノ通取扱手續ヲ定ム

土地分割取扱手續

第一條　賣買讓渡等ノ爲メ一筆ノ土地ヲ分割シテ與書劃印ヲ受ケ地券書換ヲ請ハント欲スルモノハ境界ヲ明瞭ニシテ其反別ヲ正シ地位ノ優劣ニヨリ全筆ノ地價ヲ分配シ其書面ヲ戸長役場ニ差出スヘシ

第二條　戸長ハ實地ヲ檢シ不都合ナキ時ハ奥書割印ヲナシ若シ反別地價ノ配分上不適當ノモノアリト認ル場合ニ於テハ其旨ヲ說諭シ願人承服セサル時ハ其意見ヲ付シ郡區役所ヲ經テ管轄廳ニ具申スヘシ

第三條　該廳ニ於テ前條ノ具申ヲ受ル時ハ更ニ實地ヲ審査シ分界ヲ檢シ坪數地位ニ適スル地價ヲ定メ其旨本人ニ申達シ奥書割印ヲ受クルノ手續ヲナサシムヘシ

但實實讓渡ニアラスシテ自己ノ都合ニヨリ一筆ノ土地ヲ分割スルモ前條々ノ例ニヨルヘシ

右布達候事

○第三號　二月一日　農商務卿連名

民有森林ノ中水源ヲ養ヒ土砂ヲ止メ又ハ風潮ヲ防禦シ雪ヲ支拄スルノ類國土保安ニ關係アル箇所ニシテ漫ニ其樹木ヲ伐採セハ他ニ障害ヲ來スコト不少ニ付是等ノ森林ハ自今實地ノ景狀ニヨリ伐木停止セシムルコトアルヘシ

右布達候事

○第四號　二月十七日　内務卿　文部卿連名

醫術開業セントスルモノハ明治十二年内務省甲第三條布達醫師試驗規則第三條ニ記載シタルモノヽ外ハ總テ開業試驗ヲ遂ケ免狀交付シ來リ候處自今文部卿ノ認可ヲ得左ノ條件ヲ具ヘタル醫學校ノ卒業生ハ詮議ノ上試驗ヲ要セス直チニ開業免狀ヲ下付スルコトアルヘシ

但卒業試驗ノ節ハ時機ニ據リ内務省ヨリ吏員ヲ派出シ臨監セシムルコトアルヘシ

一三名以上ノ醫學士歐米ノ大學校ニ於テ卒業シタルモノ等其履歷ニヨリ本條ニ準スルコトアルヘシ

一生徒ノ員數ニ相當セル助教ヲ置ク事

一四年以上ノ學期ヲ定メ教則幷試驗法ノ完備セル事

一附屬病院アリテ生徒ノ實地演習ヲ爲ス事

右布達候事

○第五號　三月三日　農商務卿連名

明治十六年水產博覽會規則地方官心得書幷賣店規則別冊ノ通之ヲ定ム（別冊畧之）

○第六號　四月八日　海軍卿連名

明治九年（四月）海軍省甲第貳號布達造船所定雇職工規則第三條中同十一年（十一月）同一ケ年ヨリ三ケ年マテトアルヲ三箇年ト改ム

右布達候事

○第七號　四月十二日　工部卿連名

日本鐵道會社創立許可候ニ付テハ今回埼玉縣下川口ヨリ群馬縣下前橋マテ鐵道建築着手候條爲心得此旨布達候事

○第八號　四月二十六日　內務卿連名

本曆幷ニ略本曆ハ明治十六年曆ヨリ伊勢神宮ニ於テ頒布セシムヘシ一枚摺略曆ハ明治十六年曆ヨリ何人ニ限ラス出版スルコトヲ得

但明治九年（十月）內務省甲第三十九號布達ハ取消ス

右布達候事

○第九號　四月廿七日　工部卿連名

明治十三年（十一月）工部省第廿二號布達改正電機通信技術方取扱規則中左ノ通改正ス

第五條ノ中「第一體」貳ノ一項ヲ加ヘ舊ノ「第一」以下ヲ「第二第三第四第五第六」ト改ム

第六條ノ中「學科試驗ノ」上ニ「體質檢查」ノ四字ヲ加ヘ「入校ヲ許ス擧テ」ノ下ニ「級外」ノ二字ヲ入レ「等級ヲ進メ」ノ下「技手見習ト爲スヲ以テ卒業ノ期トス」ノ十字ヲ消除ス

第八條ノ中「卒業」ノ下「上技手見習拜命」ノ八字ヲ消除ス

第九條直書ノ中「技手見習」ヲ「十等技手」ト改ム

第十條證書例文ノ中「技手見習」ヲ「十等技手」ト改ム

右布達候事

○第拾號　五月六日　內務卿　農商務卿連名

北海道ヘ移住シ農桑ノ業ニ從來スル者ニシテ資力ナキ者渡航手續別紙ノ通相定メ本年七月一日ヨリ施行ス

但明治十二年（四月）書開拓使甲第四號同年（六月）同甲第五號布達ハ同日ヨリ廢止ス

右布達候事

北海道送籍移住者渡航手續

第一條　移住者ハ從來營業及其入籍スヘキ地名前途目的ヲ詳記シ其家屬人員及荷物噸數(荷物ナキ者ハ其由)ヲ明記シタル書面ヲ副ヘ函館縣令ヘ宛タル乘船願書ヲ本籍戸長役場ヲ經テ郡區役所ヘ差出シ其役所ニ於テハ願人ノ身元及其目的ノ當否ヲ審査シ願書正副貳通ヘ郡區長與書捺印シ本人或郡區役所ヨリ便宜之ヲ函館縣ヘ郵送スヘシ

第二條　渡航許可ヲ與フル者ヘハ願書ヘ其旨ヲ指令シ農商務省ヨリ發スル處ノ乘船票ヲ副ヘ本籍郡區役所戸長役場ヲ經テ本人ニ下付スヘシ尤該票ハ官船及ヒ三菱會社運漕社所屬ノ滊船ニ限リ辨用スルモノニ付乘船人ハ右滊船ノ寄港スル便宜ノ港ニ至リ證票ト其滊船ノ切符トヲ引替乘船スヘシ右滊船會社ニ於テハ乘船人ヨリ請取タル證票ヲ以テ賃錢受取方ヲ函館縣ヘ申立ヘシ

但本人ノ都合ニ依テハ渡航許可ノ指令書郡區役所戸長役場ヲ經ス直ニ下付スルコト有ヘシ此場合ニ於テハ郡區役所戸長役場ヘハ本人ヨリ直チニ其旨ヲ屆出ヘシ

一本條許可ヲ得タル後其移住スヘキ家屬ノ內事故アリテ一時舊籍ニ寄留シ或ハ病氣ニテ乘船地ニ逗留スル者アル時ハ其旨ヲ其地ノ郡區役所又ハ戸長役場ノ公認書ヲ得テ函館縣ヘ屆出尙渡航セントスル時ハ更ニ第一條ニ準シ其手續ヲナスヘシ

一本年度經費ノ都合ニ依リ翌年マテ渡航願ヲ差延ルコトアルヘシ

第三條　渡航許可ヲ得タル者手荷物ノ外尙一戸ニ付四拾才マテノ荷物ノ遞送ハ官費支給シ其他ノ荷物及ヒ發着ノ艀賃船待船ノ繼替等ニテ帶在中ノ費用等ハ自辨タルヘシ

第四條　第一條第二條ノ手續ヲ經テ移住後滿三ケ年間ニ他道ヘ轉籍スル時ハ乘船賃ヲ返償セシムヘシ

表面

| 番號 | 乘船允 | 自何港 | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 族籍 | | | | 姓名 | | 年齡 | |

許之證票

| 至何港 | | | |
|---|---|---|---|
| | | | |

記名ノ人員乘船賃手荷物外ノ荷物一戸ニ付四十才マテノ遞送費ハ農商務省ヨリ拂ヒ可遣ニ付函館縣ヨリ受取可申事

明治　年　月　日　　農商務省

裏

一此證票ハ規則第二條ニ掲クル滊船中各自ノ乘船スヘキ船ノ扱所ヘ持參シ乘船切符ト引換ヘシ表面ニ記シタル四十才外ノ荷物ハ本人自費タルベシ

一此證票ヲ以テ乘船切符ト引換タル後乘船セザル時ハ本船出帆前該會社ヘ切符ヲ戻シ其旨至急函館縣ヘ屆出ベシ本船出帆後廿四時間内ニ該會社ヘ持參スレハ一割引ヲ以テ買戻ス筈ニ付其一割ノ金額ヲ自辨拂ヘシ廿四時間後ハ乘船セシト同シケレヘ怠惰ヨリ生スルヲ以テ其費ハ本人ヨリ償納スヘキ事

但差掛リ發病等ノ者ハ其地醫師診斷書ト戸長役場ノ申立書アレハ別段ノ詮議ニ及フヘシ

面

一此證票ハ他人ニ讓渡ヲ禁ス依テ乘船切符ヲ與フル際審査シテ若シ疑シキ時ハ乘船切符ヲ與ヘサルヘシ

一此證票ヲ紛矢セシ時ハ表面ノ番號ヲ記シ其旨至急函館縣ヘ屆出ヘシ

右ノ條件遵守スヘキ事

○第拾壹號　六月八日　工部卿連名

明治十二年(五月)工部省第九號布達電信取扱規則中左ノ通改正追加ス

第四編　第七章

別使ヲ以テ云々ノ項但書追加

但島嶼ヘノ別使賃ハ本篇第八章及第十一章ノ手續ニ據リ徵收スヘシ

第五篇　第二章中第二節以下改正追加

第二節　著信局ニ於テハ前納ノ金額ニ當ル證券ヲ信書ト共ニ受信人ニ交付シ而シテ何レノ地方ヘ宛ルニ此証券ヲ以テ隨意ニ返信ヲ送ラシム

但此返信ハ他ノ電報ト同シク通常ノ取扱タルヘシ

第三節　其返信ノ辭數前納金額ノ辭數ニ充タサルトキハ其剩餘ハ返信ヲ出ス者ニ交付シ若シ此證券ノ金額ニ過ルトキハ其不足金ヲ同人ヨリ徵收ス

第四節　此證券ハ交付ノ日ヨリ六週日間資用スヘキモノトス此期限ヲ過レハ廢紙トナシテ前納金額ヲ返還セス故ニ若シ返信ヲ出サス前納金額ヲ出狀人ニ返却セント欲セハ此期限内ニ其証券ヲ添テ著信局ヘ申出ヘシ

著信局ヨリハ郵便ヲ以テ發信局ニ報シテ出狀人ニ通知セシム故ニ出狀人ハ返信料受領証ヲ持參シテ現金ト引換ヘシ　但右郵便稅ヲ納ムヘシ

第五節　若シ其著信ヲ交付スルヲ能ハス又ハ証券ヲ受領スルヲ拒ムトキハ著信局ヨリ電報ヲ以テ發信局ヲ經テ其事實ヲ出狀人ニ報知ス此電報ハ返信ノ代リト見做シテ前納シタル金額ヲ收入ス一音信料以上ヲ前納シタルモノハ唯一音信料ヲ收メテ其餘ハ出狀人ニ還付ス

但受信人ニ配達スル能ハサルトキ著信局ニ於テハ其名宛ノ不充分ナルカ又ハ傳送上誤認アリト思考セハ發信局ヘ局報ヲ以テ報知シ之ヲ正ス

受信人ヲ捜索シテ一週日ヲ過ルモ其所在ヲ發見セス或ハ出發後等ニテ配達スルヲ能ハサルニ決セハ左ノ文例ニ因リ直ナニ課金局報ヲ以テ之ヲ報知ス

第何號某ヘノ電報ハ屆得ス

証券ヲ受領スルヲ拒ムトキハ左ノ文例ニ因リ直ナニ課金局報ヲ以テ之ヲ報知ス

第何號ノ返信証券ハ某受取ヲス

受信人ニ交付スル能ハサル電報ハ第四篇第五章ニ因リ局ニ留置ノナリ

第七篇　第四章

内國至急官報ハ通常音信料ノ二倍ヲ納メシメ他ノ内國官報ニ先キニ傳送スヘシ

但閉局後ト雖モ之ヲ類信送受スルヲ得

右布達候事

○第拾二號　六月二十日　司法卿連名

本年(本月)第二拾八號布告ヲ以テ追加相成候札幌縣根室縣管內各裁判所ハ來ル七月一日ヨリ開廳ノ事務ヲ執行ス

右布達候事

○第拾三號　七月十一日　內務卿卿名

本年十月一日ヨリ十一月二十日マデ東京上野公園ニ於テ內國繪畫共進會ヲ開設ス

右布達候事

○第拾四號　七月十一日　內務卿連名

明治十五年內國繪畫共進會規則別冊ノ通之ヲ定ム(別冊峯之)

○第十五號　七月十八日　內務卿　農商務卿連名

本年(五月)第拾號布達北海道渼籍移住者渡航手續ヲ第一條中函館縣令ヘ可差出願書ハ便宜ニ因リ農商務卿ヘ宛テ同省ヘ郵送スルコトヲ得農商務卿ハ第二條ノ順序ニ依リ乘船票ヲ本人ヘ下付スヘシ瀛船會社ニ於テ此分ノ賃錢受取方ハ農商務省ヘ申立ヘシ

但農商務省ヨリ乘船票ヲ受ケタル者渡航手續第二條但書第二項ノ届出ハ農商務省ヘ差出スヘシ

右布達候事

○第拾六號　八月三日　農商務卿連名

來明治十六年五月ヨリ十月迄和蘭國安特堤府ニ於テ殖民地物產及一般輸出品萬國博覽會開設ニ付出品望ミノ者ハ別冊規則ニ準シ農商務省ヘ願出ヘシ(別冊峯之)

右布達候事

○第拾七號　八月二十二日　工部卿連名

暗號ノ私報電信和文歐文トモ當分ノ內停止ス(但海外電信ハ此限ニアラス

右布達候事

○第拾八號　九月四日　大藏卿連名

今般長野縣下飯山第二十四國立銀行鎖店申付候ニ付其發行紙幣自今通用不相成候因テ右紙幣引換方ノ儀ハ總テ大藏省ニ於テ負擔シ國立銀行及大藏省爲換方ヲシテ取扱ハセ候條右紙幣所持主ハ來明治十六年十二月三十一日限リ國立銀行又ハ爲換方ヘ申出引換ヲ請フヘシ若シ期限ヲ過キ申出サル者ハ如何ナル事情アルモ一切引換サルヘシ

右布達候事

○第拾九號　九月四日

暗號ノ私報電信自今停止ヲ解ク

右布達候事

○第貳拾號　九月十二日　工部卿建名

靜岡縣下遠江國濱名港ニ別紙圖面朱線ノ通電信水底線布設候條線路標木ヨリ南北各拾間以內ニ於テ諸船桴筏繫留及投錨ハ勿論漁業海草採取土砂堀取等禁止ス（圖面畧之）

右布達候事

○第貳拾壹號　十月十日

青森縣下陸奧國東津輕郡一本木村ヨリ函館縣下渡島國函館區町東川町ヘ別紙圖面ノ通海底電信線ヲ設置候條右線路左右各二百間以內ニ於テ船艦投錨漁業採藻等之ヲ禁止ス

但明治七年（十月）工部省第貳拾七號十年（八月）第拾壹號布達ハ廢止ス（圖面畧之）

右布達候事

○第二拾貳號　十一月十日

本年（四月）第七號ヲ以テ埼玉縣下川口ヨリ群馬縣下前橋マテ鐵道建築ノ儀布達候處今般右川口ヨリ赤羽根王子ヲ經テ東京上野公園東邊マテ線路建設ス

右布達候事

○第二十三號　十一月十五日

岡山縣下備前國兒嶋郡澁川村ヨリ愛媛縣下讃岐國阿野郡乃生村ヘ別紙圖面ノ通海底電信線改設候條右線路左右各二百間以內ニ於船艦投錨漁業採藻等之ヲ禁示ス但工部省布達明治九年（十二月）第貳拾貳號及十二年（二月）第二號備前讃岐間海底線ノ項ハ廢止ス

右布達候事

（圖面畧之）

○第二拾四號　十一月十七日　大藏卿連名

本年(十月)第五拾壹號布告賣藥印紙稅規則施行ニ付テハ賣藥營業者ニ於テ必ス印紙ヲ貼用スヘキ筈ノ處該稅則施行以前既ニ請賣者又ハ行商者ニ渡シタル賣藥ハ此際ニ限リ請賣者又ハ行商者ニ於テ印紙ヲ貼用スルコトヲ得ヘシ

右布達候事

○第貳拾五號　十二月四日　大藏卿連名

今般大坂府下大坂第百貳拾六國立銀行鎖店申付候ニ付其發行紙幣自今通用不相成候因テ右紙幣引換方ノ儀ハ總テ大藏省ニ於テ負擔シ國立銀行及ヒ大藏省爲換方ヲシテ取扱ハセ候條右紙幣所持主ハ來ル明治十七年六月三十日限リ國立銀行又ハ爲換方ヘ申出引換ヲ請フヘシ若シ期限ヲ過キ申出サル者ハ如何ナル事情アルモ一切引換サルヘシ

右布達候事

○第貳拾六號　十二月十八日　內務卿　陸軍卿　海軍卿連名

徵發事務條例別冊之通之ヲ定ム

右布達候事

徵發事務條例

第一條　徵發事務條例ハ徵發令ニ基キ實際取扱ノ規準ヲ定ムルモノトス

第二條　陸軍若クハ海軍官憲ハ徵發區ノ大小遠近及ヒ供給力ヲ酌量シ供給ヲ受ク可キ日時ヲ豫定シテ徵發書ヲ出ス可シ

第三條　徵發書ノ書式ハ附錄第一號ノ例ニ準ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ電信ヲ以テ徵發スルコトヲ得

第四條　徵發令第三條第二項及ヒ第三項中ニ揭クル特命司令官軍團長師團長艦隊司令長官ハ時機ニ依リ其部下ノ各團長若クハ各艦隊司令官ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ分任スルコトヲ得

第五條　徵發令第三條第二項中ニ揭クル特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長第三項中ニ揭クル特命司令官艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦長ハ其獨立中ニ限リ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス故ニ師團長艦隊司令官ト雖モ軍團若クハ二艦隊以上ニ編制セラレ

タルトキハ徴發書ヲ出スノ權ナシ其軍團長若クハ艦隊司令長官ノミ之ヲ有ス

第六條　徴發令第三條第二項中ニ掲クル演習及ヒ行軍ノ軍隊長トハ諸團隊ヲ統フル長（士官以上）ヲ言ヒ艦長トハ先任艦長又ハ獨立艦長ヲ言フモノニシテ其長ノミ徴發書ヲ出スノ權ヲ有ス但陸軍演習若クハ海軍操練及ヒ航海ノ艦隊司令官トハ諸艦ヲ統フル長ハ各艦往返發著ノ地ヲ異ニスルトキハ往返中ニ限リ其團隊長若クハ艦長各自ニ徴發書ヲ出スノ權ヲ有ス

第七條　徴發ニ應ジタル人員ハ勉メテ彈丸ノ達セサル場所ニ於テ之ヲ使用ス可シ

第八條　徴發物件其徴發ヲ課セラレタル地ニ現在スルモ其所有者又ハ其支配人不在ナルトキハ戸長及ヒ隣人二人（其町村内ニ住スル親族又ハ預リ主又ハ同物品營業者ノ内ヨリ戸長ノ撰定スルモノ）立會ノ上其物件ヲ調査シ供給セシム可シ

第九條　徴發ヲ課セラレタルモノハ徴發令第十二條第六項第七項第八項第十二條第一項中造船所工作所ニ四項第五項ノ物件ハヒ第二十條ノ場合ヲ除クノ外其現在ノ所有品ヲ供給セサルモ便宜ニ從ヒ他ノ同品種ノモノヲ以テ換給スルコトヲ得其徴發ニ應ス可キ人員亦同シ

第十條　徴發書ハ徴發令第六條ニ依リ府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シト雖モ臨戰若クハ合圍ノ地ニ在テ時機切迫シタル場合ニ於テハ府縣ニ付ス可キモノヲ郡區又ハ町村ニ付シ郡區ニ付ス可キモノヲ町村ニ付シ店長ニ付ス可キモノヲ船長ニ付スルコトアル可シ

右ノ手續ヲモ爲ス能ハサル場合ニ於テハ徴發書ヲ出スノ權アル官憲ヨリ直ニ人民ニ賦課シテ徴發スルコトアル可シ但此場合ニ於テハ徴發書ヲ用ヒス本人ニ受領證票ヲ交付スルニ止ル

本條ノ場合ニ於テハ徴發ヲ行ヒタル官憲定例ノ順序ニ從ヒ府知事縣令郡區長戸長若クハ店長ニ其旨ヲ通知ス可シ

第十一條　徴發ノ命令ヲ受タルモノハ晝夜ヲ別タス速ニ其處置ヲ爲ス可シ

第十二條　徴發書ヲ受ケタル徴發區ニ於ヲ賦課ノ數ニ不足スルトキハ速ニ供給ヲ受ク

可キ官憲ニ報告ス可シ

町村ニシテ郡區長ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケ郡區ニシテ府知事縣令ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケタルトキ其賦課ノ數ニ滿ル能ハサルニ於テハ戶長ハ郡區長ニ郡區長ハ府知事縣令ニ速ニ其旨ヲ報告ス可シ但此場合ニ於テハ陸海軍官憲若クハ府縣廳郡區役所ヨリ吏員ヲ派出シ檢查セシムルコトアル可シ

郡區長府知事縣令其報告ヲ受ケタルトキハ郡區長ハ他ノ町村ニ府知事縣令ハ他ノ郡區ニ賦課シテ供給ヲ完全セシム可シ

第十三條　府知事縣令徵發令第十二條第一項ニ係ル徵發書ヲ受ケタルトキハ速ニ其賦課シタル郡區ノ名及ヒ量數ヲ陸海軍官憲ニ報告ス可シ

第十四條　府知事縣令郡區長及ヒ戶長ハ徵發令第八條ニ從ヒ徵發ニ應スル便宜ノ方法ヲ豫定ス可シ

第十五條　徵發ヲ課セラレタルモノ供給ノ時期ニ違ヒタルトキハ徵發令第九條ニ照シ處分ス可シト雖モ正當ノ事由ヲ證明シタルトキハ辨償セシムルノ限ニアラス

第十六條　徵發令第十一條ニ揭クル受領證票ハ附錄第二號雛形ニ依リ調製ス可シ

第十七條　受領證票ハ徵發令第十二條第一項第五項ノ物件及ヒ總テ買上ケニ屬スル物件ニ係ルトキハ領收ノ際直ニ之ヲ交付ス可シ其他ハ徵用濟ノ後之ヲ交付ス可シ但徵用濟ノ後交付スル場合ニ於テハ同令第十二條第四項第七項第八項第十三條第一項中造船所工作所第四項及ヒ第五項ニ揭クル者ヲ除クノ外當初領收ノ際假受領證ヲ交付ス可シ

第十八條　徵發令第十二條第二項第三項及ヒ第十三條第二項ニ揭クルモノヲ宿泊セシメタル連日使用シ若クハ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキ幷ニ同令第十二條第六項ニ揭クルモノ（艀船及ヒ船橋ヲ除ク）ヲ借切トシテ徵用スルトキハ特ニ本人若クハ操業者ニ受領證票ヲ交付スルコトアル可シ

第十九條　徵用十五日以上ニ及フモノハ一個月ニ一回若クハ二回期ヲ定メテ受領證票ヲ交付ス可シ

第二十條　徵發令第十二條第一項ニ揭クルモノ、徵發ヲ賦課スルハ其物品ノ營業者ヲ先トシ尙ホ完全セサルトキニ限リ他ノ人民ニ賦課ス可シ其賦課ニ就テハ其地方及ヒ

所有者ナシテ困乏ニ陥ヒラサラシムルタメニ相當ノ分量ヲ各所有者ノ許ニ殘シ置クヲ可シ其分量ハ其地運送ノ便否及ヒ生計ノ現況ヲ酌量シテ之ヲ定ムヘシト雖モ此ニ其最下限ヲ定ムルコト左ノ如シ

一營業者所有ノ物品ハ徴發書ノ日付ヨリ前十日間ニ其府縣内ニ賣排セル量但所有者ノ帳簿ニ基キ算定スヘシ

二他ノ人民所有ノ物品ハ其一家ニ要スル十日間ノ量

三秣藁ハ其家畜ニ要スル七日間ノ量

第二十一條　郡區長ハ附錄第三號雛形ニ依リ毎年一月一日調ヲ以テ徴發物件表ヲ製シ之ヲ府縣廳ニ差出シ府縣廳ハ其年三月三十一日限リ之ヲ陸軍省ニ送付スヘシ

第二十二條　郡區長ハ物件表ノ副本ヲ其役所ニ備ヘ戸長ハ町村ニ係ル書類ヲ其役場ニ備ヘ置キ物産ヲ除クノ外增減ヲ記シ供給ノ便宜ニ供スヘシ

第二十三條　徴發物件表ハ左ノ諸項ニ照シ調製スヘシ

一馬四車輛ハ其郡區内ニ於テ登時實用ヲ爲スモノ

二人夫ハ其郡區内ニ於テ負擔ニ係ル業体ヲ爲ス者ニメ年齢十七歳ヨリ六十歳迄ノ者

三廐圏倉庫ハ貸廐貸庫ニ限ル

四職工ハ總數ヲ表中ニ掲ケ備考中ニ就キ其業体ヲ分チ記スヘシ

五官廨社寺學校屠場水車場ノ坪數ハ調査ニ及ハス

六物産中米麥等ノ如キハ其高ヲ記スヘシ

七郵便局アル町村ニハ◎電信分局ハ田其線路ハ二鐵道ハ一ノ符號ヲ記スヘシ

第二十四條　府知事縣令ハ郡區長ヨリ受ケタル徴發物件表ニ照シ附錄第四號雛形ニ依リ其管下ニ係ル徴發物件概覽表ヲ製シ各郡區徴發物件表ト共ニ陸軍省ニ送付スヘシ

第二十五條　戸長ハ附錄第五號雛形ニ依リ毎年一月一日調ヲ以テ船舶表ヲ製シ郡區長ヲ經テ之ヲ府縣廳ニ差出シ府縣廳ハ其年三月三十一日限リ之ヲ海軍省ニ送付スヘシ

第二十六條　徴發令第十二條第二項第六項第七項ニ掲クルモノハ總テ使用ノ爲メニ必用ナル屬具ニ併セテ供給スヘキ者トス故ニ其屬具ニ對スル賠償ヲ請求スルヲ得ス

第二十七條　徵發令第十二條第六項ニ掲クル船舶中郵便船ニ限リ其通信ノ用ニ供スル間ハ之ヲ借切ルコトヲ得ス又出船ノ定期若クハ航路ヲ變シテ徵用スルコトヲ得ス

第二十八條　徵發令第十八條中居住者ノ起臥ニ必用ナル場所トハ寐所及ヒ庖廚ヲ指シ營業ニ必用ナル場所トハ商店ノ店舗農工ノ仕事場ヲ言フ又旅店等トハ料理店貸坐敷貸廐等ヲ包含ス

第二十九條　宿舍ノ廣狹ハ徵發令第十九條ニ從ヒ臨時ニ定ムルモノナリト雖モ戸長ニ於テ徵課ノ際標準ト爲ス可キモノヲ概定スルコト左ノ如シ

一廨署　陸海軍官憲ヨリ指示スル所ノ室若クハ家屋

二將官其參謀ト共ニ　一家屋　三上ノ官又ハ同等軍屬一名　一室

四士官又ハ同等軍屬二名　一室　五下士又ハ同等軍屬一名　一疊半乃至二疊

六卒又ハ同等軍屬一名　一疊乃至一疊半　七徵發ニ應シタル人員三名　二疊

第三十條　戸長ハ陸海軍ノ宿割主任官ニ商議シテ適宜ニ宿舍ノ配當ヲ定ム可シ

第三十一條　徵發令第二十一條ニ從ヒ町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許サスト雖モ若シ該家ニ病者死者等アルトキハ戸長他ニ相當ノ宿舍ヲ設ケテ轉移ヲ請求スルコトヲ得但之カ爲メ徵發令第二十二條ニ掲クル日限ヲ更新スルモノニアラス

第三十二條　徵發令第二十二條ニ從ヒ人馬ニ供給ス可キ食飼ノ定量大率ヲ左ノ如シト雖モ陸海軍給與ノ規則ニ由リ定量以內ヲ以テ臨時ニ變換或ハ減少スルコトアル可シ

一人　精米每食二合　朝夕飯一汁一菜漬物　午飯一菜漬物

二馬　駐軍中　朝大麥二升秣蒭五百目喰藁百五十目　晝秣蒭五百目喰藁百五十目

夕大麥二升秣蒭五百目藁喰二百目

演習及ヒ行軍中　朝大麥二升秣蒭五百目　晝大麥一升　夕大麥二升秣蒭一貫

喰藁五百目

小麥ヲ大麥ニ喰藁ヲ秣蒭ニ代用スルトキ　朝小麥一升喰藁一貫目　晝小麥五合　夕小麥一升五合喰藁二貫目

搗麥又ハ裸麥ヲ大麥ニ喰藁ヲ秣蒭ニ代用スルトキ　朝搗麥又ハ裸麥一升喰藁一貫目　晝搗麥又ハ裸麥一升　夕搗麥又ハ裸麥二升喰藁一貫目

寢藁ハ軍馬一頭ニ付一日一貫目ヲ要スルモノトス

第三十三條　宿舍ノ徵發ヲ課セラレタル者ハ室内所要ノ燈火並ニ其地ノ慣用ニ從ヒ地爐若クハ火鉢(薪炭共ニ)毎室ニ一個ヲ給ス可シ其賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含ス

第三十四條　寢具ノ徵發ニ係ル賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含セス徵發令第四十八條ニ從ヒ賠償ス

第三十五條　宿舍ノ徵發ヲ課セラレタルモノ(公有家屋社寺亦同シ)食飼ニ供ス可キ物品又ハ手傳人不足シ供給ヲ爲シ能ハサルノ証アルトキハ戸長ニ於テ賄ノ受負ヲ立ツル歟若クハ物品及ヒ手傳人ヲ其本人ニ供スル等ノ取扱ヲ爲シ其方法ハ本條例第十四條ニ准ス可シ

第三十六條　町村ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ニ要スル食飼ノ物品不足スルトキハ戸長ニ於テ其物品ヲ供ス可シ但航海先ニ於テハ本條例第三十七條ニ准シテ處分ス可シ

第三十七條　會社ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ノ食飼ヲ供給スルコト能ハサルヲ証明スルトキハ現品ヲ官給シ其費用ハ賠償金ヲ以テ差引ヲ立ツ可シ

第三十八條　食飼ノ定賃ナキ船舶ヲ徵用シ船主船長ヲシテ其食飼ヲ供給セシムルトキハ陸海軍官憲ニ於テ其時々賠償金額ヲ定ム可シ其借切トシテ徵用シタルトキ亦同シ

第三十九條　徵發物件ノ差出場所ハ各徵發區内ニ設クルヲ定例トス但府縣ヲ以テ徵發區ト爲スモノヽ差出場所ハ賦課セラレタル郡區ニ一個所若クハ二個所ヲ設ク可シ差出場所ハ陸海軍官憲之ヲ指定ス

第四十條　徵發區ハ徵發令ヲ第十條ニ從ヒ徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルノ義務アルヲ以テ之カ爲メニ生シタル費用ハ其區ノ負擔トス可キモノトス

第四十一條　郡區長ハ徵發人馬ノ供給便宜ニセンカ爲メ豫テ隣郡區長ト商議シ近傍町村ヲ適宜ニ割合ヒ組合町村ヲ定ムルヲ得

第四十二條　賠償金請求ノ月日及ヒ場所ハ供給ヲ受ケシ陸海軍官憲ヨリ之ヲ其府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ指示ス可シ

第四十三條　府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ附錄第六號ノ例

ニ准シ賠償金計算書ヲ調製シ陸海軍官憲ヨリ交付ノ受領証票ヲ添ヘ其請求ヲ爲スヘシ但徴發令第三十六條及ヒ第三十八條ニ掲クルモノアルトキハ其計算書ニ別項ヲ設ケテ差引ヲ立ツヘシ又評價ニ屬スル件目ノ賠償ハ別途ニ支給スルヲ以テ該件目ニ就テハ評價ノ二字ヲ記載スヘシ

第四十四條　徴發令第三十一條ニ定ムル三個月ノ期限ハ受領証票ヲ交付シタル月ヨリ記算ス但陸海軍官憲ヨリ指示セシ請求ノ月日若クハ場所ヲ其請求者ニ於テ誤リタル爲メ又ハ賠償金計算書ノ遡算若クハ不合式ニ依リ推問往復ノ爲メニ消費シタル時日ハ算入セス

第四十五條　徴發令第十二條第二項及ヒ第三項ノ徴發ニ係ルモノヲ終日若クハ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ使用スルトキハ日割ヲ以テ賠償シ其他ノ場合ニ於テハ里程ニ應シテ賠償ス

若シ差出場所ニ集合シタルモノ官ノ都合ニテ不用トナリタルトキハ日割ヲ以テ賠償ス可キモノハ半日分ヲ給シ里程ニ應シテ賠償スヘキモノハ其半額ヲ給ス

第四十六條　徴發物件ノ毀損シタルトキハ徴發令第三十三條ニ從ヒ其使用ヲ主管スル陸海軍官憲ニ届出可シ若シ引渡ヲ受ケタル後毀損ヲ發見セシトキハ其引渡ヲ爲セシ陸海軍官憲ニ届出可シ其官憲既ニ出發セシトキハ戸長ニ届出可キモノトス

第四十七條　毀損ノ届出ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ直ニ之ヲ調査シ其毀損果シテ使用ニ因リ生シタルモノト檢定シタルトキハ其賠償金額ニ就キ供給者ト商議ス可シ若シ調和セサルトキハ評價委員ニ付ス可シ

戸長若シ毀損ノ届出ヲ受ケタル時ハ直ニ之ヲ檢査シ其調査書ヲ作リ（供給者ノ請求金額アルモノハ之ヲ添フ）其關係ノ陸海軍官憲ニ差出ス可シ但調査書ニハ毀損ノ事由實況幷ニ請求金額ニ係ル自己ノ意見ヲ記ス可シ

第四十八條　徴發令第三十三條ニ掲クル期日ヲ超エタル届出ハ之ヲ受理スヘカラス但變災厄難ニ罹リタルノ確證アルモノハ其變災厄難ヲ免レタル時ヨリ期日ヲ算ス可シ

第四十九條　徴發令第三十四條ニ從ヒ府知事縣令ハ其管下市場三ケ所以上ノ前三年間ノ平均價表ヲ第七號雛形ニ依リ調製シ毎年三月三十一日限リ陸軍省ニ差出スヘシ

第五十條　徵發令第三十五條中平常ノ賃價トアルハ戰時若クハ事變ノ際シテハ勿論演習又ハ行軍ノ際ニ於テモ之カ爲メ臨時ニ騰貴セサル以前ノ賃價ヲ言フ

徵發令中平常ノ賃價トアルモノハ皆此例ニ依ル

第五十一條　徵發令第三十五條及ヒ第三十八條ニ揭クル平常ノ賃價雇賃借賃ハ郡區長確認ノ上供給ヲ受クル所ノ陸海軍官憲ニ申出可シ

其他徵發令中ニ揭クル平常ノ賃價損料及ヒ代價ハ戶長ヨリ陸海軍官憲ニ申出可シ

第五十二條　徵發令第三十九條ニ從ヒ陸海軍省ニ於テ定ムル可キ所ノ賠償金ハ兩省同額タルヘシト雖モ本條例第三十二條ニ從ヒ臨時ニ食饌ノ定量ヲ變換若クハ減少スルニ於テハ其現量ニ從ヒ賠償ス可シ

第五十三條　徵發令第四十二條中航泊實費トハ石炭油脂其他日用消耗品ノ航泊中現ニ消耗シタルモノヽ代價ニシテ其物品ヲ船舶ニ積入レタルトキノ現價ニ依リ計算ス可キモノトス

第五十四條　徵發物件ノ毀損其使用ノ爲メニ非サルモノ及ヒ操業者ノ過失ニ出ルモノハ賠償セス但船舶ヲ借切トシテ徵用シタルトキノ毀損ハ總テ之ヲ賠償ス

第五十五條　評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲ニ名徵發區ニ從ヒ府縣郡區吏員若クハ戶長一名及ヒ其町村（評價ヲ爲ス場所）ノ住民ニシテ其事件ニ熟達シタルモノ（若シ熟達シタルモノナキトキハ他町村ノ住民ヲ用ユルモ妨ケナシ）二名若クハ四名ヲ以テ編制シ其評價ハ多數ニ依テ決ス

鎭道曾社船舶會社ニ屬スルモノ及ヒ大演習ノ爲メニ生シタル地所ノ損害ニ係ル評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名府縣吏員一名及ヒ其事件ニ熟達シタル人民二名若クハ四名ヲ以テ編制ス

第五十六條　評價委員ニ撰用スヘキ人民ハ其事件ニ關係ナキモノニシテ地方吏員若クハ戶長ニ於テ撰舉スヘキモノトス

其撰舉セラレタルモノハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルヲ得ス

第五十七條　其撰舉セラレタルモノニハ陸軍若クハ海軍ヨリ該府縣會議員ト同一ノ旅

費日當ヲ給ス可シ

第五十八條　評價ノ爲メ府縣郡區吏員若クハ戸長ノ派出ヲ要スルトキハ其事件ニ關係ノ陸海軍官憲ヨリ之ヲ府知事縣令郡區長若クハ戸長ニ通達ス可シ

第五十九條　評價ノ方法ハ評價スヘキモノヽ種類ニ從ヒ精密ニ調査シ其價額ヲ評定スルヲ要トス左ニ地所損害ニ關スル評價ノ一例ヲ掲ク

演習ノ爲メ地所ノ損害ヲ屆出タルトキハ評價委員ニ於テ實況ヲ査覈シ其請求スル所ノ賠償金額ノ當否ヲ審ニシ相當ナルトキハ直ニ之ヲ認可シ若シ其請求ノ金額定マラス或ハ過當ナリト認ムルトキハ實測スヘシ

評價委員ハ評價畢ルノ後左ニ掲クル要目ニ准シ所有主毎ニ評價明細書ヲ製ス可シ

一　評價ノ事項及ヒ事由　　二　委員ノ氏名

三　地面ノ廣袤ハ何ヲ以テ定メタルヤ（何圖面何書類ニ依リタル歟又ハ實測シタル歟）金額ノ算出ハ如何ナル方法ニ依リタルヤ（其季ノ收穫皆無タルニ依リ其植物ノ前何年平均ヲ以テ賠償金ヲ定メタル歟其損害ノ度幾分ニ止マリ其幾分ニ係ル賠償金額ヲ全部收穫ノ前何年平均額ヨリ算出シタルカ植物生熟ノ度ニ從ヒ其平均收穫量ニ應シ賠償ス可キ金額中ヨリ幾分ノ手間賃及ヒ肥料ヲ扣除シタル歟又永存ノ草木ニシテ毎年收穫アルモノ損害ヲ受ケタルトキハ其損害ノ收實ニ止マルト枝幹ニ係ルモノトニ從ヒ一年若クハ幾年分ノ收穫ヲ見込ミ賠償金額ヲ定メタル歟ノ類）

第六十條　評價委員ハ評價明細書ヲ製シ府知事縣令郡區長若クハ戸長ニ交付スヘシ府知事縣令郡區長若クハ戸長ハ其明細書ニ依リ賠償金計算書ヲ作リ陸海軍官憲ノ指示スル場所ニ就テ賠償金額ヲ請求ス可シ

附錄　第一號ノ一

徵發書

一宿舍　廨署用　將官幾人　上長官幾人
　　士官幾人　下士幾人　兵卒幾人

右ハ某月某日ヨリ某月某日迄徵用

一廐圉　　幾匹分

右、、、　幾坪
一倉庫
右、、、　幾艘
一艀船
右、、、
一何々
右、、、
前書ノ通徴用候條其町（村）ニ於テ遷滞ナク供給可致事
年　月　日
某府（縣）某郡（區）
某町（村）戸長役場宛
何々長官姓名印
備考　徴發書ノ料紙ハ美濃罫紙タル可シ
附錄　第一號ノ二

徴發書
一人夫　幾人
右内
幾人ハ某月某日時某地ニ差出シ某地迄徴用
幾人ハ某月某日時某所ニ差出シ幾日間徴用
一駄馬　幾匹　馬士共
右内
幾匹、、、
幾匹、、、
一何々
右内
何、、、
一何々

右內

何、、、

前書ノ通徵用候條其郡(區)ニ於テ遲滯ナク供給可致事

年　月　日　　何々長
　　官姓名印

某府(縣)

某郡(區)役所宛

附錄　第一號ノ三甲

徵發書

一瀛船　　船名

一西洋形風帆船　　船名

右某月某日ヨリ借切徵用候條某港ニ於テ遲滯ナク供給可致事

年　月　日　　何々長
　　官姓名印

某會社某地店長宛



附錄　第一號ノ三乙

徵發書

一將校並同等官　　幾名

一下士卒並同等　　幾名

一馬　　幾匹

一車　　幾輛

一荷物略計　　幾噸

右ハ某月某日某港出帆ノ何號船ヲ徵用シ(又ハ其社所有ノ何號船ヲ徵用シ某月某日某港出帆)某港ニ運送爲致候條遲滯ナク供給可致事

年　月　日　　何々長
　　官姓名印

某會社某地店長宛

附錄　第一號ノ四

徵發書

一上等　幾名内幾名ハ某地迄餘ハ某地迄
一中等　幾名内、、、
一下等　幾名内、、、
一馬　幾匹内幾匹ハ某地迄餘ハ某地迄
一車　幾輛内幾輛ハ、、、、
一荷物略計　幾噸内幾噸ハ、、、、

右ハ通常（特別）汽車ヲ徴用シ某月日時發車ヲ以テ某地ヘ運送候條遲滯ナク供給可致事

年　月　日

何々長
官姓名印

鐵道會社某地停車場長宛

附錄　第一號ノ五

徴發書

一玄米　幾百石
一精米　幾拾石
一薪　幾貫目
一何々　、、
一何々　、、

右徴用候條某月某日限リ供給ス可キ者也

年　月　日

何々長
官姓名印

某府（縣）宛

附錄　第一號ノ六

徴發書

一某府（縣）某郡（區）某町（村）近傍

右某月某日演習ノ爲メ徴用候事

年　月　日

何々長
官姓名印

某町（村）戸長役場宛

附錄　第二號ノ一

受領証票

一宿舎　廨署用　将官幾人　上長官幾人
　士官幾人　下士幾人　兵卒　幾人
右ハ某月某日ヨリ某月某日迄徴用

一廐圍　幾匹分
右ノ通

一倉庫　幾坪
右ノ通

一艀船　幾艘
右ノ通

何々長官姓名印

前書ノ通徴用候也

年月日

某府（縣）某郡（區）某町（村）戸長役場宛

備考　受領証票ハ総テ存留証票ノ式タル可シ

附録　第二號ノ二

受領証票

一人夫　幾人
右内
幾人ハ某月某日時某地ヨリ差出シ某地迄徴用
幾人ハ某月某日時某所ヨリ差出シ幾日間徴用

一馬　幾匹　馬士共
右内
幾匹ノ通
幾匹ノ通

一何々
　右内
　　何、、、、
一何々
　右内
　　何、、、、
前書ノ通徴用候也
　年　月　日

某府（縣）
某郡（區）役所宛

何々長
官姓名印

附錄　第二號ノ三甲
　受領證票
一瀛船　　船名

一西洋形風帆船　　船名
右ハ某月某日ヨリ某月某日迄借切徴用
前書ノ通徴用候也
　年　月　日

某會社某地店長宛

何々長
官姓名印

附錄　第二號ノ三乙
　受領証票
一將校幷同等官　　幾名
一下士卒幷同等　　幾名
一馬　　幾匹
一車　　幾輛
一荷物容計　　幾噸
右ハ某月某日某港出帆ノ何號船ヲ某月某日某港迄徴用

前書ノ通徴用候也

年　月　日

某會社某地店長宛

何々長
官姓名印

附錄　第二號ノ四

受領証票

一上等　幾名内幾名ハ某地迄餘ハ某地迄
一中等　幾名内、、、
一下等　幾名内、、、
一馬　幾匹内幾匹ハ某地迄餘ハ某地迄
一車　幾輛内幾輛ハ、、、
一荷物雑計　幾噸内幾噸ハ、、、

右ハ某月某日時通常（特別）滊車徴用前書ノ通徴用候也

年　月　日

鐵道會社某地停車場長宛

何々長
官姓名印

附錄　第二號ノ五

受領証票

一玄米　幾百石
一精米　幾拾石
一薪　幾貫目
一何々　、、
一何々　、、

前書ノ通徴發候也

年　月　日

某府（縣）宛

何々長
官姓名印

○第貳拾七號　十二月二十日　大藏卿連名

印紙類賣捌手續別紙ノ通相定明治十六年一月一日ヨリ施行ス

但從前賣捌免許ヲ受ケタル者ハ當分ノ內是迄ノ通心得ヘシ

右布達候事

印紙類賣捌手續

第一條　印紙類ノ賣捌ハ陸軍恩給令海軍退隱令巡查看守給助例ニ依リ恩典ヲ受ケル者ニ限リ之ヲ許可スヘシ

但賣捌ノ出願者少クシテ需要人ニ支障ヲ生スル地方ニ於テハ當分從前ノ手續ヲ以テ許可スヘシ

第二條　印紙類ノ賣捌ヲ爲サントスル者ハ其管地方廳ニ願出ヲ賣捌所看板ヲ受ケヘシ

第三條　此手續ニ依リ賣捌クヘキ印紙類左ノ如シ

一　證券(印界)紙

一　訴訟用罫紙

一　煙草印紙

一　賣藥印紙

第四條　印紙類代金ハ其拂下渡ヲ乞フ時三分ノ一ヲ納其餘ハ左ノ期限ニ從ヒ納ムヘシ

第一期　二月二十八日限

第二期　五月三十一日限

第三期　八月三十一日限

第四期　十一月三十日限

第五條　賣捌手數料ハ賣捌代金高十分ノ一ヲ支給スヘシ

第六條　賣捌人ハ保証人ヲ立テ第四條ノ期限ニ從ヒ印紙類代金ヲ納ムルハ勿論印紙類ヲ亡失又ハ損傷スルモ該代金ハ辨納スヘキ旨ヲ記載シタル証書ヲ作リ保証人連署ノ上之ヲ地方廳ニ差出スヘシ

但避ク可カラサル事變ニ遭遇シタル者ハ事狀ヲ具シテ處分ヲ乞フヘシ

第七條　賣捌人思典ノ定期盡キタル時又ハ其停止ヲ受ケタル時又ハ廢業シタル時ハ第四條ノ期限ニ關セス其賣捌殘餘ノ印紙類及ヒ賣捌代金ヲ完納スヘシ

但賣捌所看板ハ其節之ヲ返納スヘシ

第八條　印紙類ノ損傷汚染シタルモノアル時ハ其代價百分ノ五ノ金額ヲ添ヘテ返納ヲ許スコトアルヘシ

○第貳拾八號　十二月二十一日　大藏卿連名

今般第五拾壹號ヲ以賣藥印紙稅則布告候ニ付テハ印紙別紙見本ノ通相定ム（見本畧ス）

右布達候事

○第貳拾九號　十二月二十二日　農商務卿連名

今般大坂府下ヘ海員試驗所ヲ設置シ內國人ニ限リ毎月第二第四ノ火曜日ヲ以テ試驗執行候條志願ノ者明治十四年（十二月）第一號布達西洋形船船長運轉手機關手試驗規程ニ依リ仝所ヘ願出ツヘシ

但開場日限ノ儀ハ農商務省ヨリ廣告スヘシ

右布達候事

○第三拾號　十二月廿八日

明治九年二月朝鮮國ト取結ヒタル修好條規第五款ノ旨趣ニ從ヒ兩國人民通商ノ爲メ朝鮮國ニ於テ開クヘキ二港ノ內京畿道仁川開港相成候條明治十六年一月以後該港ヘ渡航通商スルヲ得ヘシ

但該地渡航ノ者ハ明治九年(十月)第百廿八號第百廿九號布告ニ從フヘシ

右布達候事

明治十五年 官令全書

○太政官達之部

○第壹號 一月十日 官省院使廳府縣

明治九年(五月)第五十三號達官舍貸渡規則第二條中修繕費ノ爲メ其廳ニ備置ク分ハ會計法第三十一條ニ拘ハラス從前ノ通可相心得此旨相達候事

但該金額ハ据置例ニ倣ヒ官舍宿代金ノ目ヲ設ケ出納勘定帳中ニ編入候儀ト心得ヘシ

○第貳號 一月十一日 府縣(沖繩縣ヲ除ク)

各府縣經費ノ內屬官俸給廳費史誌編輯費招魂社費神社費ノ五項自今豫算帳大藏省ヘ不及差出此旨相達候事

○第三號 一月十二日 官省院使廳府縣

神官職員中左ノ官等被置候條此旨相達候事

權宮司 相當 七等 月俸 二十五圓

○第四號 一月十二日 官省院使廳府縣

明治十四年(四月)第三十四號達歲入科目ノ內左ノ通加除更正候條此旨相達候事

地稅小科目市街地稅ノ次ヘ(鹽田稅)ノ一科目ヲ設ケ山林原野牧場稅ノ科目ヲ(山林原野牧場及ヒ雜種地稅)ト改ム

郵便稅ノ小科目外國郵便逓送料ノ項ヲ削除ス

大科目賣藥稅ヲ(賣藥營業稅)ト改ム該小科目ノ二項ヲ削ル

○第五號　一月十六日　官省院使廳府縣

明治十四年(四月)第三十三號達會計法及ヒ第三十五號達會計檢查院職制章程別冊ノ通改定候條此旨相達候事

## 會計法

### 第一章　總則

第一條　會計ハ豫算ニ起リ之ニ據テ出納ノ決算ニ結了ス

第二條　會計ハ其年七月一日ニ起リ翌年六月三十日ニ終ル之ヲ一週年度トス

第三條　會計ヲ大別シテ常用準備ノ二種トス

第四條　常用ハ歲入ト歲出トニ區分シ歲入歲出各別ツテ經常臨時ノ二部トス

第五條　歲入科目ヲ分ツ大科目小科目トス

但科目ノ解疏ハ明治十四年(四月)第三十四號ニ據ルヘシ

第六條　歲出科目ヲ分テ大科目中科目小科目細科目トシ細科目中附スルニ細節ヲ以テス

但科目ノ解疏ハ明治十二年(十二月)第五十號達ニ據ルヘシ

第七條　準備ハ別段ノ規則ニ依リ大藏卿之ヲ管理ス

第八條　各廳ニ於テハ歲入ヲ以テ直ニ歲出ニ移用シ若シハ甲年ノ收支ニ係ル金額ヲ以テ乙年ノ收支ニ混用スルヲ得ス

### 第二章　歲入出豫算

第九條　歲入中租稅豫算調書ハ大藏省ニ於テ其徵收ノ任アル各廳ノ豫算明細書ニ據リ更ニ之ヲ調製シ其他諸收入豫算調書ハ各廳ニ於テ之ヲ調製シ府縣屬ノ經費ニシテ諸省之ヲ管理スルモノハ其府縣ノ豫算明細書ニ據リ管理廳之ヲ調製スヘシ

第十條　歲出中各廳所管ノ經費豫算調書ハ各廳ニ於テ之ヲ調製シ府縣屬ノ經費ニシテ

第十一條　歳入出豫算調書ハ各科目ニ就キ其員額ヲ掲載シ前々年度ノ實額及ヒ前年度ノ豫算額ヲ傍記スヘシ

第十二條　各廳ハ豫算調書調製ノ上前年度十二月二十日迄ニ其廳ヲ發シ之ヲ大藏省ニ送附スヘシ

第十三條　大藏省ハ各廳豫算調書ヲ以テ統計豫算書ヲ調製シ大藏卿意見書ヲ添ヘ各廳豫算調書ト共前年度五月五日迄ニ之ヲ太政官ニ進達スヘシ

第十四條　太政官ニ於テハ大藏省進達ノ豫算書類ニ就キ之ヲ審議シ前年度六月五日迄ニ其豫算ヲ決定スヘシ

第十五條　太政官ニ於テ前條豫算決定ノ上ハ之ヲ各廳ニ布達スヘシ

第十六條　各廳ニ於テ豫算上決定シタル小科目已上ノ費額ヲ彼此流用セントスルトキハ大藏省ノ承認ヲ受ケヘシ大藏省ニ於テ之ヲ承認シタルトキハ會計檢査院ニ通知スヘシ但事務ノ輿廢伸縮ニ係ルモノハ大藏省ヲ經由シテ太政官ノ許可ヲ請フ可キモノトス

第十七條　各廳ニ於テ豫算外臨時增費ヲ要スルトキハ其事由ヲ詳具シ大藏省ヲ經由シテ太政官ノ決裁ヲ請フヘシ但大藏省ハ其申牒ニ意見書ヲ添付スヘシ

第十八條　府縣ニ於テ豫算外臨時增費ヲ要スルトキハ其事由ヲ大藏省ニ具申シ大藏省ハ之ヲ太政官ニ具申シテ其決裁ヲ請フヘシ

第十九條　太政官ニ於テ各廳豫算外臨時增費ヲ許可シタルトキハ之ヲ大藏省及ヒ會計檢査院ニ達スヘシ但府縣ノ分ハ大藏省ヨリ會計檢査院ニ通知スヘシ

第二十條　各廳ニ於テ歳入豫算上ニ增減ヲ生スルトキハ每三ケ月之ヲ大藏省ニ通知シ大藏省ハ之ヲ太政官ニ上申シ會計檢査院ニ通知スヘシ

## 第三章　金錢出納

第二十一條　各廳ニ於テ出納スヘキ現金ハ大藏省ニ於テ管守スヘキモノトシ大藏省ハ便宜之レヲ各廳ニ委托スルヲ得ヘシ

第二十二條　各廳ノ出納ハ其長官ヨリ收支ノ命令ヲ其會計主務官吏ニ下シ會計主務官吏ニ於テ切符ヲ以テ其收支ヲ執行スヘシ但恒例ノ出納ハ其時々命令ヲ要セス會計主

務官吏ニ於テ其収支ヲ執行スルヲ得

第二十三條　國庫ノ出納ハ別段ノ條規ニ依リ大藏卿之ヲ管理ス

第二十四條　歳入ハ其法律規程ニヨリ之ヲ収入スヘシ

第二十五條　歳出ハ其豫算ニ基キ通常ノ費途ニ限リ各廳及ヒ東京府ハ其年額ヲ十二分シ使府縣及ヒ在外公館ハ之ヲ四分シ其他ハ實際支出スヘキ時ニ臨ミ大藏省ヨリ之ヲ交付スヘシ

第二十六條　大藏省出納局長ハ毎一月其出納スル所ノ金員科目及ヒ事要ヲ摘記シタル収支現計書ヲ作リ翌月七日迄ニ之ヲ會計檢査院ニ報告スヘシ

第二十七條　各廳會計主務官吏ハ毎一月其出納スル所ノ金員科目及ヒ事要ヲ摘要シタル収支現計書及ヒ報告書ヲ作リ翌月七日迄ニ之ヲ大藏省ニ報告スヘシ

第二十八條　各廳ニ於テ一ノ會計主務官吏ノ所管中其出納ヲ異ニスル各部局アルモノハ前條ニ依リ収支現計書及ヒ報告書ヲ送達セシメ到着後五日以内ニ會計主務官吏之ヲ大藏省ニ報告スヘシ但在外公館ハ毎三ケ月ニ區分シ翌月中其廳ヲ發遣スヘシ

第二十九條　各廳ニ於テ出納閉鎖ノ期迄ニ若シ収支ノ決算ニ至ラサルモノアルトキハ其事由ヲ大藏省ニ開申シ翌年度ニ於テ其決算ヲ爲スヘシ

第三十條　各廳ニ於テ決算上殘餘アルトキハ之ヲ大藏省ニ還納スヘシ

但別段ノ規則アルモノハ此限ニアラス

第三十一條　各廳ニ於テ諸建築等ノ事業ニ就キ特ニ定メタル金額アルモノ其會計年度内ニ若シ豫算ノ如ク竣成ニ至ラサルトキハ大藏省ノ承認ヲ得テ該年度後三ケ月間其金額ヲ使用スルヲ得

第三十二條　歳入出決算上ニ於テ歳入ニ殘餘ヲ生セシトキハ之ヲ準備金ニ繰入スヘシ

第三十三條　出納ハ會計年度經過後八ケ月ヲ限リ之ヲ閉鎖スヘシ但閉鎖後ト雖ニ會計檢査院ノ計算檢査上ヨリ出納ヲナスハ此限ニアラス

第三十四條　金錢出納ノ記簿ハ復記式ニ據リ日記簿原簿現金受拂簿(傳票算盤)ヲ作リ該廳ノ出納ハ總テ之ヲ記入スル者トス

第三十五條　記簿ハ金錢ヲ出納スヘキ証書ニ據リ之レカ記入ヲナスヘシ

第三十六條　各廳ニ於テ日記簿現金簿受拂繰越豫算簿ヲ取捨シ及ヒ其式樣ヲ更變シ若シハ補助簿ヲ設クルトキハ大藏省ノ承認ヲ請フヘシ大藏省ニ於テ之ヲ承認シタルトキハ會計檢查院ニ通知スヘシ但大藏省國庫出納ノ記簿ハ會計檢查院ノ承認ヲ請フヘシ

〔十五年第六十九號達〕
〔テ以下文中刪除〕

## 第四章　歲入出決算

第三十七條　大藏省租稅局長及ヒ關稅局長ハ每會計年度租稅決算帳ヲ調製シ翌年度四月三十日迄ニ之ヲ會計檢查院ニ證明シ其認可ヲ請フヘシ

第三十八條　大藏省國債局長ハ每會計年度國債償還利子仕拂賃付金返納ノ決算帳ヲ調製シ翌年度四月三十日迄ニ之ヲ會計檢查院ニ證明シ其認可ヲ請フヘシ

第三十九條　大藏省出納局長ハ每會計年度ニ屬スル國庫出納ノ決算帳ヲ調製シ翌年度四月三十日迄ニ之ヲ會計檢查院ニ證明シ其認可ヲ請フヘシ

第四十條　各廳會計主務官吏ハ每會計年度收入經費決算帳ヲ調製シ翌年度四月三十日迄ニ之ヲ會計檢查院ニ證明シ其認可ヲ請フヘシ

第四十一條　會計檢查院ハ翌々年度四月迄ニ各廳ノ決算ヲ審查判定シ其認可狀ヲ宣告スヘシ但認可ナキトキハ之ヲ大藏省ニ通知スヘシ

第四十二條　各廳長官ハ每會計年度歲入出決算報告書ヲ調製シ翌々年度五月三十一日迄ニ其廳ヲ發シ之ヲ大藏省ニ送付スヘシ

第四十三條　大藏卿ハ每會計年度國庫歲入出總決算報告書ヲ調製シ各廳長官決算報告書ト共ニ太政官ニ通達シ太政官ハ會計檢查院ニ下シテ之ヲ證明セシメ大藏省及ヒ各廳ノ長官ニ向テ認可ノ旨ヲ達スヘシ

## 第五章　雜則

第四十四條　大藏省ニ於テハ每會計年度間國債額準備金起業基金中央備荒儲蓄金貸付金抵當品鑄造貨幣交換豫備紙幣廢紙幣公債証書等ノ增減及ヒ種類ノ內譯表ヲ翌年度九月迄ニ調製シ之ヲ太政官ニ進達シ太政官ハ會計檢查院ニ下シテ之ヲ證明セシメ大藏卿ニ向テ認可ノ旨ヲ達スヘシ

第四十五條　作業費ノ出納ハ興業費ト營業費トニ區分シ興業費ハ通常經費ノ制ニ依リ

營業費ハ其資本トシテ之ヲ据置クヘシ

第四十六條　各廳ニ於テ官金ノ棄捐ヲ要スルトキハ其事由ヲ詳具シ大藏省ヲ經由シテ太政官ノ決裁ヲ乞フヘシ但大藏省ハ其申牒ニ意見書ヲ添付スヘシ

第四十七條　府縣ニ於テ官金ノ棄捐ヲ要スルトキハ其事由ヲ大藏省ニ具申シ大藏省ハ之ヲ太政官ニ具申シテ其決裁ヲ乞フヘシ

第四十八條　太政官ニ於テ會計ニ關スル事項ヲ決裁シタルトキハ其都度之ヲ大藏省及ヒ會計檢査院ニ達スヘシ

第四十九條　各廳ノ會計規程ハ大藏省ヲ經由シテ太政官ノ決裁ヲ乞フヘシ

會計檢査院職制

長　相當　二等

本院ノ官吏ヲ統率シテ主事ノ事務ヲ總理ス本院官吏ノ進退黜陟奏任以上ハ之ヲ具狀シ判任以下ハ專行ス

副長　三等

職掌長ニ亞ク

檢査官　相當　四等ヨリ七等ニ至ル

會計檢査ノ事務ヲ分任ス

書記官　相當　四等ヨリ七等ニ至ル

院長官房ノ事務及ヒ院中ノ庶務會計記錄ヲ幹理ス

檢査官補　相當　八等ヨリ十七等ニ至ル

檢査官ニ屬シ檢査ノ事務ニ從事ス檢査事故アルトキハ其事務ヲ代理スルヲ得

屬　相當　八等ヨリ十七等ニ至ル

書記官ニ屬シ文書會計ノ事務ニ從事ス

會計檢査院章程

第一條　會計檢査院ハ政府ノ會計ヲ檢査シ會計法規ノ統一ヲ主持スル所トス

第二條　歲入歲出ノ計算ヲ審査判定シ其証明者ニ向テ認可ノ狀ヲ宣告ス

第三條　各廳長官會計ノ報告書ニ就テ太政官ニ向テ其計算ヲ証明ス

第四條　會計ノ帳簿及金錢物品ノ出納ヲ檢査シ時宜ニ依リ事業ノ實況ヲ査閲スルヲ得

第五條　會計檢查上要用ト認ムル書類ハ悉皆之點撿シ及其主務者ノ辨明ヲ求ムルヲ得

第六條　會計法規ノ創立釐革ニ關シ其意見ヲ內閣ニ建議スルヲ得

第七條　歲入出決算檢查完了ノ後其行務ノ成蹟及ヒ會計ニ關スル意見ヲ揭述シタル年報ヲ調製シ之ヲ內閣ニ進呈ス

第八條　會計官吏ノ法規ニ違フ者アルトキハ所屬長官ニ對シ其旨ヲ告知スヘシ但刑事ニ係ルモ亦本條ニ準ス

○第六號　一月十六日　府縣

郡區長郡區書記席次左ノ通候條此旨相候事

郡區長（東京府區長ヲ除ク）ハ府縣一等屬與獄ノ上席トス

郡區書記ハ月俸ノ多寡ニ拘ハラス其官等ニ依リ府縣同等官ノ下席トシテ其官等相當ノ俸給ヲ受クル無等判任官ノ上席トス

○第七號　一月十七日　官省院使廳府縣

工部省各科工術等級幷月給別表ノ通改正候條此旨相達候事

別表

| | 三等 | 四等 | 五等 | 六等 | 七等 | 八等 | 九等 | 十等 | 十一等 | 十二等 | 十三等 | 十四等 | 十五等 | 十六等 | 十七等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一級 | 大技監 | 大技監 | 大技長 | 少技長 | 一等技手 | 二等技手 | 三等技手 | 四等技手 | 五等技手 | 六等技手 | 七等技手 | 八等技手 | 九等技手 | 十等技手 | |
| | 四七〇 | 三五〇 | 二五〇 | 一七〇 | 六十五 | 五十 | 四十 | 三十 | 二十 | 十五 | 七圓 | | | | |
| 二級 | 四四〇 | 三二〇 | 二七〇 | 二二五 | 一五〇 | 一三〇 | 一〇〇 | 八十 | 六十 | 五十 | 四十 | 三十 | 二十 | 十五 | 七圓 |
| 三級 | 四一〇 | 二九〇 | 二五〇 | 二〇〇 | 一三〇 | 一〇〇 | 八十 | 六十 | 五十 | 四十 | 三十 | 二十 | 十五 | 七圓 | 五圓 |
| 四級 | 三八〇 | 二六〇 | 二二〇 | 一七〇 | 一一〇 | 八十 | 六十 | 五十 | 四十 | 三十 | 二十 | 十五 | 七圓 | 五圓 | 三圓 |
| 五級 | 三五〇 | 二五〇 | 二〇〇 | 一五〇 | 一〇〇 | 七十 | 五十 | 四十 | 三十 | 二十 | 十五 | 七圓 | 五圓 | 三圓 | 二圓 |
| 旅費定額 | 二等 | 三等 | | | | | 四等 | | | | | | | | |

技監以下ノ者ハ在職非職ヲ分チ在職ハ其月給ヲ賜フヘシ非職ノ者ハ月給三分ノ二或ハ三分ノ一ヲ賜フヘシ（十五年第十八號ノ通ヲ以文中追加）

一等抜手以下ノ者ハ其科施行ノ都合ニヨリ其月給ヲ日割ニシテ給與シ或ハ其月給ノ内幾分ヲ日給トシ適宜區別シテ支給スルヲ得一日ノ就業時間ハ十二時間以内トス其餘ノ時間ハ増給ス但月給賜方凡例ノ如シ

免職死亡等ノ賜金ハ本給ヲ以テ規則ニ照シ之ヲ給ス

凡例

月給ヲ日給ニスルハ其月ノ現日數ニ除シ之ヲ出勤日數ニ應シ支給ス但一般休暇日ハ支給スル故ニ事業ノ都合ニヨリ出務ヲ命スルニ増給セス並ニ病氣ハ不給

日月給ノ者ハ其日給ニ當ルヘキ金額ヲ其月ノ現日數ニ除シ出勤日數ニ應シ支給ス但書前同斷一日ノ就業時間ヲ十二時間以内トス其餘ノ時間就業ハ増給ヲ支給ス

工業上ニ於テ怪我ノ爲メ出勤スル能ハサル節ハ全額日給ノ者ハ其半額ヲ支給シ日月給ノ者ハ其本給ノ半額ヲ支給ス但折傷ノ輕重ニ依テ永ク治療ニ日月ヲ經過スル者ハ扶助料ヲ賜リ職務ヲ免ス等臨時ノ評議アルヘシ

新任ノ者日給ハ其日ヨリ免職ノ者ハ其日迄ヲ給ス日月給ノ者ハ月俸規則ノ通十五日前後ヲ區分シ日給ハ其日ヨリ何レモ増給ノ割合ヲ以テ支給ス

歸省中日月給ノ者ハ其日月給ニ不拘給與金額半給額ヲ支給ス但忌引中モ亦本文ニ同シ

月俸ヨリ日給ニ轉スル者ハ月俸規則第四條但書ニ準シ支給ス

○第八號　一月十九日　官省院使廳府縣

府縣立學校書記准官等左ノ通相定候條此旨相達候事

准官等　十一等以下十七等以上

○第九號　一月二十七日　官省院使廳府縣

東京大學ニ幹事ヲ置キ總理ノ次ニ列シ職制及俸給左ノ通相定候條此旨相達候事

幹事　總理ノ命ヲ受ケ大學ノ庶務ヲ幹理ス

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 幹事 | 奏任 | 年俸 | 三千圓 | 二千四百圓 |
| | | | 二千圓 | 千八百圓 |
| | | | 千五百圓 | 千二百圓 |
| | | | 千二百圓 | 九百六拾圓 |

○第十號　二月一日　内務省開拓使醫視廳府縣

明治六年(十一月)第三百九十一號同十年(七月)第四十九號ヲ以テ四人護送規則及ヒ遞

傳方相達候處今般更ニ別冊ノ通囚人護送遞傳方改正シ本年七月一日ヨリ施行候條從前達中矛盾ノ廉ハ同日限廢止ス此旨相達候事

囚人護送手續

第一條　甲廳ヨリ乙廳又ハ集治監ヘ送移スル囚人ハ囚籍及ヒ處刑宣告書所持ノ物品ヲ併セ沿道警察本分署ニ於テ遞傳護送スル囚人モ其距離十里以外ニ至ルモノハ本文ニ準スヘシ

但一府縣管內本支監獄ノ間ニ護送スルヲ得

第二條　新タニ就捕セシ犯罪人及ヒ諸令狀ニ據リ引致スル刑事被告人又ハ脫走ノ軍人軍屬ノ遞傳護送ヲ要スル者モ前條ノ手續ニ準スヘシ

但入監後札門等ノ爲メ所在ノ法衙ニ往復スルハ本條ノ限ニ在ラス

第三條　第一條第二條ノ護送ニ付スル囚人ノ員數及ヒ發出日時ハ其當該官吏ヨリ前以テ沿道警察本分署ヘ通報スヘシ

第四條　護送囚人ノ數ハ一行十名以下トス護送警吏及ヒ縄取ノ人員ハ適宜タルヘシ但便利海路ニヨルトキハ適宜囚人ヲ增加スルヲ得

第五條　遞傳護送ハ日出ヨリ日沒マテヲ限トス

第六條　警察本分署ニ於テハ護送囚人ノ鄉貫氏名刑名又ハ犯罪見込書ノ要領及ヒ着發日時ヲ記載シ置クヘシ

第七條　護送ノ囚人ハ沿道警察本分署ニ宿セシムヘシ若シ支障アル時ハ該地戶長ニ照會シ宿所ヲ定メ適宜取締ヲナスヘシ

第八條　護送途中囚人病發スルトキハ沿道察警本分署ニ付シ治療スヘシ若死去スルトキハ該地戶長ニ埋葬ヲ囑シ（引取人有者ハ之ニ下附ス）醫師ニ死去証書ヲ作ラシメ戶長及護送警吏連印シ書類物品ヲ併セ送達スヘキ衙署ニ遞付シ仍ホ發出衙署ニ報知スヘシ

第九條　護送途中囚人逃亡スルトキハ先ツ緝捕方ヲ最寄警察本分署ニ報告シ仍ホ發出衙署及ヒ送達スヘキ衙署ヘ報告スヘシ但第八條及ヒ本文ノ手續ヲ爲スタメ他囚護送ヲ遲緩ス可ラス若シ速ニ手續ヲ了シ難キ場合ハ最寄警察本分署ノ助力ヲ請フコトヲ得

第十條　遞傳護送スル警察官吏ノ旅費ハ都テ沿道地方ノ警察費ヲ以テ支辨スヘシ但縄

取ノ雇給ハ第十一條第十二條ノ區別ニ依リ囚人ニ屬スル費用中ニテ支辨スヘシ

第十一條　第一條ニ掲ル囚徒ニ屬スル護送中ノ費用ハ明治十四年第十七號布告ニ依區分シ集治監ニ送ルトキハ沿道府縣ノ仕拂ニ立テ其他出發府縣ノ監獄費ヨリ支拂スヘシ

第十二條　第二條ニ掲ル各犯人ニ屬スル護送中費用ハ沿道地方警察費ヲ以支辨スヘシ

第十三條　護送囚人死歿シ引取人ナキモ其所持金錢物品（埋葬費ニ足ルモノ）アル者及ヒ軍人軍屬陸軍下士卒海軍下士卒ノ埋葬費ハ第十一條第十二條支辨ノ限ニアラス尤モ其費額ハ都テ拾圓以内タルヘシ

但軍人軍屬下士卒ノ分ハ追テ陸軍省ヨリ拂戻スヘシ（十五年第六十八號達ヲ以テ文中改正）

第十四條　遞傳ニ係ル囚人犯罪人ノ賄費額ハ警察本分署ニ於テハ都テ拘留人ノ例ニ依ルヘシ他ニ宿泊セシムルトキハ一宿二賄臥具點燈手數料ヲ合セテ金二拾五錢以下一晝食金七錢以下藥價診察料等ハ實費支辨スヘシ

○第拾壹號　二月二日　府縣（沖繩縣ヲ除ク）

府縣會規則第七條ニ依リ內務卿ニ建議スル場合ニ於テ開會中議員自ラ其建議書ヲ携帶上京等ノ儀ハ不相成筋ニ候條此旨相達候事

但本文ノ趣府縣會ヘ相達置クヘシ

○第拾貳號　二月四日　官省院使廳府縣

貸下金其他諸上納金未納ノ者裁判所ニ於テ身代限ノ處分ヲ請ルトキハ自今左ノ通處分スヘシ此旨相達候事

一貸下金其他諸上納金未納ノ者裁判所ニ於テ身代限ノ處分ヲ請クルトキハ其徵收ヲ取扱フ官廳ニ於テ通常公文用紙ニ未納ノ金額ヲ記載シ証書ノ寫ヲ添ヘ之ヲ其裁判所ニ請求スヘシ

一裁判所ニ於テハ該請求ノ金額ニ就テ負債者異論ナキトキハ身代限リノ配當金ヲ（不足アルトキハ定例ノ通証書裏書ノ上）其裁判所々在ノ郡長ニ交付シ郡區長ハ之ヲ其官廳ニ送達スヘシ

○第拾三號　二月二十一日　府縣（東京府ヲ除ク）

警部長以下正帽正服幷提燈ノ儀別紙圖式ノ通制定候條此旨相達候事

但帶劍ノ儀ハ從前ノ通適宜ノ制ヲ用ヒ不苦候事

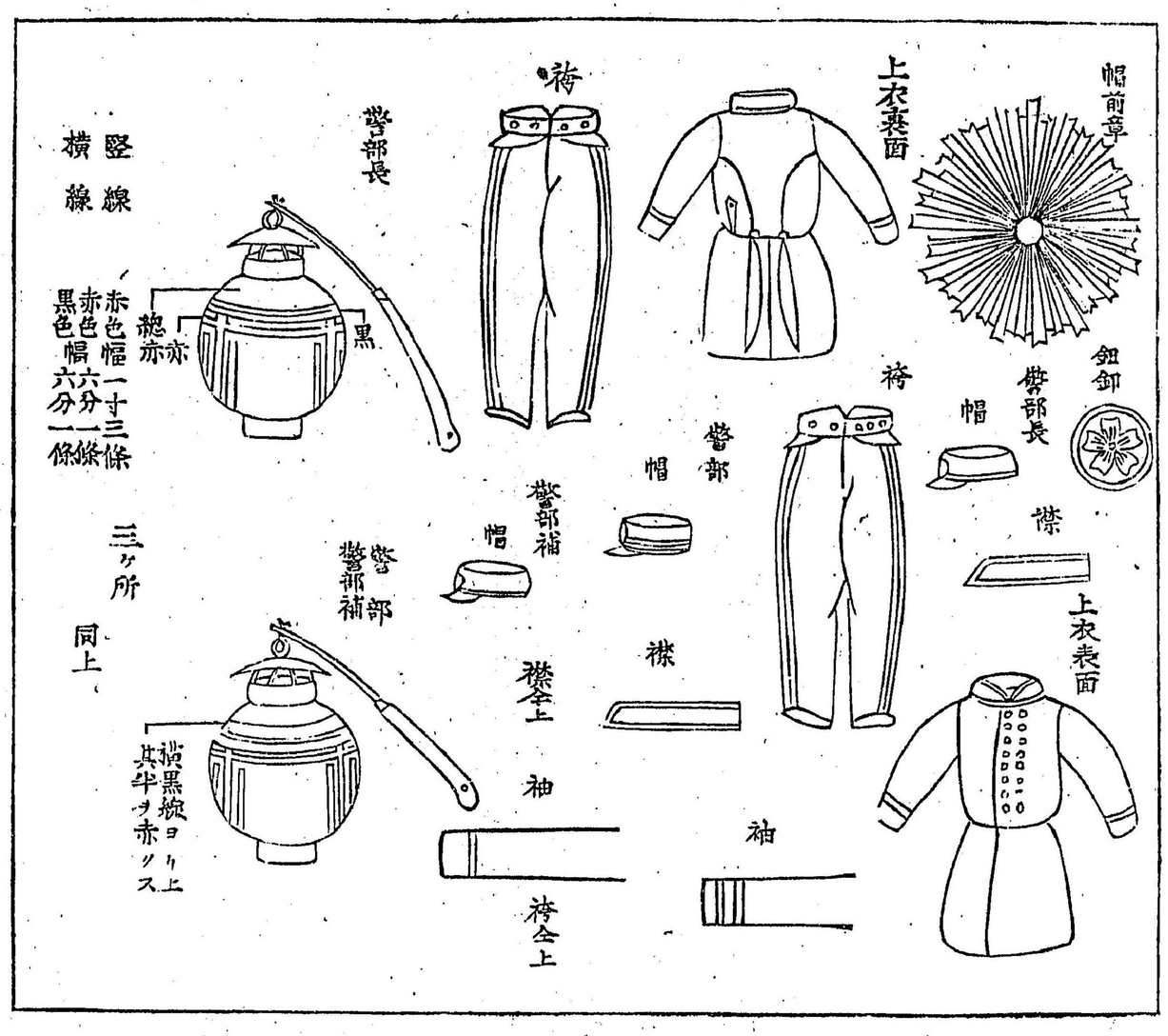
警部長以下正帽正服制表圖式（表中寸法ハ都テ曲尺ヲ用フ）

| 官等 | 帽章 | 襟章 | 袖章 | 袴章 | 釦 | 地色 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 警部長 | 前章金日章徑一寸五分模線金幅五分一條 | 金幅五分一條 | 金幅五分一條 | 金幅五分一條 | 金櫻形徑七分數定限ナシ | 紺黒 |
| 警部 | 仝 | 眞鍮銀幅五分一條 | 銀幅三分二分一條 | 銀幅四分一條 | 仝 | 仝 |
| 警部補 | 仝 | 仝 | 仝 | 仝 | 仝 | 仝 |
| | 仝 | 横線金幅三分一條 | 仝 | 銀幅四分一條 | 仝 | 仝 |

凡例

正服ハ大禮服ニ通常禮服ニ適用スルモノトス

監臨檢視又ハ出火其他非常ノ場合ニ在テハ便宜正服ヲ著セスシテ正帽ヲ用ルヲ得



帽前章
上衣裏面
袴
警部長
竪線
横線
赤色幅一寸三條
赤色幅六分一條
黒色幅六分一條
總赤
赤
黒
鈕釦
警部長
帽
袴
警部
帽
警部補
帽
襟
上衣表面
三ヶ所
警部
警部補
同上
襟全上
襟
横黒線ヨリ上其半ヲ赤クス
袖
袖
袴全上

○第拾四號　三月二日　官省院使廳府縣

農商工上等會議ノ儀追テ何分ノ儀相達候迄當分開會停止候條此旨相達候事

○第拾五號　三月二十三日　官省院使廳府縣

特命全權公使官等自今左之通リ改正候條此旨相達候事

特命全權公使　一等　二等

○第拾六號　三月廿九日　官省院使廳府縣

明治十四年(五月)第四十九號達統計院職制中改正候條此旨相達候事

院長　二等官

○第拾七號　三月廿九日　府縣

明治十四年(十二月)第百拾壹號ヲ以テ巡査俸給改正相達置候處地方ノ都合ニ依リ差向引直シ難キ事情有之ニ於テハ本年度限リ從前ノ通支給ヲ不苦候此旨更ニ相達候事

○第拾八號　四月六日　官省院使廳府縣

工部省各科工術等級幷ニ月給表中ヘ追加

○第拾九號　四月十二日　官省院使廳府縣

月俸規則第二條但書ヽ左ノ一項ヲ增加候條此旨相達候事

一新任ノ者宣旨拜授受書差出置キ出仕セサル內辭表差出ス者ハ月俸一切給セサルヘシ

○第二十號　四月二十六日　官省院使廳府縣

明治十四年(四月)第二十五號達農商務省職制第二項左ノ通候條此旨相達候事

農商務省職制

第二　農學校博物館(以上從前內務省所管ノ分ニ限ル)及ヒ商船學校ヲ管理ス

○第二十一號　四月廿八日　官　省

明治十五年度ニ於ケル十七年度迄各廳通常經費定額據置ノ儀相達候ニ付年中右定額金年々ノ殘金及ヒ中科目以下ノ流用ハ會計法ニ據ラス左ノ通心得處分スヘシ

第一條　各廳ニ於テ每年度定額金殘餘アル時ハ翌年度ノ定額金ニ併セ使用スルヲ得其金員ハ大藏省ヘ經由シテ太政官ニ開申スヘシ

但決算以前ニ支出ヲナサントスル時ハ概算ヲ以テ一應本文ノ手續ヲナスヘシ

第二條　據置定額內中科目以下ノ費額ハ各廳ニ於テ便宜流用スルヲ得

第三條　各廳ニ於テ第一條ノ殘金ヲ支出シ及ヒ第二條ノ流用ヲナサントスル時ハ事務ノ輿廢伸縮ニ係ルモノハ大藏省ヘ經由シテ太政官ノ許可ヲ請ケ其輿廢伸縮ニ係ラサルモノハ科目金員事由ヲ詳記シ其都度大藏省及ヒ會計檢查院ニ報告スヘシ

右相達候事

○第貳拾貳號　四月廿九日　內務省陸軍省海軍省司法省警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

刑法第四百二十七條第三項中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者等有之候處軍人制服ヲ着用乘馬シタル者ハ右ノ限ニ無之候條此旨相達候事

○第二十三號　五月一日　官省院廳府縣

陸軍省中理事理事補審事審事補錄事ヲ置キ官等俸給左ノ通相定候條此旨相達候事

理事

勅任　年俸四千二百圓　同三千五百圓　同三千圓

奏任　年俸二千四百圓　同二千百圓　同千八百圓　同千五百圓

同千二百圓　同九百六十圓
同五百四十圓

審事

勅任　奏任　年俸理事ニ同シ

理事補

判任　月俸四十圓　同卅五圓　同三十圓
同廿五圓　同二十圓

審事補

判任　月俸理事補ニ同シ

錄事

判任　月俸四十圓　同卅五圓　同三十圓
同十五圓　同十二圓

○第二十四號　五月十日　鎭府縣

明治十三年(十月)第五十二號達陸軍撿閱條例第四條中十月一日ヨリ始メ十一月三十日
以テ畢リトスト アルヲ九月一日ヨリ始メ十月三十一日ヲ以テ畢リトスト改正候條此旨
相達候事

○第貳拾五號　五月十三日　官省院鎭府縣

陸軍憲兵服制圖例幷ニ圖中左ノ通加除改正候條此旨相達候事

陸軍憲兵服制圖例中

將校及下副官正服ノ部中帽ノ下(正軍服帶用ノ五字削除

將校及下副官軍服ノ部中帽ノ部追加

諸將校軍帽ニ同シ但其色ヲ萌黃トス　形狀　如圖

諸兵下副官軍帽ニ同シ但其色ヲ萌黃トス　形狀　如圖

下士卒外套ノ部中改正　下士卒外套

地質　大絨　色　紺　袖口　緋絨　釦　甲乙丙ノ三種トス甲ハ下士ノ用トシ乙ハ兵卒
ノ用トス丙ハ雨覆頭巾裂後裂等ニ用フ其甲乙ハ胸部左右合セテ十箇後面緊収緒ニ附著
スル者四箇其內ハ襟部頭巾ヲ懸ル者前後合セテ五箇後裂ヲ合スヘキ者四箇　縫製形狀

如圖

同頭巾

地質　大絨　色紺卸　頭部ニ丙一箇　縫製　襟下前面一尺五寸五分後面一尺八寸

同雨覆

地質　大絨　色紺卸　胸部ニ丙二箇　縫製形狀　如圖

形狀　如圖

○第二十六號　五月二十二日　官省院廳府縣

今般農商務省所轄駒場農學校職制及職員名稱等級左ノ通相定候條此旨相達候事

駒場農學校職制

校長　農商務卿ノ命ヲ奉シ農務局長ノ指揮ヲ受ケ本校ノ事務ヲ掌リ及職員ヲ管理ス事故アルトキハ職員ヲシテ其事務ヲ代理セシムルコトヲ得

教授　生徒ノ教授ヲ掌ル

助教　教授ノ職務ヲ助ク

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 校長 | 奏任 | 月俸 | 二百五十圓 | 二百圓 | 百五十圓 | 百圓 |
| 教授 | 奏任 | 月俸 | 二百五十圓 | 二百圓 | 百七十五圓 | 百圓 |
| 助教 | 判任 | 月俸 | 八十圓 | 七十圓 | 六十圓 | 五十圓 |

教授助教トモ其職務定時間ニ滿ダサルヲ適宜俸額ヲ減給スルコトアルヘシ

○第二十七號　五月二十五日　官省院廳府縣

巡査ト等外吏トノ席次ハ月俸ノ多寡ニ依リ其月俸同シキモノハ巡査ヲ以テ上席トス

右相達候事

○第貳拾八號　五月二十二日　府　縣

明治十二年(十二月)第五十號達經費科目表中獸疫諸費ノ細節中(藥價及必需用)ノ八字

刪除候條此旨相達候事

○第三十號　五月廿七日　官省院廳府縣

大藏省中技術等級幷ニ月給別表ノ通相定候條此旨相達候事

但明治十年一月二十九日達ハ廢ス

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 校長 | 奏任 | 月俸 | 二百五十圓 | 二百圓 | 百五十圓 | 百圓 |
| 教授 | 奏任 | 月俸 | 二百五十圓 | 二百圓 | 百二十五圓 | 百圓 |
| 助教 | 判任 | 月俸 | 八十圓 | 七十圓 | 六十圓 | 五十圓 |
| | | | | | 四十圓 | 三十圓 |
| | | | | | | 二十圓 |

| | | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 |
|---|---|---|---|---|---|
| 三等 | 技監 | 四百圓 | 三百五十圓 | | |
| 四等 | 一等技師 | 三百五十圓 | 三百圓 | 二百五十圓 | |
| 五等 | 二等同 | 三百圓 | 二百五十圓 | 二百圓 | |
| 六等 | 三等同 | 二百五十圓 | 二百圓 | 百七十圓 | 百五十 |
| 七等 | 四等同 | 二百圓 | 百五十圓 | 百廿五圓 | 百圓 |
| 八等 | 一等技手 | 六十圓ゟ | 百五十圓迄 | | |
| 九等 | 二等同 | 五十圓ゟ | 百二十圓ゟ | | |
| 十等 | 三等同 | 四十五圓ゟ | 百圓迄 | | |
| 十一等 | 四等同 | 四十圓ゟ | 九十圓迄 | | |
| 十二等 | 五等同 | 三十五圓ゟ | 八十圓迄 | | |
| 十三等 | 六等同 | 三十圓ゟ | 八十圓迄 | | |
| 十四等 | 七等同 | 廿五圓ゟ | 六十圓迄 | | |
| 十五等 | 八等同 | 二十圓ゟ | 五十圓迄 | | |
| 十六等 | 九等同 | 十五圓ゟ | 四十圓迄 | | |
| 十七等 | 十等同 | 十二圓ゟ | 三十圓迄 | | |
| 等外 | 技生 | 六圓ゟ | 二十五圓迄 | | |

ノ監以下非職ノ者ハ月給三分ノ二ヲ賜フ可シ其他總テ月俸規則ニ準據支給スヘシ

○第三十壹號　五月三十一日　官省院廳府縣

宮內有中式部寮職制權頭ノ下（頭アレハ之ヲ置カス）ノ九字ヲ刪除ス右相達候事

○第三拾貳號　六月五日　官省院廳

各廳ニ於テ會計上ニ關スル規則ヲ定メ又ハ之ヲ改正廢止スルトキハ其時々會計檢査院ヘ通知スヘシ此旨相達候事

○第三十三號　六月七日　官省院廳府縣

海軍武省官等奏別紙ノ通改正候條此旨相達候事　（別紙畧之）

○第三十四號　六月七日　官省院廳府縣

海軍將校准將校免黜條例別冊ノ通相定候條此旨相達候事

海軍將校准將校免黜條例

第一條　凡ソ將校ノ官階ハ勅旨若クハ海軍卿ノ奏上ニ因テ　天皇ノ任スル所ナリ故ニ其上旨ニ出ルノ外ハ必ス左ニ記列スル事項ノ一ニ因ラサレハ之ヲ失フヿナシ

其一　本人ノ願ニ依テ免官セラレタル時

其二　事故アリ日本人タルノ分限ヲ失フ時

其三　重罪ノ刑ニ處セラレタル時

其四　叙官ヲ附加セラレ若クハ普通刑法ニ該リ官職ヲ失フ時

其五　品行懲戒ス可キノ査問會議ノ評議ニテ免官ニ決スル時

第二條　凡ソ將校准職校其官階ヲ以テ充ル所ノ班次ハ左ノ如シ

其一　在職　其二　待命　其三　非職　其四　退職　其五　罷役

第三條　在職トハ海軍立定ノ職員ニ備リ服務中ノ者並ニ其立定職員外ニ特別ノ職務ニ任セラレ若クハ臨時委員及ヒ派出ノ命ヲ奉スル者ヲ云フ

第四條　待命トハ一時職務ナキノ待命ヲ命セラレタル者ヲ云フ

第五條　非職トハ立定職員外ニシテ現ニ海軍ノ職務ナキ者ヲ云フ

第六條　退職トハ服役停年若クハ傷痍疾病ニ因テ定制ノ恩給ヲ享ケ其本籍ニ歸シタル者ヲ云フ

第七條　罷役トハ爾後再ヒ職ニ就クヲ得サル者ヲ云フ

第八條　在職ノ將校准將校ハ左ニ記列スル事項ノ一ニ因テサレハ非職ニ入ラシメラルヽヲ得ス

其一　廢職（職務ヲ廢止シ又ハ定員ヲ減少スルノ類ヲ云フ）

其二　敵ノ俘虜ヨリ歸來シタル者但シ當時他員代リテ其職ニ任シタル時

其三　滿期解任ノ者

其四　公ニ務原因セサル傷痍疾病六ケ月以上ニ至リ猶快復ノ候ナキ者

其五　停職　其六　解職

第九條　凡ソ廢職及ヒ俘虜ヨリ歸來シ之レニ因テ非職ニ入タル者ハ他ノ補欠非職員ト相半シテ就職スルヲ得

第十條　凡ソ公務ニ原因セサル傷痍疾病ニ因テ非職ニ入ル者ハ毎六ケ月醫員ノ診斷証書ヲ出サシメ其病処ヒテ二年ニ及フトキハ査問會議ニ付シ不治ニ決スル者ハ退職若クハ罷役ニ處ス

第十一條　凡停職若クハ解職ニ因テ非職ニ入ルヘキ者ハ第十六條ニ記列スル事項ノ一ニ因テ査問會議ヲ經テ海軍卿之ヲ處決ス

第十二條　凡ソ停職ニ因テ非職ニ入ル者ハ一ケ年ノ後ニ非サレハ復職ヲ命セス然レ

本人ノ切實ノ情願ヨリ或秩ノ順序ヲ經テ願書ヲ呈シ海軍卿ノ承允ヲ得ルトキハ此限ニ在ラス

第十三條　凡ソ解職ニ因テ非職ニ入ル者ハ復職ノ定期ナシ任用ノ急アルニ非サレハ他ノ職ニ補セス其非職延ヒテ一年ニ及フ者ハ命シテ退職若クハ罷役ニ處ス

第十四條　凡ソ將校准將校ノ罷役ニ入ルハ左ノ事項ノ一ニ因ル者トス

其一　傷痍疾病ニ罹リ不治ニ屬スル者

其二　第十三條ニ當ル者

其三　年齡滿限ニ至リタル者

第十五條　凡ソ退職罷役ノ將校准將校ハ終身其官階ヲ保チ海軍制服ヲ著シ其官階ニ應スル禮款ヲ享ルノ權ヲ有ス（但管轄ハ其本管廳ニ復シ法律ハ常律ニ從フ

第十六條　凡ソ將校准將校停職若クハ解職ニ因テ非常ニ入リ又其品行ノ懲戒スヘキアリテ免官ニ處ス可キ者ハ其過失現行律法ニ於テ明言セスト雖ニ將校准將校タルノ本文ニ背キ廉恥ノ正操ニ戻ル者ニシテ其中特ニ指目スヘキ者ハ左ニ記列ス

其一　品行不正　其二　交際不正　其三　怯懦畏避　其四　抗言特頑

其五　職務不治　其六　不典失儀　其七　鬪爭

第十七條　凡ソ品行不正トハ屢酔酗暴行シ遊蕩度ナク或ハ賭博戯劇ニ類スル事ヲ好ミ或ハ家政治ラス醜聲外ニ聞ユルノ類ナリ

第十八條　凡ソ交際不正トハ沽價販寃ノ業ニ從事シ或ハ好ンテ無賴雜業ノ徒ニ交リ或ハ家道錯亂負債重積是ニ因テ屢訴告ヲ受ルノ類ナリ

第十九條　凡ソ怯懦畏避トハ戰時ハ勿論平時ト雖ニ航海及ヒ操練等ニ當リ怯懦ニシテ活潑勇敢ナラス或ハ苦難ノ服役ヲ規避スルノ類ナリ

第二十條　凡ソ抗言特頑トハ上官ノ命ヲ受ケ屢之ニ抗言シ或ハ既ニ命ヲ受ルモ退テ屢後言シ或ハ言其命ニ服スト雖モ特頑ニシテ改轍ヲ更メサルノ類ナリ

第廿一條　凡ソ職務不治トハ常ニ怠惰ニ流レ其本務ヲ疎行スルヿ十全ナラス從テ事ニ托シ僞病ノ疑アリ或ハ動モスレハ服務ニ外面ヲ飾ルノ弊アリ或ハ屢故意ニ僭越ノ事ヲ爲スノ類ナリ

第廿二條　凡ソ不典失儀トハ稠人公座ノ間ニ在リテ不典ノ所行疎暴ノ擧動アリ同列一

體ノ榮譽ヲ汚スノ類ナリ

第廿三條　凡ソ鬪爭トハ爭論毆鬪ヲ爲スノ類ニシテ法ノ制スル所ナリ況ヤ將校淮將校屬五ニ之ヲ爲シ同體ノ和親ヲ傷ルハ假令公務ニ關セサルモ其本分ニ於テ宥サヽルノ所ナリ

第廿四條　凡ソ前ニ記列スル過失ハ皆ヲ法律ノ制スル所ニ非スシテ多クハ其性質慣習ニ原因シ德義ノ常經ニ戾リ榮譽ノ汚辱ニ關ヲ總テ部下ノ儀表タルニ堪エサル者ダレハ將校ノ最モ愼ム可キ所タリ

第廿五條　凡ソ一時輕淺ノ過失ハ直ニ停職以上ノ科罰ニ處スルニ非ス是カ爲メ勸誡ノ法ヲ設ケ以テ其操行ノ改良ニ就カシムルヲ要ス

第廿六條　凡ソ將校淮將校ノ中前ニ記列スル所ニ類似スル輕淺ノ過失アルヲ見ハ本人同僚中上席ノ者ニ告ケ其上席ノ者之ヲ勸誡スヘシ然レトモ本人猶改愼ノ意ナク或ハ再ヒ之ヲ犯スニハ始テ査問會議委員ニ告訴ス可シ

第廿七條　凡ソ査問會議委員其告訴ヲ受ルモ過失猶輕淺ニシテ未タ同列一般ノ榮譽ヲ汚スニ至ラスト視レハ其長官ニ白演シ其命ヲ以テ本人ヲ勸誡シ以後ヲ愼シマシムル可シ此ノ如クニシテ猶改愼ノ意ナク其過失ヲ援スル敝或ハ其過失重大ニシテ同列ノ榮譽ニ關涉スル敝或ハ其過失發覺スル日淺シト雖モ久シク隱伏シ悔ユルモ及ハサルカ如キハ委員直ニ査問會議ノ法ニ依テ之ヲ議スヘシ

第廿八條　凡ソ將校淮將校其上旨ニ出ルカ若クハ第一條第一項ニ當ル免官ハ諸種ノ恩給ヲ望ムノ權ナシト雖モ滿年賜金及ヒ其本管ニ歸ルノ旅費ヲ受ルヲ得其第二項ニ當ル者ハ滿年賜金及ヒ其旅費ヲモ受クルヲ得

○第三十五號　六月七日　官省院廳府縣

統計表調製年度ノ儀歳入出等金額ノ出納ヲ主トシテ計査スルモノニ限リ會計年度（甲年七月ヨリ乙年六月マテ）ヲ以テ取調候義ト可心得此旨相達候事

○第三拾六號　六月十五日　官省院廳府縣

今般札幌縣下石狩國空知郡市來知村ヘ巳決監ヲ設置シ空知集治監ト名稱ヲ改メ內務省ニ於

テ直轄候條此旨相達候事

○第三十七號　六月廿一日　官省院府縣

明治十四年(一月)第三號達警視廳職制中左之通改正候條此旨相達候事

職制

警視廳　東京府下警察事務ヲ總理シ云々

內局　會計局　第一局　第二局　警察署　消防本署　監獄署　巡査本部

警察使ノ部

總監ノ命ヲ受ケ警視按察ノ事務ヲ掌ル

消防司令副長ノ部

司令長ノ職掌ヲ助ク　司令長事故アル時ハ其代理タルコトヲ得

副典獄ノ部

典獄ノ職掌ヲ助ク　典獄事故アル時ハ其代理タルコトヲ得

○第三十八號　六月廿一日　官省院府縣

明治十四年(一月)第二號達警視廳官等俸給表中左ノ通改正候條此旨相達候事

| | | | |
|---|---|---|---|
| 巡査長 | 四十五圓 | 四十圓 | 三十五圓 |
| 巡査副長 | 三十圓 | 二十六圓 | 二十二圓 |
| 巡査部長 | 十八圓 | 十五圓 | 十二圓 |
| 消防大司令 | 四十五圓 | 四十圓 | 三十五圓 |
| 消防中司令 | 三十圓 | 二十六圓 | 二十二圓 |
| 消防少司令 | 十八圓 | 十五圓 | 十二圓 |
| 看守長 | 三十圓 | 二十六圓 | 二十二圓 |
| 看守副長 | 十八圓 | 十五圓 | 十二圓 |

○第三十九號　六月廿四日　各省

統計ハ政治上其他諸般事物ノ結果ヲ証明スル重要ノ事件ナルニ因リ材料ノ計査正確ナラサル可ラス就テハ各省ニ於テ統計院ヘ協議ヲ遂ケ各其主管ノ事務ニ付統計ノ方法相立審議候樣致スヘシ此旨相達候事

○第四拾號　六月三十日　官省院廳府縣

明治十五年度歳出入豫算ノ儀別冊之通決定候條此旨相達候事　（別冊畧之）

○第四十一號　七月十八日　警視廳府縣（東京府沖繩箱館札幌根室四縣ヲ除ク）

巡査看守給助例別紙之通相定候條各地方ニ於テ給助金額ヲ定メ內務卿ノ認可ヲ經テ施行可致此旨相達候事（但實施ノ府縣ハ八年（一月）第三號達並九年（八月）第八十號達別表中免職歸國旅費ハ相廢候義ト心得可シ）

巡査看守給助例

第一條　給助ハ退職給助傷痍給助死亡給助療治料祭祀料ノ五種トス

第二條　給助ヲ與ルヲ者ハ左ノ如シ

一退職給助　勤續（巡査ヨリ看守ニ看守ヨリ巡査ニ轉スルモ總テ勤續トス）滿五年以上ニシテ退職スル者ニハ一時之ヲ給シ滿十年以上ニシテ退職スル者ニハ終身之ヲ給ス

二傷痍給助　職務ノ爲メ負傷スル者ニ終身之ヲ給ス

三死亡給助　職務ノ爲メ重傷死ニ至ル者及ヒ負傷後其傷痍ニ原メ死亡スル者又ハ職務上傳染病ニ罹リ死亡スル者ノ遺族ニ之ヲ給ス

四療治料　職務ノ爲メ負傷シ若クハ傳染ニ罹ル者ニ之ヲ給ス

五祭祀料　奉職中死亡スル者ニ之ヲ給ス

第三條　退職ヲ給助ノ額

一勤續滿五年ノ者ハ一時金廿圓ヨリ少カラス三拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス滿六年以上九年迄ハ一年毎ニ金三圓ヨリ少カラス五圓ヨリ多カラサル額ヲ增給ス

二勤續滿十年ノ者ハ年金廿五圓ヨリ少カラス三十圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス滿十一年以上ハ一年毎ニ金五拾錢ヨリ少カラス一圓ヨリ多カラサル額ヲ增給ス

第四條　傷痍給助ノ額

一一等傷（終身不具トナリ自用ヲ辨スル能ハサル者）ハ年金三拾圓ヨリ少カラス四拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

二二等傷（終身不具トナリ自用ヲ辨シ得ル者）ハ年金二十圓ヨリ少カラス三拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

第五條　死亡給助ノ額

一寡婦又ハ相續ノ孤兒アルトキハ年金三拾圓ヨリ少カラス五拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス寡婦再嫁シ孤兒二十歳ニ至レハ廢止ス但シ寡婦アレハ孤兒ニ給セス

二寡婦又ハ孤兒ノ給助ヲ受ル者ナク祖父母父母又ハ廿歳未滿ノ兄弟姉妹ニシテ死者ニ依リ從來生計ヲ爲セシ者アルトキハ一時金五拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

三相續者タル孤兒滿二十歳ニ至ルモ殘篤疾ナルトキハ年金ヲ廢止スルニ際シ一時金五十圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

第六條　療治料ハ傷痍又ハ病症ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス

第七條　祭祀料

一本職一年未滿ニシテ死亡スル者ハ一時金拾圓ヨリ少カラス拾五圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス滿一年以上一年前ニ金三圓ヨリ少カラス五圓ヨリ多カラサル額ヲ增給ス

二職務ノ爲メ亡死スル者ヘハ前項ノ外一時金五拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

第八條　左ノ各項ニ該ル者ハ給助ヲ受ルヲ得ス

一公權ヲ剝奪セラレタル者

二懲罰ニヨリ免職セラレタル

第九條　左ノ各項ニ該ル者ハ其時間給助ヲ停止ス

一俸給ヲ受ルノ官職ニ就キタル者

二公權ヲ停止セラレタル者

三失踪シタル者

四許可ヲ得スシテ外國ニ出テ一年以上歸朝セサル者

○第四十二號　七月十八日　警視廳府縣（東京府沖繩函館札幌根室四縣ヲ除ク）巡査看守給助例施行ノ期ニ際シ現在職滿二年以上五年未滿ノ者引續キ五年未滿（奉職ノ日ヨリ算ス）ニシテ退職スルトキハ給助例施行ノ日ヨリ限界トシ勤續年數ニ應シ滿年賜金ノ例ニ依リ當時ノ月俸額ヲ以テ退職ノ際一時慰勞金ヲ支給スヘシ此旨相達候事

○第四十三號　七月十八日　官省院廳

明治九年(二月)第十八號達院省廳現金納拂規則ノ儀本年六月限廢止候條此旨相達候事

○第四拾四號　七月廿七日　官省院廳府縣

行政官吏服務紀律左ノ通相定候條此旨相達候事

行政官吏服務紀律

第一條　凡ソ官吏ハ法律及職制章程ニ從ヒ各其職ヲ盡スヘシ

第二條　凡ソ官吏ハ太政大臣又ハ本屬長官ヨリ下ス所ノ達示ヲ循守スヘシ

第三條　所屬官ハ事ヲ本屬長官ニ受ケ其命ニ順ヒ職務ヲ執行スヘシ

第四條　凡ソ官吏ハ職務ノ內外ヲ論セス廉恥ヲ勵マスコトヲ勉ムヘシ

第五條　官吏官ノ機密ヲ漏洩スルヲ得ス其職ヲ退クノ後ニ於テモ亦タ同樣タルヘシ

第六條　官吏本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト間接トヲ論セス本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス

第七條　官吏本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非レハ其職務ニ關シ他人ノ贈遺ヲ受ルヲ得ス

第八條　官吏他人ノ請托ヲ受ケ私ニ徇ヒ公ヲ亂ルコトヲ得ス

第九條　官吏本屬長官ノ許可ヲクシテ擅ニ職役ヲ離ルヽヲ得ス及事ニ托シ疾ヲ引キ職事ヲ曠廢スルヲ得ス

第十條　官吏前ノ各條ニ違ヒ顯狀アル者ハ本屬長官其輕重ニ從ヒ旨ヲ諭シ聽ヲ辭セシメ又ハ懲戒例ニ依リ處分スヘシ其功過相補フヲ以テ處分ヲ宥恕スヘシト認ムル者ハ本屬長官其情狀ヲ具シ太政大臣ニ上申シテ重定ヲ請フヘシ

第十一條　長官ハ各其所屬官ヲ檢察スルノ務ニ任スヘシ

第十二條　臨時巡察使ヲ派出シテ官吏ノ治績及功過ヲ檢察シ狀ヲ具シテ直ニ太政大臣ニ上申セシムヘシ

○第四拾五號　七月廿七日　官省院廳府縣

本年第四十四號達行政官吏服務紀律ハ司法官吏ニ通用スヘシ但第三條ノ判事ニ於ケルハ此限ニアラス

判事檢事ハ職務ニ關シ他人ノ贈遺ヲ受クルヲ得ス故ニ第七條ハ通用ノ限ニアラス

右相達候事

○第四十六號　七月三十一日　官省院廳府縣

國稅金送納定則別冊ノ通相定明治十五年十一月一日ヨリ施行候條此旨相達候事

國稅金送納定則

## 第一章　總則

第一條　凡ソ國稅（海關稅ヲ除ク）ハ各其法律規則ニ據リ之ヲ徵收シ此條規ニ從ヒ送納スルモノトス

第二條　各廳ニ於テ租稅決算ノ期限ハ各種租稅皆濟期限後四ケ月以內タルベシ

## 第二章　收納順序

第三條　戶長ニ於テ取集メタル租稅ハ郡區長ニ上納シ郡區長ハ之ヲ所在大藏省租稅局出張所ニ送納スベシ

第四條　各廳又ハ其各部局ニ於テ直ニ領收シタル租稅ハ之ヲ大藏省租稅局出張所ニ送納スベシ（但第三條第四條送納ノ手續ハ大藏省達國稅金領收順序ニ據ルベシ）

第五條　租稅局ハ其各地出張所ヨリ送納セシ租稅ヲ領收シ之ヲ國庫ニ納入スベシ

## 第三章　送納期限

第六條　戶長ニ於テ納期前ハ民ヨリ受取タル稅金ハ七日以內ニ之ヲ郡區長ニ上納セシムベシ

第七條　郡區ニ於テ領收セシ稅金ハ大藏省ニ於テ指定シタル期日ニ從ヒ之ヲ租稅局出張所ニ送納スベシ

但各廳又ハ其各部局ニ於テ直ニ領收シタル稅金モ本文ノ例ニ據ル

第八條　各廳又ハ其各部局ニ於テ時々領收スル諸稅ニシテ收入ナキ月ハ翌月二十日限リ其旨租稅局出張所ニ通知スベシ

第九條　租稅局出張所ニ於テ領收セル稅金ハ十日每ニ取纏メ其翌日ヨリ七日以內ニ該地ヲ管シ租稅局ニ送納スベシ

第十條　租稅局ハ領收シタル稅金ヲ十日每ニ取纏メ三日以內國庫ニ納入スベシ

## 第四章　稅表送達期限

第十一條　各廳ニ於テ調製スル各種稅表ノ樣式及ヒ其送達ノ期限ハ大藏省達ニ從ヒ租

稅局ニ送付スヘシ

第十二條　稅表進達後納額ニ差異ヲ生シ稅表ノ訂正ヲ要スルトキハ該稅皆濟帳送達以前ニ限リ之ヲ訂正スルヲ得

## 第五章　雜則

第十三條　大藏卿ハ臨時租稅局員ヲ派遣シ各廳又ハ郡區役所ニ就キ租稅ニ關スル諸帳及ヒ稅金ヲ檢査セシムルコトアルヘシ

第十四條　租稅不納ニ因リ公賣處分ノ末欠額ヲ生スルトキハ處分後日數十五日以內ニ勘定除却ヲ大藏卿ニ開申スヘシ

第十五條　水火災ニ罹リ家屋滅盡スルモノ二ケ月以內納稅延期ヲ府縣長官ニテ處分シタルトキハ日數十五日以內ニ大藏卿ニ申報スヘシ

第十六條　大藏卿ハ前第十四條十五條租稅金ノ欠減ニ屬セシモノヲ一周年度分取纏メ太政官ニ上申スヘシ

第十七條　戶長ニ於テ已ムヲ得サル事故アリテ筆生又ハ用掛等ヲ代人トシテ納稅ノ事務ヲ取扱ハシムルトキハ郡區長ノ承認ヲ受ケシムヘシ

第十八條　島嶼又ハ道路遠隔其他已ムヲ得サル事故アリテ此定則ニ指定セル期限ニ據ル能ハサルモノハ豫テ其事由ヲ各廳ヨリ大藏省ニ申告シ大藏省ヘ之ヲ太政官ニ具申シテ其裁下ヲ受クヘシ

第十九條　此定則ニ矛盾スル從前ノ規則ハ總テ廢止トス

○第四十七號　八月十二日　官省院廳府縣

農商務省中驛遞官左ノ通增設シ驛遞一等屬上等給廢止候條此旨相達候事

五等驛遞官　奏任　八等　月俸八十圓

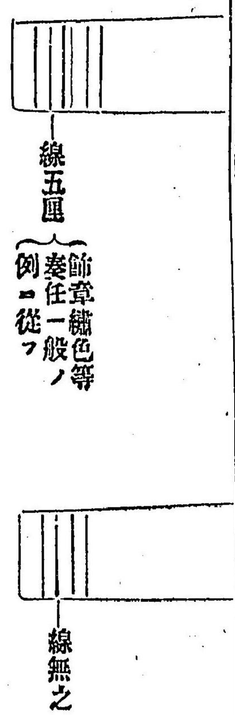
六等驛遞官　同上　九等　月俸七十圓

○第四拾八號　八月十二日　官省院廳府縣

驛遞官中五等六等驛遞官大禮服飾章左ノ通相定候條此旨相達候事

五等驛遞官

六等驛遞官




○第四拾九號　八月十八日　官省院廳

非役從三位及勳三等以上ノ輩平常天機伺等ニテ參朝ノ節車寄門迄乘車馬被差許候條爲心得此旨相達候事

○第五拾號　八月十八日　府　縣

非役從三位及勳三等以上ノ輩平常天機伺等ニテ參朝ノ節車寄迄乘車馬被差許候條非役有位帶勳ノ士族平民ヘ可相達此旨相達候事

○第五拾壹號　八月十九日　官省院廳府縣

今般工部省所轄工部大學校職制及職員名稱等給俸級別紙ノ通相定候條此旨相達候事

工部大學校職制

長　長アレハ副長ヲ置カス

工部卿ノ命ヲ奉シ工部大學校ノ事務ヲ管理ス

工部大學校職員判任以上ノ進退黜陟ハ工部卿ニ具狀シ等外以下ハ之ヲ專行ス

副長　副長アレハ長ヲ置カス

掌長ニ亞ク

幹事

長ノ命ヲ受ケ大學ノ庶務ヲ幹理ス

長事故アルトキハ其事務ヲ代理スルヿヲ得

教授

生徒ノ教授ヲ掌ル

助教授

教授ノ職掌ヲ助ク

| 長 | 勅任 | 年俸 | 三千圓ヨリ四千八百圓マテ |
|---|---|---|---|

| | | |
|---|---|---|
| 副長 | 奏任 | 年俸 千二百圓ヨリ三千圓マテ |
| 幹事 | 奏任 | 年俸 七百二十圓ヨリ三千圓マテ |
| 教授 | 勅任 | 年俸 三千圓ヨリ四千二百圓マテ |
| | 奏任 | 年俸 七百二十圓ヨリ三千圓マテ |
| 助教授 | 判任 | 年俸 三百圓ヨリ千二百圓マテ |

○第五拾弐號　八月二十四日　官省院廳府縣

明治十一年(七月)第三拾三號ヲ以テ奏任官公務ノ爲メ太政官並宮内省ヘ出仕候節ハ中仕切門外迄乘車馬被差許候旨相達置候處自今昇降所迄乘車馬不苦候條此旨相達候事

○第五拾三號　九月十二日　官省院廳府縣

宮内省中消防長以下ヲ置キ官等左ノ通相定候條此旨相達候事

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 消防長 | 自十二等相當至十六等相當 | 消防嚮導 | 消防伍長 | |
| | 等外一等相當 | 等外二等相當 | | |

○第五拾四號　九月十二日　官省院廳府縣

宮内省消防長以下服制及旗旌提燈徽章別紙圖式ノ通相定候條此旨相達候事(圖式略之)

○第五拾五號　九月廿二日　官省院廳府縣

神宮祭主以下職員官等月俸左ノ通更正候條此旨相達候事

但禰宜ハ九等相當ト雖ヒ仍ホ判任ト爲シ等外出仕ハ從前ノ通タルヘシ

| 官等 | 神宮 | 官階 國階 大社 | 官階 中社 |
|---|---|---|---|
| 一等 | | | |
| 二等 | | | |
| 三等 | 祭主 | | |
| 四等 | | | |
| 五等 | | | |
| 六等 | 宮司 | | |
| 七等 | 權宮司 | 宮司 | |
| 八等 | | 然田神宮出雲大社權宮司 | 宮司 |
| 九等 | 禰宜 | | |
| 十等 | 一 | | |
| 十一等 | | 禰宜 | |
| 十二等 | | | 禰宜 |
| 十三等 | | | |
| 十四等 | | | |
| 十五等 | | 主典 | |
| 十六等 | 宮 | | 主典 |
| 十七等 | | | |

勅任　奏任　判任

| 國幣 | 官幣小社<br>別官幣社格<br>國幣小社 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 神宮 | | |
| | | 祭主 | 月俸八十圓 | 一員 |
| | | 禰宜 | 同十五圓 | 五員 |
| | | （官幣國幣）大社 | | |
| | | 宮司 | 月俸貳拾五圓 | 一員 |
| | | 禰宜 | 同九圓 | 一員 |
| | | 但該社ノ廣狹ニ依リ實際不得止向ハ一二員ヲ增減スルヲ得 | | |
| | | （官幣國幣）中社 | | |
| | | 宮司 | 月俸十五圓 | 一員 |
| | | 主典 | 同六圓 | 一員 |
| | | （官幣國幣）小社 | | |
| | | 宮司 | 月俸十圓 | 一員 |
| | | 主典 | 同六圓 | 一員 |
| | | 別格官幣社 | | |
| | | 宮司 | 月俸十圓 | 一員 |
| | | 禰宜 | 同八圓 | 一員 |
| | | 主典 | 同六圓 | 一員 |
| | | 國幣大社 | | |
| | | 宮司 | 月俸貳拾圓 | 一員 |
| | | 禰宜 | 同十五圓 | 二員 |
| | | 主典 | 同八圓 | 二員 |
| | | 國幣中社 | | |
| | | 宮司 | 月俸十五圓 | 一員 |
| | | 禰宜 | 同八圓 | 一員 |
| | | 主典 | 同六圓 | 一員 |
| | | 國幣小社 | | |
| | | 宮司 | 月俸十圓 | 一員 |
| | | 禰宜 | 同八圓 | 一員 |
| | | 主典 | 同六圓 | 一員 |
| | | 官幣小社、別格官幣社、國幣小社 | | |
| | | 宮司 | 月俸十圓 | 一員 |
| | | 禰宜 | 同八圓 | 一員 |
| | | 主典 | 同六圓 | 二員 |
| | | 但大社ニ同シ | | |

○第五拾六號　九月廿二日　官省院廳府縣

今般農商務省所轄學校職制及ヒ職員名稱等級俸給別紙ノ通相定候條此旨相達候事

但本年第二十六號達ハ廢止ス

農商務省所轄學校職制

校長　農商務卿ノ命ヲ奉シ所管局長ノ指揮ヲ受ケ學校ノ事務ヲ掌リ及職員ヲ管理ス

幹事　校長ノ命ヲ受ケ學校ノ庶務ヲ幹理ス」校長事故有トキハ其事務ヲ代理スルヲ得

教授　生徒ノ教授ヲ掌ル

助教　校授ノ職掌ヲ助ク

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 校長 | 奏任 | 月俸 | 二百五十圓 | 二百圓 | 百五十圓 | 百圓 | |
| 幹事 | 奏任 | 月俸 | 百圓 | 八十圓 | | | |

| | 判任 | 月俸 | 七十圓 | 六十圓 | 五十圓 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教授 | 奏任 | 月俸 | 二百五十圓 | 二百圓 | 百七十五圓 | 百五十圓 | 百二十五圓 | 百圓 | 八十圓 | |
| 助教 | 判任 | 月俸 | 八十圓 | 七十圓 | 六十圓 | 五十圓 | 四十圓 | 三十圓 | 二十五圓 | 二十圓 |

教授助教トモ其職務定時間ニ滿タサルトキハ適宜俸額ヲ減給スルヿアルヘシ

○第五拾七號　九月廿二日　官省院廳府縣

陸軍裁判所被廢候條此旨相達候事

○第五拾八號　十月二日　警視廳府縣

文部省所轄東京大學校ニ於テ考古學研究ノ爲メ教員學生等ヲ各地方ヘ派遣シ介墟洞穴ヲ撿出シ地方廳又ハ所有主ヘ協議ノ上埋沒ノ古物ヲ採集スルトキハ直ニ同學ニ貯藏爲致候條此旨相達候事

○第五拾九號　十月　官省院廳府縣

明治九年(十一月)第百十一號達海軍禮砲條例第十八條中孝明天皇例祭ノ次ヘ左ノ二項追加候條此旨相達候事

春季皇靈祭　秋季皇靈祭

○第六拾號　十一月十日　府　縣

陸軍思給又ハ扶助料ヲ受ケタル者氏名ヲ改メシ時ハ本籍戸長ノ認印セシ届書ニ思給登錄寫ヲ副ヘ其金員ヲ受領スヘキ府縣廳ニ出シ府縣廳ニ於テハ登錄寫貼ノ裏面ヘ其氏名幷年月日ヲ記載シ長官署名捺印シテ之ヲ本人ニ下付シ其事由ヲ內務省ニ届出ヘシ此旨相達候事

○第六拾壹號　十一月十五日　官省院廳府縣

宮內省中侍徒等級左ノ通改正候條此旨條達候事

侍徒(六等七等)官

○第六拾貳號　十二月一日　府　縣

明治十二年(五月)第二十二號達廢止候條此旨相達候事

但目下治療中ノ者其傷痍一肢ノ切斷ヲ促シ或ハ兩眼ヲ盲スルニ至ルヘキ徵候アル者ハ特別ヲ以テ從前ノ通診察料及ヒ藥價給與候條其所在地方廳ニ於テ篤ト取調醫員診

關書相添來ル十六年二月一日限内務省へ可申出事

○第六拾三號　十二月二日　廳府縣

自今巡査ニ帶劍セシムルコトヲ得ヘシ此旨相達候事

○第六拾四號　十二月八日　官省院廳府縣

明治八年（七月）第百三拾二號達公用土地買上規則左ノ通追加候條此旨相達候事

但府縣廳ハ此旨管下ヘ布達可致事

第十一則　土地買上ノ際事業ノ急施ヲ要スルトキハ特ニ其旨ヲ所有者ニ達シ三十日以上ノ期日ヲ定メ代價ヲ申出ヘシ其期日迄ニ代價ヲ申出サルカ又ハ代價ニ付雙方見込相協ハサルトキハ更ニ其地ヲ引渡スヘキ旨ヲ達シ其日ヨリ建物アル地ハ五十日建物ナキ地ハ卅日ニ至レハ之ヲ評價ノ爲メ雙方ニテ其期限内ニ現在ノ實況及ヒ其見込ミ代價ヲ詳記シ評價人ノ意見書ヲ添ヘ地方官ノ認印ヲ受置クヘシ

第十二則　第十一則ノ場合ニ於テハ所有者ノ請求ニヨリ土地ニ付テハ券面地價十分ノ一ノ金額建造物等ノ移轉料又ハ代價ニ付テハ假定ノ金額（地方官實況ニヨリテ之ヲ定ム）ヲ渡置キ代價決定ノ上精算スヘシ

○第六拾五號　十二月八日　官省院廳府縣

統計表調製材料ノ儀統計院ニ於テ樣式相定年々徵集可致ニ付明治七年十二月（府縣ハ明治七年第百六拾六號ヲ以テ）相達置候處取調書ノ儀ハ自今差出ニ不及候條此旨相達候事

○第六拾六號　十二月十二日　警視廳、府縣（東京府沖繩函館札幌根室四縣ヲ除ク）

本年（七月）第四拾壹號ヲ以テ巡査看守給助例相達候處右實施ノ府縣ニ於テ人員減少等ニ因リ免職スルニアルヰ奉職五年未滿ノ者ハ免職當日迄ノ勤續年數ニ應シ滿年賜金ノ例ニ據リ一時慰勞金トシテ支給スヘシ此旨相達候事

○第六拾七號　十二月十二日　警視廳、府縣（東京府沖繩函館札幌根室四縣ヲ除ク）

一般人民ニシテ巡査同樣ノ働ヲナシ死傷セシ者弔祭扶助療治料支給方左ノ通相定候條此旨相達候事

弔祭扶助療治料

一吊祭料　重傷死ニ至ル者ヘ金三拾圓ヲ給ス親族故舊ナキモノハ戸長役場ニ付シ便宜處分セシム

一遺族扶助料　父母妻子若シハ死者ニ依リ從來生計ヲナセシモノヘ金五拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

一傷痍扶助料　一等傷（終身不具トナリ自用ヲ辨スル能ハサル者）ヘ金六拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

二等傷（終身不具トナルモ自用ヲ辨シ得ル老）ヘ金拾圓ヨリ少カラス五十圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

一療治料　傷痍ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス

○第六拾八號　十二月十三日　內務省警視廳府縣（東京府ヲ除ク）

本年（一二月）第十號達四八護送手續第十三條左ノ通改正候條此旨相達候事（原達訂正）

○第六拾九號　十二月廿五日　官省院廳府縣

本年（一月）第五號簿會計法第三十四條第三十六條中改正（原達訂正）

但豫算金額ハ日記簿ニ記入スヘシ

○第七拾號　十二月廿七日　廳府縣

明治六年（三月）第百六拾四號同年（七月）第二百四十號明治九年（四月）第四拾三號明治十年（三月）第三拾四達廢止候條此旨相達候事

○第七拾壹號　十二月廿八日　府縣

戸長身分取扱ノ儀明治七年（三月）第二十八號ヲ以テ相達置候處自今左ノ通改定シ其俸給ハ府知事縣令適宜之ヲ定ムヘシ

准十等ニ准シ十七等ニ至ル

右相達候事

明治十五年 官令全書

○內務省甲號之部

○甲第四號　六月廿七日

豫テ神奈川縣下橫濱港ヲ以テ虎刺列痕流行地ト認定候處今般左ノ箇所ニ於テ同港ヨリ來ル船舶ニ對シ本年第廿壹號布告船舶檢查規則實施爲致候條此旨告示候事

兵庫縣下神戶港　長崎縣下長崎港　新潟縣下新潟港　函館縣下函館港

大坂府下川口　三重縣下四日市港　靜岡縣下清水港　宮城縣下野蒜港

○甲第五號　八月十二日

今般大阪府下大阪市街ヲ虎刺列病流行地ト認定候ニ付左ノ箇所ニ於テ同地ヨリ來ル船舶ニ對シ本月十一日附當省達到達ノ日ヨリ本年第三十一號布告船舶檢查規則實施爲致候條此旨告示候事（但本年六月廿七日甲第四號ヲ以テ告示セシ大阪府下川口ニ於テ神奈川縣下橫濱港ヨリ來ル船舶檢查之儀ハ同日限停止セシメ候事

兵庫縣下神戶港　長崎縣下長崎港　新潟縣下新潟港　函館縣下函館港

山口縣下ノ關港　三重縣下四日市港　靜岡縣下下田港

第一表（用紙美濃判但内譯書雜報書ハ通常美濃判罫紙）

# 明治　年　月　警察報告表

某府縣

| 警察署 | |
|---|---|
| 本署 | |
| 署 | |
| 分署 | |

| 警察官吏 | 警部長 | 警部 | 警部補 | 巡査 | 雇 | 雇外國人 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 本官 | | | | | | |
| 兼官 | | | | | | |

| 警察費支出 | |
|---|---|
| 警部給與 | |
| 地方稅及ヒ國庫下渡連帶支辨 | |

| 褒賞及ヒ恩給 | 紅綬褒章 | 仝上飾版 | 藍綬褒章 | 仝上飾版 | 褒状 | 賞金 人員 | 賞金 金員 | 褒詞 | 吊祭 人員 | 吊祭 金員 | 扶助 人員 | 扶助 金員 | 療治 人員 | 療治 金員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 警察官吏 | | | | | | | | | | | | | | |
| 一般人民 男 | | | | | | | | | | | | | | |
| 一般人民 女 | | | | | | | | | | | | | | |
| 共同 | | | | | | | | | | | | | | |

| 巡査懲罰 | |
|---|---|
| 免職 | |
| 罰金ノ人 | |
| 呵責 | |

## 人事故

| | 自死セシ者 男 | 女 | 自死セントシテ死セサリシ者 男 | 女 | 人ニ殺サレシ者 男 | 女 | 人ニ殺サレントシテ免カレシ者 男 | 女 | 人ニ傷セラレシ者 男 | 女 | 過失ニテ死セシ者 男 | 女 | 過失ニテ死セントシテ死セサリシ者 男 | 女 | 過失ニテ傷セシ者 男 | 女 | 過失ニテ人ニ殺サレシ者 男 | 女 | 過失ニテ人ニ殺サレントシテ免カレシ者 男 | 女 | 過失ニテ人ニ傷セラレシ者 男 | 女 | 天災ニテ死セシ者 男 | 女 | 天災ニテ死セントシテ免カレシ者 男 | 女 | 天災ニテ傷セシ者 男 | 女 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事故 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 救護 警察官吏 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 救護 一般人民 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 救護 吏民協力 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | 途中發病セシ者 男 | 女 | 途中發病シ死セシ者 男 | 女 | 流行病ノ患者 男 | 女 | 流行病ニテ死セシ者 男 | 女 | 流行病越員ノ死者 男 | 女 | 狂獸ニ殺サレシ者 男 | 女 | 狂獸ニ殺サレントシテ免カレシ者 男 | 女 | 狂獸ニ傷セラレシ者 男 | 女 | 原由不詳ノ死者 男 | 女 | 迷ヒ兒 男 | 女 | 棄テ兒 男 | 女 | 棄兒ノ死者 男 | 女 | 瘋癲ノ者 男 | 女 | 醉倒ノ者 男 | 女 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事故 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 救護 警察官吏 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 救護 一般人民 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 救護 吏民協力 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

第一表（用紙美濃判但內譯書雜報書ハ通常美濃判罫紙）

明治年月　警察報告表

（警視廳報告表ニハ第一表ノ表面此式ヲ用フ）

| 廳署 | 本廳 | 巡査本部 | 巡査屯所 | 警察署 | 消防本署 | 監獄署 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 官吏 | | | | | | |

| | 本官 | 兼官 | 本官 | 兼官 | 本官 | 兼官 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 本廳 警視總監 | | | | | | |
| 全副總監 | | | | | | |
| 一等警視 | | | | | | |
| 二等警視 | | | | | | |
| 三等警視 | | | | | | |
| 四等警視 | | | | | | |
| 五等警視 | | | | | | |
| 警視屬 | | | | | | |
| 御用掛 | | | | | | |
| 等外出仕 | | | | | | |
| 雇 | | | | | | |
| 雇外國人 | | | | | | |
| 巡査本部 巡査總長 | | | | | | |
| 全副總長 | | | | | | |
| 方面監督 | | | | | | |
| 巡査長 | | | | | | |
| 全副長 | | | | | | |
| 全部長 | | | | | | |
| 巡査 | | | | | | |
| 警察 ホ一 警察使 | | | | | | |
| 警察 ホ二 警察副使 | | | | | | |
| 書記 | | | | | | |
| 巡査 | | | | | | |
| 消防 消防司令長 | | | | | | |
| 全副長 | | | | | | |
| 消防本署 消防大司令 | | | | | | |
| 全中司令 | | | | | | |
| 全少同令 | | | | | | |
| 監獄署 典獄 | | | | | | |
| 副典獄 | | | | | | |
| 書記 | | | | | | |
| 看守長 | | | | | | |
| 全副長 | | | | | | |
| 看守 | | | | | | |

| | 警察官吏 | 一 |
|---|---|---|
| 褒賞及ヒ恩給 紅綬褒章 | | |
| 飾版 | | |
| 褒狀 | | |
| 賞金 人員 | | |
| 金員 | | |
| 褒詞 | | |
| 吊祭 人員 | | |
| 金員 | | |
| 扶助 人員 | | |
| 金員 | | |
| 療治 人員 | | |
| 金員 | | |
| 巡査懲罰 免職 | | |
| 罰金ノ人 | | |
| 呵責 | | |
| 警察費支 廳 | | |
| 地方 | | |
| 國庫 | | |
| 通常 | | |

警視

第一表（用紙美濃判但內譯書雜報書ハ通常美濃判罫紙）

明治　年　月　警察報告表　（警視廳報告表ニハ第一表ノ表面此式ヲ用フ）

| 廳署 | 巡査本部 | 巡査屯所 | 警察署 | 消防本署 | 監獄署 |
|---|---|---|---|---|---|
| 本廳 | | | | | |

| 官吏 | 本官 | 兼官 |
|---|---|---|
| 警視總監 | | |
| 全副總監 | | |
| 一等警視 | | |
| 二等警視 | | |
| 三等警視 | | |
| 四等警視 | | |
| 五等警視 | | |
| 警視屬 | | |
| 御用掛 | | |
| 等外出仕 | | |
| 雇 | | |
| 雇外國人 | | |

| 巡査本部 | 本官 | 兼官 |
|---|---|---|
| 巡査總長 | | |
| 全副總長 | | |
| 方面監督 | | |
| 巡査長 | | |
| 全副長 | | |
| 全部長 | | |
| 巡査 | | |

| 警察署 | 本官 | 兼官 |
|---|---|---|
| 一警察使 | | |
| 二警察使 | | |
| 警察副使 | | |
| 書記 | | |
| 巡査 | | |

| 消防本署 | 本官 | 兼官 |
|---|---|---|
| 消防司令長 | | |
| 全副長 | | |
| 消防大司令 | | |
| 全中司令 | | |
| 全少同令 | | |

| 監獄署 | 本官 | 兼官 |
|---|---|---|
| 典獄 | | |
| 副典獄 | | |
| 書記 | | |
| 看守長 | | |
| 全副長 | | |
| 看守 | | |

| 褒賞及ヒ恩給 | 警察官吏 男 | 警察官吏 女 | 一般人民 男 | 一般人民 女 |
|---|---|---|---|---|
| 紅綬褒章 | | | | |
| 飾版 | | | | |
| 褒狀 | | | | |
| 賞金 人員 | | | | |
| 賞金 金員 | | | | |
| 褒詞 | | | | |
| 弔祭 人員 | | | | |
| 弔祭 金員 | | | | |
| 扶助 人員 | | | | |
| 扶助 金員 | | | | |
| 療治 人員 | | | | |
| 療治 金員 | | | | |

| 巡査懲罰 | 警察費支 |
|---|---|
| 免職 | 廳費 |
| 罰金ノ人 | 地方稅及國庫下渡 |
| 呵責 | 通常支辨 |

警視廳

第二表

某府縣

## 賊難事故ノ一

| | | 押込ニ遇ヒシ家 | 押込ノ為メ殺サレシ者 男 | 押込ノ為メ殺サレシ者 女 | 全上殺サレントシテ免カレシ者 男 | 全上殺サレントシテ免カレシ者 女 | 全上傷セラレシ者 男 | 全上傷セラレシ者 女 | 全上奪ハレシ金 | 全上穀類 | 全上衣類 | 全上雜品 | 全上畜類 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事故 | 度數 | | | | | | | | | | | | |
| | 箇數 | | | | | | | | | | | | |
| 救護 警察官吏 | 度數 | | | | | | | | | | | | |
| | 箇數 | | | | | | | | | | | | |
| 救護 一般人民 | 度數 | | | | | | | | | | | | |
| | 箇數 | | | | | | | | | | | | |
| 救護 吏民協力 | 度數 | | | | | | | | | | | | |
| | 箇數 | | | | | | | | | | | | |

## 賊難事故ノ二

| | | 追剝ニ遇ヒシ者 男 | 追剝ニ遇ヒシ者 女 | 追剝ノ為メ殺サレシ者 男 | 追剝ノ為メ殺サレシ者 女 | 全上殺サレントシテ免カレシ者 男 | 全上殺サレントシテ免カレシ者 女 | 全上傷セラレシ者 男 | 全上傷セラレシ者 女 | 全上奪ハレシ金 | 全上穀類 | 全上衣類 | 全上雜品 | 全上畜類 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事故 | 度數 | | | | | | | | | | | | | |
| | 箇數 | | | | | | | | | | | | | |
| 救護 警察官吏 | 度數 | | | | | | | | | | | | | |
| | 箇數 | | | | | | | | | | | | | |
| 救護 一般人民 | 度數 | | | | | | | | | | | | | |
| | 箇數 | | | | | | | | | | | | | |

## 賊難事故ノ三

| | 窃盗ノ入リシ家 | 窃盗セラレシ金 | 全上穀類 | 全上衣類 | 全上雜品 | 全上畜類 | 掏摸ニ遇ヒシ者 男 | 掏摸ニ遇ヒシ者 女 | 掏摸セラレシ金 | 全上穀類 | 全上衣類 | 全上雜品 | 全上畜類 | 拐帶ニ遇ヒシ者 男 | 拐帶ニ遇ヒシ者 女 | 拐帶セラレシ金 | 全上穀類 | 全上衣類 | 全上雜品 | 全上畜類 | 詐偽ニ遇ヒシ者 男 | 詐偽ニ遇ヒシ者 女 | 誑騙セラレシ金 | 全上穀類 | 全上衣類 | 全上雜品 | 全上畜類 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事故 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 救護 警察官吏 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 救護 一般人民 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 救護 吏民協力 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

## 物類事故

| | | 遺失 金 | 遺失 品 | 出火 燒失セシ家 | 出火 燒毀ニ至ラザリシ家 | 出火 類燒ノ家 | 放火 燒失セシ家 | 放火 燒毀ニ至ラザリシ家 | 放火 類燒ノ家 | 難破船 | 疫病 | 牛馬斃 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事故 | 度數 | | | | | | | | | | | |
| | 箇數 | | | | | | | | | | | |
| 救護 警察官吏 | 度數 | | | | | | | | | | | |
| | 箇數 | | | | | | | | | | | |
| 救護 一般人民 | 度數 | | | | | | | | | | | |
| | 箇數 | | | | | | | | | | | |

## 集會犯則

| | 解散 全會 | 解散 結社 | 禁止 演說 | 禁止 入社 | 禁止 結社 | 罰金ノ入 | 禁獄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 警察官吏 | | | | | | | |
| 一 | | | | | | | |

## 捕拿罪犯

| | 逮捕 男 | 逮捕 女 | 勾引 男 | 勾引 女 |
|---|---|---|---|---|
| 警察官吏 | | | | |
| 一 | | | | |

第二表

## 賊難事故ノ一

| 事故 | 押込ニ遇ヒシ家 | 押込ノ爲メ殺サレシ者 男 | 押込ノ爲メ殺サレシ者 女 | 全上殺サレントシテ免カレシ者 男 | 全上殺サレントシテ免カレシ者 女 | 全上傷セラレシ者 男 | 全上傷セラレシ者 女 | 全上奪ハレシ金 | 全上穀類 | 全上衣類 | 全上雜品 | 全上畜類 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 度數 | | | | | | | | | | | | |
| 箇數 | | | | | | | | | | | | |
| 救護 警察官吏 度數 | | | | | | | | | | | | |
| 救護 警察官吏 箇數 | | | | | | | | | | | | |
| 救護 一般人民 度數 | | | | | | | | | | | | |
| 救護 一般人民 箇數 | | | | | | | | | | | | |
| 救護 吏民協力 度數 | | | | | | | | | | | | |
| 救護 吏民協力 箇數 | | | | | | | | | | | | |

## 賊難事故ノ二

| 事故 | 追剝ニ遇ヒシ者 男 | 追剝ニ遇ヒシ者 女 | 追剝ノ爲メ殺サレシ者 男 | 追剝ノ爲メ殺サレシ者 女 | 全上殺サレントシテ免カレシ者 男 | 全上殺サレントシテ免カレシ者 女 | 全上傷セラレシ者 男 | 全上傷セラレシ者 女 | 全上奪ハレシ金 | 全上穀類 | 全上衣類 | 全上雜品 | 全上畜類 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 度數 | | | | | | | | | | | | | |
| 箇數 | | | | | | | | | | | | | |
| 救護 警察官吏 度數 | | | | | | | | | | | | | |
| 救護 警察官吏 箇數 | | | | | | | | | | | | | |
| 救護 一般人民 度數 | | | | | | | | | | | | | |
| 救護 一般人民 箇數 | | | | | | | | | | | | | |
| 救護 吏民協力 度數 | | | | | | | | | | | | | |
| 救護 吏民協力 箇數 | | | | | | | | | | | | | |

## 賊難事故ノ三

| 事故 | 房盜ノ入リシ家 | 房盜セラレシ金 | 全上穀類 | 全上衣類 | 全上雜品 | 全上畜類 | 匂莫ニ遇ヒシ者 男 | 匂莫ニ遇ヒシ者 女 | 匂摸セラレシ金 | 全上穀類 | 全上衣類 | 全上雜品 | 全上畜類 | 房帶ニ遇ヒシ者 男 | 房帶ニ遇ヒシ者 女 | 房帶セラレシ金 | 全上穀類 | 全上衣類 | 全上雜品 | 全上畜類 | 誣騙ニ遇ヒシ者 男 | 誣騙ニ遇ヒシ者 女 | 誣騙セラレシ金 | 全上穀類 | 全上衣類 | 全上雜品 | 全上畜類 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 救護 警察官吏 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 救護 一般人民 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 救護 吏民協力 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

## 物類事故

| 事故 | 遺失 金 | 遺失 品 | 出火 燒失セシ家 | 出火 燒毀ニ至ラサリシ家 | 出火 類燒ノ家 | 放火 燒失セシ家 | 放火 燒毀ニ至ラサリシ家 | 放火 類燒ノ家 | 難破船 | 疫牛馬 病 | 疫牛馬 斃 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 度數 | | | | | | | | | | | |
| 箇數 | | | | | | | | | | | |
| 救護 警察官吏 度數 | | | | | | | | | | | |
| 救護 警察官吏 箇數 | | | | | | | | | | | |
| 救護 一般人民 度數 | | | | | | | | | | | |
| 救護 一般人民 箇數 | | | | | | | | | | | |
| 救護 吏民協力 度數 | | | | | | | | | | | |
| 救護 吏民協力 箇數 | | | | | | | | | | | |

## 集會犯則

| 解散 | 禁止 全會 | 禁止 結社 | 禁止 演說 | 禁止 入社 | 禁止 結社 | 罰金ノ人 | 禁獄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | |

## 捕拿罪犯

| 逮捕 男 | 逮捕 女 | 勾引 男 | 勾引 女 |
|---|---|---|---|
| | | | |

警察官吏 一般人民

明治十五年　官令全書

○內務省乙號之部

○乙第一號　一月十二日　警視廳府縣（東京府ヲ除ク）

明治十二年當省乙第三十六號ヲ以警察月報書式相達置候處更ニ別冊ノ通改定候條本年一月以降各ニ照準致シ內譯書雜報書共可差出此旨相達候事

但報告書ハ總テ副本ニ不及每翌月二十日以內其地方廳差立候樣可致事

府縣警察報告表記例則

第一條　警察署及ヒ警察官吏ノ欄ヘハ倶ニ毎月末ノ現數ヲ擧ル但其官吏本官ノ目上段ヘハ警部ノ他官（屬、典獄等ノ官ヲ云以下同シ）ヲ兼務セサルモノ下段ヘハ其他官ヲ兼務スルモノ及ヒ兼官ノ目ヘハ他官ニリ警部ヲ兼務スルモノヲ載セ以テ彼此混淆重複ナキヲ要ス

第二條　人事、物類、賊難、ノ事故欄内ヘハ各種目掲クル所ノ事故物件ノ數ヲ記載シ其救護ノ欄内ヘハ事故アルニ臨ミ警吏其他ノ救助ヲ受ケシ件數ヲ記載スヘシ故ニ其人員ノ如キモ被救護者ノ數ヲ記シテ救護者ノ數ヲ記セサルモノトス

第三條　賊難、（强盜ノ欄）物類、ノ兩事故及ヒ其救護ノ欄ニハ箇數、度數ヲ記スル者トス今マ左ニ其一例ヲ擧ク例ト雖ハ二人同行ノ途上ニ於其ニ追剝ニ遇フ者アリ此ノ如キハ之ヲ追剝ニ遇フ人ノ欄事故箇數ノ目ヘハ被難一度ノ數一ヲ記入スルノ類又二人追剝ニ遇ヒシ内一人傷セルヲヽ者アル如キハ追剝ニ遇ヒシ者ノ目ヘニト記シ被傷ノ目ヘモ一ト複記スルノ類但此二人共ニ他ノ救助ヲ受ケル件數ヲ記入ノ例モ亦之ニ同シ

第四條　捕拿罪犯ノ欄逃捕ノ目ヘハ司法警察官及ヒ其他ノ人直ニ逃捕セシ現行犯人ノ數（違警罪ノ犯人モ假リニ此目ヘ合記スヘシ）ヲ記入シ其勾引ノ目ヘハ勾引ノ令ヲ受ケ巡查ノ引致セシ非現行犯人ノ數ヲ記入スヘシ但シ本欄ハ犯人ノ總數ナルカ故ニ其罪名ノ如キハ之ヲ書式ニ照シテ內譯書ニ擧ルヘシ

第五條　金穀ノ數量ハ厘位合位ニ止ム其數零位アル件ハ總テ〇ヲ施シ圓位石位ニハ必スヽヲ施スヘシ

第六條　雜報書ハ民情ノ動靜請集會流行ノ雜事又ハ水火風災等ノ變及ヒ外國人ニ係ル事故（國名人員其事件ヲ詳錄スヘシ）等其他報告スヘキ事件ハ之ヲ登錄シ例月本表ニ副フヘシ

第七條　內譯書ハ人事、物類、賊難、捕拿、ノ四項ヲ左ノ書式ニ照準例月本表ニ副フヘシ

內譯書式左ノ如シ

明治何年
何月　警察報告內譯書

人事事故

自死セシ者

タトヘハ
- 刃物
  - 發狂 男何人 女何人
  - 貧困仝上
  - 情死 何々 仝上
- 溺
- 縊
- 毒藥 何々

自死セントシテ死セサルリシ者

原由仝上

タトヘハ
- 刃物
  - 怨恨 男何人 女何人
  - 人違ヒ仝上
  - 何々仝上
- 縊ラレ 何々

人ニ殺サレシ者

原由仝上

人ニ殺サレントシテ免カレシ者

原由仝上

人ニ傷セラレシ者

タトヘハ

過失ニテ死セシ者

- 火燒 男何人 女何人
- 溺レ 何々

過失ニテ死セントシテ死セサリシ者

仝上

過失ニテ傷セシ者

仝上

過失ニテ人ニ殺サレシ者

タトヘハ
- 車馬 男何人 女何人
- 何々

過失ニテ人ニ殺サレントシテ免カレシ者

仝上

過失ニテ人ニ傷セラレシ者

仝上

天災ニテ死セシ者

タトヘハ
- 地震 男何人 女何人
- 洪水 仝上
- 雷風 何々

天災ニテ死セントシテ免カレシ者

仝上

天災ニテ傷セシ者　全上

狂獣ニ殺サレシ者　全上

狂獣ニ殺サレシトシテ免ガレシ者　タトヘハ犬ニ咬マレ〔男何人 女何人〕　全上

狂獣ニ傷セラレシ者　狼ニ咬マレ〔何々〕　全上

物類事故

出火ノ家原由

（此戸数ハ放火ニ非サル出火焼失ノ家及ヒ其焼毀ニ至ラサリシ家ヲ合記スヘシ類焼ノ戸数ハ之ヲ要セス）

タトヘハ〔燈火何戸 風呂焚場何戸〕　全上

賊難事故

〔灰類 摺付木 何々〕不詳　全上

押込ニ遇ヒ殺サレシ者　タトヘハ〔刃物 縊ラレ〕〔男何人 女何人〕　全上

同上死ヲ免ガレシ者　何々　全上

同上傷セラレシ者　全上

追剝ニ遇ヒ殺サレシ者　全上

同上死ヲ免ガレシ者　全上

同上傷セラレシ者　全上

捕拿罪犯　タトヘハ身體ニ對スル罪犯　男何人 女何人

内

人ヲ殺セシ者　〔男〔遂捕何人 勾引何人〕 女〕　全上

人ヲ傷セシ者　〔女 男〕　全上

何々セシ者　〔女 男〕　全上

タトヘハ財產ニ對スル罪犯　〔男 女〕　男何人 女何人

内

竊盜セシ者　男 逮捕何人　女 勾引何人

竊盜ノ事ヲ行テ未タ遂サル者　男 仝上　女 仝上

强盜セシ者　男 仝上　女 仝上

何々セシ者　男 仝上　女 仝上

何々ニ關スル罪犯　男何人　女何人

内

何々セシ者　男 仝上　女 仝上

違警罪犯　男何人　女何人

内

何々セシ者　男 何人　女 何人

○乙第三號　一月二十日　警視廳府縣（東京府ヲ除ク）

巡査監獄看守等經濟ヲ畢ニスル向ヘ轉任スル節ハ一旦打切滿年賜金ヲ給スヘク此旨相達候事

○乙第四號　一月廿三日　府縣

今般祠宇建設ノ儀別紙戊第一號之通相達候條該教導職幷教徒信徒ヨリ出願候ハヽ十三年乙第五十二號達ノ振合ヲ以廉々精査ノ上當省ヘ可伺出此旨相達候事

○乙第五號　一月廿三日　府縣

今般第六十三號褒章條例公布幷ニ第百三號同取扱手續公達相成候ニ付テハ學校病院道路橋梁濟貧恤窮等ノ費途ヘ年賦出金ノ者ニシテ現今其年限内ノ者及ヒ自費ヲ以棄兒養育中ノ者等ハ明治十四年限ヲ以區域相立其金高ニ對シ明治八年第百二十一號公達ニ據リ賞與取斗候義ト可相心得此旨相達候事

○乙第六號　一月廿四日　警視廳　府縣

當省中統計課ヲ設置候條此旨相達候事

○乙第七號　一月廿四日　神道副總裁

自今神官ハ敎道職ノ兼補ヲ廢シ兼儀ニ關係セサルモノトス此旨相達候事

但府縣社以下神官ハ當分從前ノ通リ

○乙第八號　一月二十六日　府縣（沖繩縣ヲ除ク）

本年第貳號布告第三條第貳項警察廳舍建築修繕費ハ警察費ヨリ分裂セル科目ニ付客年第拾六號布告ニ依リ國庫下渡金ヲ算出スル場合ニ於テハ警察費ヘ併算候儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○乙第九號　二月三日　府縣（東京府ヲ除ク）

明治八年當省乙第百六拾八號達中巡査召募規則第一條第一項左之通改正候條此旨相達候事

一年齡二十年以上四十五年以下ニシテ徵兵ニ相當セサル者

但年齡本文ノ前後ト雖モ性質强壯ニシテ職務ニ堪ル見込ノ者ハ採用スルヲ得ヘシ

○乙第十號　二月六日　警視廳府縣（東京府ヲ除ク）

各管內警察署分署ノ位置區畫等是迄書面ヲ以テ届出候處更ニ管內全圖ニ就キ別紙符號ノ點線ヲ施シ（加筆ニヲ差支ヘス）位置區畫ヲ明著シタル地圖貳葉往復ヲ除ク外日數三十日ヲ限リ可差出此旨相達候事（但爾後管內警察區畫等ヲ改正シ地圖面ニ大ナル變更ヲ生シ候節ハ其都度本文ニ準シ地圖調進可致候事

符號

警察本署　✲

警察署　☆

警察分署　✧

巡査屯所　✧　警視廳所轄ニ限ル

巡查派出所　△　同上

警察署所轄區畫

警察分署所轄區畫

控訴裁判所　⊠

始審裁判所　⊡

治安裁判所　×

㊀ 監獄

㊁ 郡區役所

○乙第十一號　二月十三日　警視廳府縣（東京府ヲ除ク）集治監本年一月一日現在（客年十二月三十一日ヨリ越來ルモノ）已決囚ノ族籍年齡宗門犯數等取調ヘ客年十二月乙第六十五號ヲ以テ達置候監獄經理諸表樣本ノ內舊刑法受刑現存罪囚管東雜報及ヒ雜報附錄ノ表式ニ倣ヒ正副二通調製從復日數ヲ除キ十五日間ニ可差出此旨相達候事（但雜報及ヒ附錄樣本中年月ノ區明治十五年一月一日ト記載スヘシ

○乙第十二號　二月二十八日　府縣

今般太政官第四號布達ノ趣モ有之候就テハ右布達ノ資格ニ適應セル醫學校有之候向ハ詳細取調當省ヘ可申出此旨相達候事

○乙第十三號　二月廿八日　府縣

明治十二年當省甲第三號ヲ以テ及布達候醫師試驗規則第二條ニ揭ケル修學履歷書幷敎師ノ証書ハ三ケ年以上醫學ヲ修業シタル實跡ヲ明記スル者ニアラザレハ試驗願聞屆ザル義ト可相心得此旨相達候事

○乙第拾四號　三月二日　府縣

醫師開業之儀ニ付テハ三府ハ明治八年二月文部省ヨリ各縣ハ同九年一月當省乙第五號ヲ以テ相達置候處從來開業醫ノ子弟ニシテ其助手ト相成居營業ヲ以テ家名相續致度輩ハ年齡當明治十五年六月滿二十五年以上ノ者ニ限リ從來開業醫ト看做シ試驗ヲ要セス開業許可ノ証ヲ與ヘ不苦候條此旨相達候事

○乙第拾五號　三月九日　府縣（東京府ヲ除ク）

明治九年（三月）當省乙第三十九號達巡查持區內巡回ノ節旅籠料畫晴料ノ金額ハ自今各地方ノ適宜ニ相定不苦候條此旨相達候事

○乙第拾六號　三月十日　府縣

日蓮宗不受不施講門派之儀自今派名公稱布敎差許候條此旨相達候事

○乙第拾七號　三月十三日　警視廳府縣（東京府沖繩縣幷ニ北海道三縣ヲ除ク）

九年當省乙第二十五號賣淫罰金支拂費目相達置候處右ハ苦使費警察探偵費ニ過拂仍ホ

餘リアレハ撿徽費ニ補充シ苦シカラスト改正ス尤モ徵収高及ヒ遣拂明細書届出ノ儀ハ從前ノ通リ此旨相達候事

○乙第拾八號　三月十三日　府　縣

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及ヒ私費開鑿ノ道路等郵便脚夫ノ飛信遞送幷郵便物遞送集配（特ニ配達人タルヲ証スル服ヲ着シ配達スルトキ）ノ時ニ限リ賃錢請求不相成候條兼テ許可有之架橋渡船及ヒ開路願人共ヘ無洩可相達候此旨相達候事

○乙第十九號　三月廿一日　警視廳府縣（東京府ヲ除ク）

刑法附則中監視票旅券共別紙書式之通相定候條各廳ニ於テ調製シ下附スベシ此旨相達候事（但紙質堅緻ナルモノヲ用ユヘシ）

監視票

何府縣何區郡何町村何番地住又ハ寄留何某子弟妻女同居

刑名刑期　何年何月何日宣告　何年何月何日滿期

族籍

監視何年何月何年何月何日起　何年何月何日滿

何某

何年何月生　明治何年何月何年何ヶ月

監視ノ期限間左ノ條件ヲ遵守スヘシ

一毎月二度所轄ノ警察署ニ到リ其謹愼ナルヿヲ表シ此票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ已ムヿヲ得サル事故アリテ警察署ニ到ルヿ能サルトキハ其事由ヲ届出ヘシ

二酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヿヲ許サス

三事故アリテ其住居ヲ轉移セントスルトキハ警察署ニ申請シ許可ヲ受ク可シ

四檀ニ他ノ地方ニ旅行スルヿヲ許サス若シ已ムヿヲ得サル事故アルトキハ其事由ヲ警察署ニ具申シ許可ヲ受ク可シ

右刑法附則第二十六條ニ因リ此ノ票ヲ下付スル者也

明治何年何月何日　署印

東京ニテハ何警察署　警察使何某㊞

府縣ニテハ何府縣何警察署　警部何某㊞

認印表

| | 初年 | | 二年 | | 三年 | | 四年 | | 五年 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 十五日以前 | 十五日以後 | 十五日以前 | 十五日以後 | 十五日以前 | 十五日以後 | 十五日以前 | 十五日以後 | 十五日以前 | 十五日以後 |
| 一月 | 何日出頭(印) | 病疾ニ付不參 | 旅行中 | | | | | | | |
| 二月 | | | | | | | | | | |
| 三月 | | | | | | | | | | |
| 四月 | | | | | | | | | | |
| 五月 | | | | | | | | | | |
| 六月 | | | | | | | | | | |
| 七月 | | | | | | | | | | |
| 八月 | | | | | | | | | | |
| 九月 | | | | | | | | | | |
| 十月 | | | | | | | | | | |
| 十一月 | | | | | | | | | | |
| 十二月 | | | | | | | | | | |

旅券

何府縣何區郡何町村何番地住又ハ寄留何某子弟妻女同居

刑名刑期　何年何月何日宣告　何年何月何日滿期

監視何年何月　何年何月何日起　何年何月何日滿

罪質犯數

族籍

何某　何年何月生　明治何年何月何年何ヶ月

一此者何府縣何區郡何町村何某方ヘ旅行スルヿヲ許可ス

一何年何月何日本地ヲ發途ス

一先方ノ地(若シ途中滯在スルトキハ其旨ヲ記ス)ニ滯在スル日數何日間トス

一何年何月何日皈宅スルモノトス

先方ノ地(若シ途中滯在スルトキハ其旨ヲ記ス)ニ到レハ此旅券ヲ直ニ其地ノ警察署ニ出シテ官吏ノ認印ヲ受クヘキ事

旅行中天災又ハ疾病等ニヨリ已ムヿヲ得スシテ淹滯シタルトキハ其事由ヲ其地ノ警察署

ニ具申シ官吏ノ証書ヲ請ヒ歸着シタルトキ若シクハ先方ノ地ニ到レハ此旅券ニ副ヘ速ニ之ヲ其警察署ニ示スヘキ事

歸省シタルトキハ此旅券ヲ直ニ還納スヘキ事

右刑法附則第三十條ニ依リ下付スル者也

明治何年何月何日

東京ニテハ何警察署
府縣ニテハ何府縣何警察署

警察使何某 印
部何某 印

認印表

| 某警察署 | | | |
|---|---|---|---|
| 何年何月何日ニ入リ何年何月何日迄何府縣何(郡區)何(町村)何番地何某方ニ滞在ス | 印 | 印 | |

# 旅券

何府縣何區何町
郡何村何番地住 又ハ寄留何某
族 籍 何
何年何月生 某
明治何年何月何年何ヶ月

一此者監視(假出獄ヲ許サル特別監視)ニ付セラレ何地ニ於テ之ヲ執行スヘキニ付該地ヘ到ル者也

一何年何月何日本地ヲ發途ス

一何年何月何日先方ノ地ニ到ラモノトス

先方ノ地ニ到ルハ直ニ其地ノ警察署ニ此旅券ヲ差出ス可キ事

但シ本文旅券ニ假出獄証票ヲ添ヘ官吏ノ監査ヲ受クヘシ

旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時淹滯シタル時ハ其事由ヲ其地ノ警察署ニ具申シ官吏ノ証書ヲ請ヒ到着ノ日此旅券ニ副ヘ警察署ニ差出ス可事

右刑法附則第二十五條ニ依リ下付スル者也

明治 何年何月 署印 何日

東京ニテハ 何警察署 警察使何某 印

府縣ニテハ 何府縣何警察署 警部何某 印

## 特別監視票

刑名刑期 何年何月何日宣告 何年何月何日滿期

附加監視 何年何月何日起 何年何月何日滿

假出獄 何年何月何日許可

特別監視 何年何月何日起 何年何月何日滿

特別監視ノ期限間左ノ條件ヲ遵守スヘシ

一毎週間一度所轄ノ警察署ニ到リ其謹愼ナルヿヲ表シ此票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受クヘシ但疾病又ハ已ムヿヲ得ザル事故アリテ警察署到ルヿ能サルトキハ其事由ヲ

何府縣何區郡何町村何番地住 又ハ寄留何某 子弟妻女同居

族籍 何某

何年何月生 明治何年何月何年何ヶ月

屆出ツヘシ

二酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヿヲ許サス

三事故アリテ住居ヲ轉移セントスルヿヲ許サストキハ警察署申請シ許可ヲ受クヘシ

但地ノ府縣ニ轉移スルヿヲ許サス

四往復一日程ヲ過クル地ニ旅行スルヲ許サス

（重罪ノ刑ニ處セラレタル者ナルトキハ左ノ一項ヲ附加ス）

自ラ財產ヲ治メ若シクハ職業ヲ營マントスルトキハ刑法附則第四十一條ニ從ヒ警察署ニ申請シ許可ヲ受クヘシ

右刑法附則第二十六條ニ因リ此票ヲ下付スル者也

明治 何年何月 署印 何日

東京ニテハ 何警察署 警察使何某 印

府縣ニテハ 何府縣警察署 警部何某 印

## 認印表

| 初年 | 二年 | 三年 | 四年 |
|---|---|---|---|
| 一週 | 二週 | 三週 | 四週 |
| 二週 | 三週 | 四週 | 一週 |
| 三週 | 四週 | 一週 | 二週 |
| 四週 | 一週 | 二週 | 三週 |
| 一週 | 二週 | 三週 | 四週 |
| 二週 | 三週 | 四週 | 一週 |
| 三週 | 四週 | 一週 | 二週 |
| 四週 | 一週 | 二週 | 三週 |

| 月 | 何日出頭ニ付 | 疾病 | 不參 |
|---|---|---|---|
| 一月 | | | |
| 二月 | | | |
| 三月 | | | |
| 四月 | | | |
| 五月 | | | |
| 六月 | | | |
| 七月 | | | |
| 八月 | | | |
| 九月 | | | |
| 十月 | | | |
| 十一月 | | | |
| 十二月 | | | |

○乙第二十號　三月廿二日　府縣（沖繩函館札幌根室ノ四縣ヲ除ク）

民事裁判所ヨリ人民呼出狀脚夫ノ賃錢及赤貧者被告トナリ喚問旅費ノ儀從前郡區役所又ハ戸長役場ニ於繰替又ハ官費支給候向モ有之候處自今一切不相成候條此旨相達候事

○乙第二十一號　三月廿五日　警視廳府縣（東京府ヲ除ク）

人民及ヒ免許商人現在所有ノ軍用銃精密取調別表書式ノ通調製シ本年四月三十日迄ニ當省ヘ可差出此旨相達候事（但表中ノ種類ハ大小礮共記載スヘシ若シ銃名不分明ナルモノハ彈量幷ニ旋條ノ有無ヲ記載スヘシ

軍用銃調査表

| | | 種類 | 員數 |
|---|---|---|---|
| 人民所有 | 何々 | 何々 | 何挺 |
| | 何々 | 何々 | 何挺 |
| | 、、 | 、、 | 、、 |
| | 、、 | 、、 | 、、 |
| | 合計 | | |
| 免許 | 種類 | 員數 | |
| | 何々 | 何々 | 何挺 |

| 商人所有 | 何々 | 何挺 |
|---|---|---|
| | 、 | 、 |
| | 、 | 、 |
| | 、 | 、 |
| 合計 | | |

明治　年　月　日　廳府縣

〇乙第二十二號　三月廿八日　府縣

寄留人願伺屆取扱方之儀ニ付明治八年第五拾五號公達ノ旨モ有之候處郡區編制地方職制更定相成候ニ付テハ該願伺屆ノ內郡區長又ハ戶長ノ取扱ニ屬スルモノハ該公達ニ準シ郡區長又ハ戶長ニ通報可及義ト心得ヘシ此旨相達候事

〇乙第二拾三號　四月四日　府縣（沖繩函館札幌根室ノ四縣ヲ除ク）

明治十四年（七月）第六十三號公達中警察費國庫下渡金ノ殘餘ハ翌年度ノ下渡金ヘ差繼ク可キ筈ニ候條爲心得此旨相達候事

〇乙第二十四號　四月四日　府縣（東京府ヲ除ク）

警部長警部警部補平常執務ノ際紺又ハ黑色（夏時ハ白色適宜）ノ略服ニ着シ帽ハ正帽ニ被覆シ換用スルヲ得ヘシ此旨相達候事（但製式地質ハ適宜相定メ屆出ヘシ

〇乙第二拾五號　四月十三日　大藏卿連名　府縣（沖繩縣及北海道三縣ヲ除ク）

明治十三年乙第三十八號ヲ以テ相達候備荒儲蓄金取扱順序第七條儲蓄金ヲ以テ銀行等ヘ定期預ケト爲ス場合ニ於テハ其預ケ箇所ハ豫メ府縣會ニ於議定セシメ必預ケ金額ニ對スル抵當取置候ハ勿論ニ候處右抵當ハ公債証書ニ限リ候儀ト心得ヘシ此旨相達候事

〇乙第二拾六號　四月十七日　府縣

本年三月乙第十四號ヲ以テ相達候開業醫子弟ヘ開業許可ノ証ヲ與ヘ候ハ當十五年八月中ヲ限リ右期限ニ後レ候者ハ一切不聞屆儀ト可相心得此旨相達候事

〇乙第二十七號　四月廿六日　官國幣社アル府縣

官國幣社神官東京府下ヨリ各地方ヘ赴任又ハ歸鄉スル旅費從來當省ヨリ支給シ來候處本年三月廿九日以後相廢シ總テ其神社ノ經費ヨリ支辨可爲致候條其旨相心得神社ヘ通達可致此旨相達候事

〇乙第貳十八號　五月一日　府縣（沖繩縣ヲ除ク）

各町村鎮坐氏神ノ儀ハ其土地ニ就キ從來一定ノ區域有之儀ニ付各自ノ信否ニ任セ猥ニ去就スヘキモノニ無之候條町村分合等ニヨリ不得已場合有之甲社ノ氏子一部落舉テ乙社ノ氏子ト相成節ハ甲乙社神官氏子協議ノ上雙方連署爲屆出明細帳引直シノ儀當省ヘ可屆出此旨相達候事（但雙方協議不整節ハ受理スヘカラサル儀ト心得ヘシ

○乙第二十九號　五月八日　府　縣

本年一月ヨリ新法實施相成候ニ付テハ明治九年當省乙第二十六號達書ハ消滅シタル義ト可心得此旨爲念相達候事

○乙第三十號　五月十五日　府　縣

神道中左ノ各教會自今頭書ノ通派名相唱特立差許候條此旨相達候事

神道神宮派　神宮教會　神道大社派　出雲大社教會

神道扶桑派　扶桑教會　神道實行派　實行教會

神道大成派　本教大成教會　神道神習派　神習教會

○乙第三十一號　五月十五日　府　縣

本年當省乙第十九號達刑法附則第二十五條ニ依リ附與スル旅劵第四項ノ但書ハ特別監視ニ附セラレタル者ニ限リ挿入シ尋常監視ニ附セラレタル者ニ挿入セス及ヒ監視票幷ニ旅劵ニ警察署トアルハ警察分署ヲモ包含セル儀ト心得ヘシ此旨更ニ相達候事

○乙第三拾貳號　五月廿日　警視廳府縣（東京府ヲ除ク）集治監

客年當省乙第三十一號達ニ從ヒ看守長製服ニ白地相用候節ハ徽章モ白色ノ品相用候義ト可心得爲念此旨相達候事（但袴ハ無章ニテモ不苦

○乙第三十三號　五月廿五日　府縣（東京府沖繩縣北海道ノ三縣ヲ除ク）

在府縣獄囚徒費收支現計書々式別冊之通相定候條右ニ照準每一月調製翌月七日限リ其地差立無遲滯當省ヘ可差出此旨相達候事（但客年七月分ヨリ施行候儀ト可相心得候事

○乙第三十四號　六月三日　警視廳府縣（東京府ヲ除ク）

明治十年當省乙第九十三號達中巡査免職歸國旅費之義ハ全ク其地方廳ニ滿二年勤續ノ者ニ限リ支給候義ト可心得此旨相達候事

○乙第三十五號　六月五日　警視廳府縣（東京府ヲ除ク）

裁判所ニ於テ撿証ノ爲メ囚人ヲ召連レ他所出張ノ節ハ巡査ヲシテ護送セシムヘシ此旨相達候事（但護送巡査ノ旅費其他囚人ニ属スル費用共渾ヲ警察費ヨリ支辨スヘシ

○乙第三十六號　六月七日　警視廳府縣（東京府ヲ除ク）

今般第二十七號ヲ以テ集會條例改正追加布告相成候ニ付テハ從前已ニ結社ノ屆ヲ爲セシ者及ヒ屆洩ニ相成居候モノトモ該布告ニ據リ至急可爲屆出此旨相達候事

○乙第三拾七號　六月十二日　府縣（東京府沖繩函館札幌根室ノ四縣ヲ除ク）

警部給與ノ內俸給雜給ノ科目（神奈川長崎ノ二縣ハ傭外國人俸給雜給）彼是流用セントスルトキハ該金額前以當省ヘ伺出候義ト可心得此旨相候事

○乙第三十九號　六月十八日　警視廳府縣　集治監

無籍在監人ハ在監中定籍ノ手續ヲ爲サシムルニ及ハス本人放還ノ時籍ヲ望ノ地ニ定メシメ典獄ヨリ就籍地區戸長ヘ通知書ヲ作リ本人ヲシテ携帶就籍ノ手續ヲ行ハシムヘシ此旨相達候事（但典獄ハ前年中監獄內無籍人ノ出入出生死亡ノ員數幷ニ其年一月一日ノ現員ヲ毎年一月限リ在監地區戸長ヘ通知スヘシ區戸長ハ之ヲ受ケ該地ノ人口ニ算入スヘシ

○乙第四十號　六月三十日　府縣

諸官舍官國幣社營繕費豫算帳差出期限ノ儀明治十二年乙第五十三號ヲ以テ相達置候處本年第五號公達會計法領布相成候ニ付テハ十六年度以降官國幣社及ヒ官費支給ニ係ル營繕費豫算帳ノ儀ハ前年度十一月廿日限リ無相違可差出此旨相達候事

○乙第四十一號　七月一日　府縣（東京府沖繩函館札幌根室ノ四縣ヲ除ク）

警部給與ノ定額金ヲ以准判任御用掛ヲ置キ警察事務取扱ハセ候節ハ警部給與中御用掛俸給雜給ノ二小科目ヲ設ケ豫算決算共可取計此旨相達候事

○乙第四十二號　七月十日　府縣（沖繩縣除之）

別紙戊第三號ノ通（神道副總裁神佛各管長）ヘ相達候條今後違背之輩有之候半々直ニ差止置委詳當省ヘ具狀可致此旨相達候事

戊第三號　七月十日　神道副總裁神佛各管長

禁厭祈禱ノ儀ニ付七年（六月）敎部省乙第三十三號達之趣有之候處病者治療ノ際之カ

爲メ投藥ノ時機ヲ誤リ候儀モ有之哉ニ相聞不都合候條今後信者ニ乞請求候節ハ先服藥之有無ヲ証明セシメ果シテ醫師診斷施療中ノ者ニ限リ其望ミニ應シ不苦候條其旨此度可相心得此段相達候事

○乙第四十三號　七月十三日　警視廳府縣

今般統計方法之義ニ付太政官ニ乙第三十九條ヲ以テ別紙ノ通達有之候ニ付テハ追々方法之改良モ可有之候得共元來正確之事實ヲ得ルハ專ラ警察署郡區役所戸長役場等ニ於テ材料蒐集之際注意ノ周到ナルト否トニ關スル義ニ候條一層愼重ニ取扱候樣可致此旨相達候事

○乙第四拾四號　八月三日　府縣

從來開業醫子弟ヘ開業許可之証付與之儀本年當省乙第十四號及ヒ乙第二十六號ヲ以テ相達置候ニ就テハ右達ニ據リ開業ヲ許可セシ醫師及ヒ其父兄姓名等別紙樣式ニ準シ製表來ル九月三十日限當省ヘ差出スヘシ尤モ出願者無之向キハ其段屆出ヘシ此旨相達候事

何（府縣）管内從來開業醫子弟開業許可証授與人名表

| 國名 | 郡區名 | 父兄姓名 | 本貫族籍 | 本人年齡 | 本人姓名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 何國 | 何郡 | | | | |
| | 何區 | | | | |
| 何國 | 何郡 | | | | |
| 合計 | | | | | |
| | | 何人 | | | |

（朱書）國郡區ハ開業地ノ國郡區名ヲ記スベシ

○乙第四拾五號　八月廿一日　大藏卿連名　警視廳府縣東京府並ニ沖繩函館札幌根室四縣ヲ除ク

今般第四十一號公達ニ依リ給助例實施ノ府縣ハ十二年五月乙第二十五號兩省達廢止候義ト可心得此旨相達候事

○乙第四拾六號　八月三十日　府縣（沖繩縣ヲ除ク）

今般皇典講究所設置ニ付府縣社以下神官撰舉ノ節該所ノ卒業証書無之者ハ皇典講究所

本分所ノ試驗ヲ受サセ試驗濟ノ証書ヲ相渡候筈ニ付今後撰擧出願ノ向ハ該所卒業証書寫若クハ試驗濟ノ証書ヲ副ヘ願出候者ニ限リ認可ヲ與ヘ候儀ト可心得此旨相達候事

○乙第四拾七號　九月二日　府　縣

佛國人コント、ユルク、ト、ウマエル、カステル氏今般同國美術卿ヨリ我國美術研究ノ委任ヲ受内地神社佛閣ニ藏蓄ノ美術ニ關スル物品一覽ノ儀同國公使ヨリ申出之趣外務卿ヨリ照會有之候就テハ同氏到着候ハヽ展覽相成候樣府縣社以下之神社幷寺院ヘ通達方適宜可取計此旨相達候事

○乙第四拾八號　九月十三日　府　縣

明治九年敎部省第十六號達廢止候條自今遙拜所願出之節ハ八年同省第壹號布達ニ準スヘキ儀ト可心得此旨相達候事

○乙第四拾九號　九月十四日　府　縣

明治七年五月當省乙第三拾九號水害表差出方及同年九月乙第五十九號調査概則ノ儀相達置候處更ニ別冊ノ通改正候條此旨相達候事

水害表調査概則

第一則　一水害表調査方ハ各河流域内ノ損亡ヲ悉ク代價ニ積リ之ヲ通計シ損金高ヲ一巨ノ下ニ瞭然タラシヲ要ス故ニ流亡毀損セシ者ハ各其員數及相當價金(人民ヲ除ク)ヲ見積リ之ヲ合算スヘシ抑從前製表概則ニ於テ獨リ海岸ノ水害ニ及ハサル者ハ其流域ヲ指定スルニ難キヲ以テナリ夫レ地ニ流域アルハ猶國ニ郡アルカコトク尺地モ其域内ニ非ルナシ是ヲ以テ彼ノ海岸水害ノ如キモ亦之ヲ擧サル可ラス然レ𪜈其水界ノ如キニ至テハ實地ニ於テ測量セサレハ或ハ判然シ難キモノアリ此ニ於テ獨リ海岸ノ地ハ暫ク流域ヲ用ヰス唯其景況ト損亡代價ト而已ヲ擧ケ以テ其缺ヲ補ハントス因テ今回概則中更ニ海岸ノ一項ヲ增加ス

第二則　一表用紙ノ初ニ管轄名及國名河名ヲ加書スヘキ位置ヲ設クルモノハ例ヘハ東京府ニテ表ヲ製スルニハ東京府(管内)武藏(國)多摩(川云々表)ト加書シ其他ヲ活用セシメンカ爲メナリ

第三則　一表上部ニ流域内トアルハ其流域内ニアル所ノ支川幹河ニ流入スルモノ又幹

河ヨリ流出スル派川及郡數等ヲ遺漏ナク擧クヘシ亦洪水トアルハ唯水漲ノミニテ流失毀損ノ害ナキ河川ハ其名ヲ記載スルニ及ハス（但幹川ハ流域内唯一川ニシテ既ニ表初ニ其河名ヲ掲ケ而シテ再ヒ此ニ列記スルモノハ彼ハ流域ヲ示シ此ハ幹川水害ノ有無ヲ知ラシカ爲メナリ

第四則　一右同水源流末トアルハ從前提要ノ部ニ記載スル所ノモノヲ分割シテ該欄内ニ記シ提要ノ部ニ於テハ洪水ノ景況ノミヲ擧ルモノトス

第五則　一數量ノ部ハ人民ヨリ目下凍餓ニ至ルマテ各其流域内ニテ害ヲ被リタル損失ノ員數ヲ擧ルモノトス故ニ百萬ヨリ一〇〇〇ニ至ルノ數位ヲ設ク而シテ建家及神社佛閣等ハ（軒）又（坪）田畑其他反別ヲ以テ算スル者ハ（町）穀類ハ（石）材木樹木ハ（一本）尺メハ（一本）（方一尺長一丈二尺）其他金ハ（圓）等ヲ一位トス而シテ一位以上ノ位ニ應シ其數ヲ記シ又奇零以下ハ其物ニ應シ普通ノ稱呼ヲ用ユ而シテ四捨五入ノ算法ヲ用ユヘシ（但地劵金トアル部ハ其段別ニ當ル地劵金高ヲ記シ而シテ損亡代價ノ部ニ於テハ實際賣買ノ概算金員ヲ記載スヘシ

第六則　一損亡代價ノ積リ方ハ「牛馬ハ一頭」「家ハ一坪」「段別ハ一段」「穀類ハ一石」「橋梁川除圦樋ハ一ヶ所」「堤防道路井堰用惡水路ハ十間」「家什ハ一箇」「材木ハ尺メ壹本」「樹木ハ壹本」「舟ハ一艘」「凍餓ハ（一人分入費高）」等ヲ以テ率ヲ立テ金ニ積ルヘシ而シテ其金員ヲ下部欄外算率ノ部ニ記載ス若シ一個宛リ平均ヲ得難キモノアレハ損亡代價ノ部ノミ記載ス（但樹木ハ目通リ周圍五尺以上ヲ大トシ壹尺以上ヲ小トス而シテ大小各一本ノ平均價格ヲ算率ノ部ニ記スヘシ又壹尺ニ滿タサルモノハ雜木ノ分ニ其損亡代價ノ總計ノミヲ擧クヘシ

第七則　一田畑ノ植物ノミ流失シ其土地ヲ損セサルモノハ生毛損數ノ部ニ土地植物共ニ損スルモノハ作德減分ノ部ニ竹林ノ土地共ニ流失スルモノハ其土地ハ森林ノ部ニ又草生小笹生菝生等ハ山野ノ部ニ記載スヘシ又通計ト目下凍餓トノ間ニ空欄ヲ設クルモノハ其被害ノ物若シ表中名稱何レノ所ヘモ編入シ難キ波止場等ノ類アレハ更ニ其名目ヲ起シ他ノ例ニ準據登記スヘシ

第八則　一損亡價金ノ積方ハ則チ流亡又ハ毀損スル所ノ物料現時ノ價格ヲ以テ計算ス

而シテ其常ニ賣買スルモノハ價格ヲ得ル易シト雖ニ常ニ賣買セサル道路堤防等ノ如キハ容易ニ其價格ヲ得ル難シ此ノ如キノ類ハ其再築ノ費金概算ヲ記載スヘシ若シ再築セサルカ又ハ舊慣ノ如ク築造セサルモ假リニ舊形ニ復スル工費ノ概計ヲナシ其金額ヲ登記スヘシ

第九則　一沿海地ノ水害ハ表題ノ部ニ何所海岸ト書シ河流域內ノ四字ヲ塗抹シ又上部ニ於テハ罹害ノ部而已ニ記載ス其他提要數量損亡代價等ニ至テハ他ノ流域調査方ニ異ルヘシ

第十則　一表用紙ノ末檢トアル處ハ其府縣長官ノ官職姓名印奉トアルハ該表ヲ調査シタル官員ノ姓名印ヲ用ユヘシ

# 管内　國　河流域内水害表

- 洪水年月日
- 流域内
- 支川數
- 派川數
- 郡數
- 洪水
- 幹川名
- 支川名
- 派川名
- 罹害
- 郡名
- 村數
- 市數
- 水源流末

名稱

- 人民：死亡（男・女）、傷疾（男・女）
- 牛馬死亡（牛・馬）
- 建家：流失（軒數・建坪）、破損（軒數・建坪）
- 神社流失（軒數・建坪）
- 佛閣破損（軒數・建坪）
- 田地：流亡（段別・地券金）、年季荒（段別・地券金）
- 畑地：流亡（段別・地券金）、年季荒（段別・地券金）
- 宅地（段別・地券金）
- 森林地（段別・地券金）
- 山野（段別・地券金）
- 社寺地（段別・地券金）
- 生毛ノ損數（段別）
- 竹林ノ流失（段別）
- 租税ノ減分
- 作德減分（米量・金數）
- 積數ノ損數
- 橋梁：流失（箇所）、總（長）、毀損（箇所）
- 〇
- 川除破損箇所
- 圦樋：流失（箇所）、毀損（箇所）
- 隄防：切所（箇所・延長）、缺所（箇所・延長）
- 道路毀損（箇所・總長）
- 井堰流損（箇所・總長）
- 用悪水路破損（箇所・總長）
- 家什ノ損數
- 貨幣ノ流失
- 材木ノ流失（尺メ）
- 樹木ノ流失（大木數・小木數・雜木）
- 舟ノ流損（艘數・石數）
- 目下凍餓（男・女）
- 通計

數量：百　十　万　千　百　十　一　〇　〇　〇

損亡代價：千　百　十　万　千　百　十　圓　十　錢　厘

數位：百　十

提要

檢

挙

内乙四拾九號別

# 內國河流域內水害表

| 稱 | 數量 | 損亡代價 | 數位 | 代價算率 |
|---|---|---|---|---|
| 民 死亡 男 | 百十万千百十一〇〇〇千百十万千百十圓十錢厘 | | 百十圓十錢厘 | 一頭 |
| 民 死亡 女 | | | | |
| 民 傷疾 男 | | | | |
| 民 傷疾 女 | | | | |
| 馬 死亡 牛 | | | | |
| 馬 死亡 馬 | | | | |
| 家 流失 軒數 | | | | 各一坪 |
| 家 流失 建坪 | | | | |
| 家 破損 軒數 | | | | |
| 家 破損 建坪 | | | | |
| 社 流失 軒數 | | | | |
| 社 流失 建坪 | | | | |
| 閣 破損 軒數 | | | | |
| 閣 破損 建坪 | | | | |
| 地 流亡 段別 | | | | 各一段 |
| 地 流亡 地券金 | | | | |
| 地 流亡 年季荒 段別 | | | | |
| 地 流亡 年季荒 地券金 | | | | |
| 地 段別 | | | | |
| 地 地券金 | | | | |
| 林 地 段別 | | | | |
| 林 地 地券金 | | | | |
| 野 段別 | | | | |
| 野 地券金 | | | | |
| 寺 地 段別 | | | | |
| 寺 地 地券金 | | | | |
| 七ノ損數 段別 | | | | |
| 林ノ流失 段別 | | | | |
| 稅ノ減分 | | | | |
| 德減分 米量 | | | | |
| 德減分 金數 | | | | |
| 穀ノ損數 | | | | |
| 梁 流失 箇所 | | | | |
| 梁 總長 | | | | |
| 梁 毀損 箇所 | | | | |
| ○ | 百十万千百十一〇〇〇千百十万千百十圓十錢厘 | | 百十圓十錢厘 | 各一箇所 |
| 除破損 箇所 | | | | |
| 樋 流失 箇所 | | | | |
| 樋 毀損 箇所 | | | | |
| 防 切所 箇所 | | | | |
| 防 切所 延長 | | | | |
| 防 缺所 箇所 | | | | |
| 防 缺所 延長 | | | | |
| 路 毀損 箇所 | | | | |
| 路 毀損 總長 | | | | |
| 堰 流損 箇所 | | | | |
| 堰 流損 總長 | | | | |
| 水路破損 箇所 | | | | |
| 水路破損 總長 | | | | |
| 什ノ損數 | | | | |
| 幣ノ流失 | | | | |
| 木ノ流失 尺メ | | | | |
| 木ノ流失 大木數 | | | | |
| 木ノ流失 小木數 | | | | |
| 木ノ流失 雜木 | | | | |
| ノ流損 艘數 | | | | |
| ノ流損 石數 | | | | |
| 下凍餓 男 | | | | |
| 下凍餓 女 | | | | |
| 計 | | | | |

奉

內乙四拾九號別表

○乙第五拾號　九月二十日

本年當省乙第五號達ノ其他賞與常例ニ據リ可取計分ハ疾ノ處分方結了可致處今以テ申出候向モ有之候ニ付此上遷延致候テハ不都合ニ候條至急取調來ル十一月三十日限リ完結候樣取計其旨可届出同日以後ハ都テ該章條例ニ據リ可取計此旨相達候事

○乙第五拾壹號　九月廿八日　府縣

從來大敎正平山省齋結集ノ大成敎會ヘ合同ノ御嶽敎會之儀自今神道御嶽派ト相唱特立差許候條此旨相達候事

○乙第五拾貳號　十月十四日　警視廳府縣（東京府北海道三縣沖繩縣ヲ除ク）

在府縣獄囚徒費小科目（獄署費已決囚諸費營繕費）彼此流用支辨セントスルトキハ當省ヘ伺出候儀ト可相心得此旨相達候事（但本件伺出候節ハ金員仕譯書添付スヘシ）

○乙第五拾三號　十月四日　警視廳、集治監、樺戸空地ノ府縣東京府北海道三縣沖繩縣ヲ除ク

客歲當省乙第三十四號及第四十二號ヲ以テ集治監ニ入ルヘキ囚徒諸費ノ儀相達置候處モ有之候處該囚徒ニ係ル費用ハ十四年度以降悉皆國庫支辨相成候條料目ノ儀ハ別表ノ

通リ計算方ハ乙第三十四號達ノ通リ可相心得且府縣獄ニ入ルベキ囚徒ニシテ集治監ニ在ル者ノ費用モ右ニ準シ可取計此旨相達候事

但十四十五兩年度豫算ノ儀ハ此際更ニ調整至急差出スベシ

年度

在府縣獄囚徒費科目表

| 大科目 | 中科目 | 小科目 | 細科目 |
|---|---|---|---|
| 在府縣獄囚徒費 | | | |
| | ○ | 獄署費 | |
| | | | ○ |
| | | 已決囚徒費 | |
| | | | ○ |
| | | 營繕費 | |
| | | | ○ |

（十四年度ハ在府縣獄囚徒費ヲ中科目トス）

○乙第五拾四號　十月十四日　警視廳府縣（東京府北海道三縣沖繩縣ヲ除ク）

客歳乙第五十三號ヲ以テ相達候在府縣獄囚徒費豫算帳書式中內譯細科目以下刪除候條此旨相達候事

○乙第五拾五號　十月十八日　府縣

神社寺院之守札ト可認モノ及神佛號ヲ記載セル書像ハ其神社寺院ノ外出板不相成儀ト可心得此旨相達候事（但從前屆濟ノ分ト雖モ本文ニ抵觸シ不都合ト認ムル場合ニ於テハ更ニ申出ツヘシ）

○乙第五拾六號　十月二十日　府縣（沖繩函館札幌根室ノ四縣ヲ除ク）

本年第二號布告ニ依リ十六度以降警察費幷ニ警察廳舍建築修繕費ニ對スル國庫下渡金豫算調整ノ都合有之ニ付右科目每年府縣會ニ附スヘキ豫算原按額ハ前年十一月廿日限リ其地發遣及該會議決額ハ認可次第左ノ書式ニ照準當省エ可屆出此旨相達候事

但豫算外臨費用ヲ議決シ又ハ豫備費ノ支出ヲ要セシトキハ其事由ヲ具シ本文書式ニ倣

ヒ屆出ヘク且客年當省乙第二十三號幷ニ乙第五十六號達ハ相廢シ候事

（用紙通界紙ヲ以一通）

○印ハ朱書

何年度警察費及警察廳

舍建築修繕費（原按額議決額）御屆

○高金 爰ニ高金ヲ掲クルハ外書ニ記載スヘキ金額有之ヰノ例

一金

警察費

內

金

地方稅

金

國庫下渡金

○右二項ハ十四年第十六號公布及第二十八號公達ニ屬スル金額ヲ掲クルモノニテ東京府ハ地方稅貳拾萬圓ナレハ國庫下渡金ヲ三拾萬圓トシ其他ハ地方稅拾萬圓ナレハ國庫下渡金ヲ三萬圓ト記載スルノ例

金

仝別途金

○此項ハ神奈川兵庫長崎高知知鹿兒ノ五縣ニ限ル

金

寄附金

○此項ハ警察費ニ寄附金有之ヰノ例尤此金額ニ對スル國庫下渡金ハ無之事

○外金

賣淫罰金

○金

賦金

○右項ハ警察採偵費ニ補充スルヰ外ニ書載スルノ例

內譯

金

俸給

○高金 爰ニ高金ヲ掲クルハ外書ニ記載スヘキ金額有之ヰノ例

金

諸費

○外金

賣淫罰金

○金

賦金

一金

內

警察廳舍建築修繕費

通り計算方ハ乙第三十四號達ノ通り可相心得且府縣獄ニ入ルベキ囚徒ニシテ集治監ニ在ル者ノ費用モ右ニ準シ可取計此旨相達候事

但十四十五兩年度豫算ノ儀ハ此際更ニ調整至急差出スベシ

年度
在府縣獄囚徒費科目表

| 大科目 | 中科目 | 小科目 | 細科目 | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 在府縣獄囚徒費 | | 獄署費 | | ○ | | | | | | | | | |
| | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | 已決囚徒費 | | | | | ○ | | | | | | | |
| | 營繕費 | | | | | | ○ | | | | | | |

（十四年度ハ在府縣獄囚徒費ヲ中科目トス）

○乙第五拾四號　十月十四日　警視廳府縣（東京府北海道三縣沖繩縣ヲ除ク）

客歳乙第五十三號ヲ以テ相達候在府縣獄囚徒費豫算帳書式中內譯細科目以下刪除候條此旨相達候事

○乙第五拾五號　十月十八日　府縣

神社寺院之守札ト可認モノ及神佛號ヲ記載セル畫像ハ其神社寺院ノ外出板不相成儀ト可心得此旨相達候事（但從前屆濟ノ分ト雖モ本文ニ抵觸シ不都合ト認ムル場合ニ於テハ更ニ申出ッ〳〵シ

○乙第五拾六號　十月二十日　府縣（沖繩函館札幌根室ノ四縣ヲ除ク）

本年第二號布告ニ依リ十六度以降警察費幷ニ警察廳舍建築修繕費ニ對スル國庫下渡金豫算調整ノ都合有之ニ付右科目每年府縣會ニ附スベキ豫算原按額ノ前年十一月廿日限リ其地廢置及該會議決額ハ認可次第左ノ書式ニ照準當省ニ可屆出此旨相達候事

但豫算外臨費用ヲ議決シ又ハ豫備費ノ支出ヲ要セントキハ其事由ヲ具シ本文書式ニ倣

ヒ屆出ヘク且客年當省乙第二十三號幷ニ乙第五十六號達ハ相廢シ候事

（用紙通界紙ヲ以一通）

○印ハ朱書

何年度警察費及警察廳

舍建築修繕費（原按額議決額）御屆

○高金 爰ニ高金ヲ掲クルハ外書ニ記載スヘキ金額有之ヰノ例

一金

警察費

內

金

地方稅

金

國庫下渡金

○右二項ハ十四年第十六號公布及第二十八號公達ニ屬スル金額ヲ掲クルモノニテ東京府ハ地方稅貳拾萬圓ナレハ國庫下渡金ヲ三拾萬圓トシ其他ハ地方稅拾萬圓ナレハ國庫下渡金ヲ三萬圓ト記載スルノ例

金

仝別途金

○此項ハ神奈川兵庫長崎高知知鹿兒ノ五縣ニ限ル

金

寄附金

○此項ハ警察費ニ寄附金有之ヰノ例尤此金額ニ對スル國庫下渡金ハ無之事

○外金

賣淫罰金

○金

賦金

○右項ハ警察採偵費ニ補充スルヰ外ニ書載スルノ例

內譯

金

俸給

○高金 爰ニ高金ヲ掲クルハ外書ニ記載スヘキ金額有之ヰノ例

金

諸費

○外金

賣淫罰金

○金

賦金

一金

內

警察廳舍建築修繕費

金　地方税

金　國庫下渡金

○右二項ノ警察費ト全ク割合ヲ以テ記載スルノ例

金　仝別途金

此項ハ神奈川兵庫長崎ノ三縣ニ限リ從前警察費ニ屬スル別途金ヨリ分裂スヘキ金額有之候ノ例

金　寄附金

○此項ハ建築修繕費ニ寄附金有之候ノ例尤此金額ニ對スル國庫下渡金ハ無之ノ例

内譯

金　新營費

金　修繕費

右者何年度地方警察費及警察廳舍建築修繕費豫算（原按額議決額）前書之通ニ有之候也

年月日

内務卿宛

府知事
縣令　氏名印

○乙第五拾七號　十月廿八日　府縣（函館沖繩根室札幌ノ四縣ヲ除ク）

官用ノ船舶馬車ヘハ明治十六年度以後地方稅ヲ賦課スルヲ得サル義ト可心得此旨相達候事（但從前ノ達及指令之ニ牴觸スルモノハ廢止ス）

○乙第五拾八號　十一月七日　府縣

各管内社寺及堂塔之類大凡四百年前之建造物現存スル向ハ別紙書式ニ準シ取調來ル十六年三月限リ當省ヘ可差出此旨相達候事

書式

（府縣）國郡（町村）字番地

某　（社寺堂塔）

一建物名稱（但間數幷建坪及白木造又ハ何途屋根何葺

一從來修繕年月及費額出ノ所官私ノ別

一管轄廳ヘノ距離

一地種幷坪數名受ケ

但繪圖ハ建物一棟ヲ正面及妻二樣ニ製シ美濃紙半枚ニ縮寫シ側ニ名稱ヲ記シ且別

ロ地所建物坪數位置及接近地ノ景況ヲ詳ニスル美濃紙一枚ノ見取圖ヲ添フヘシ

備考一建物ニ關スル種々ノ雜件傳說アルモノヲ詳記ス）

○乙第五拾九號　十一月七日　府　縣

各府縣管內神社寺院等創立再興復舊許可之分ハ今後滿二年以內ニ建設セシムヘシ其建物互大ニシテ工事數年ニ渉ル可キ者ハ更ニ狀ヲ具シ伺出許可ヲ受ル者トス其他在來ノ社寺ニシテ變災ニ遭ヒ建物悉皆烏有ニ歸スル者ハ滿五年ニ再建セシメ何レモ毎月末取纏メ當省エ可屆出若シ右期限ヲ過キ建設セザル者ハ一面許可ヲ停メ一面社寺明細帳ヲ削除更ニ屆出候儀ト可心得此旨相達候事（但十二年當省乙第三十一號達社寺明細書式中神官住職ノ項ヲ加ヘ且境外遙拜所招魂社祖靈社ノ書式ヲ廢シ都テ社寺書式ニ據リ取調フヘシ

○乙第六拾號　十一月十五日　府　縣

外國ノ圖書ヲ譯譯シテ出板屆出或ハ出板々權願出ノ節原著者ノ國名姓名及ヒ原題名等ハ自今調査ノ都合有之候條原字ヲ以テ別紙ニ認メ願屆書面ニ一通相添可爲差出此旨相達候事（但當半季分ノ儀ハ第四十九號布告前後ヲ以テ區分ヲ立テ以前ノ分ハ最前表式ニ依リ以後ノ分ハ本達表式ニ依リ各表進達可致儀ト心得ヘシ

明治　年前（後）半年行旅死亡人埋葬表

| 郡區 | 死狀 | 本籍不詳者 | | | | 有籍者 | | | | 雜收入ニ組込ムヘキ遺金 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男 | 女 | 計 | 費金 | 當初ヨリ本籍詳ナル者 | 公告ニ依リ本籍判明セシ者 | 計 | | |
| | | 男一 | 女一 | 男一 | 女 | | | | | |
| 何區 | 病死 | | | | 圓 | | | | | |
| | 變死 | | | | | | | | | |
| 何郡 | 病死 | | | | | | | | | |
| | 變死 | | | | | | | | | |

| 何郡 | | 何郡 | | 合計 | | 計 | 前年比較 | | 家元赤貧ニシテ地方税支辦ノ金額及其人員 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 病死 | 變死 | 病死 | 變死 | 病死 | 變死 | | 增 | 減 | | |
| | | | | | | | | | | |

一
一

凡例

一前年比較上著シキ差アルモノハ其原由ヲ詳細備考ニ記スヘシ
一行旅死亡人取扱規則第三條ニ掲クル公告後九十日ノ期限前後兩半季ニ跨カルモノハ九十日ノ終リタル季節ノ表ニ掲クヘシト雖モ公告中ノ人員ハ男女ヲ區分シ前季ノ表中備考ノ目ヘ其員數ヲ記スヘシ
一貸金ノ目ヘハ規則第三條ニ依リ地方税ヨリ支辦シタル金額ヲ掲クヘシ
一家元赤貧地方税支辦云々ノ目ヘハ規則第二條ニ依リ支辦ヲナシタル地方ノ表ニ掲クルモノトス

○乙第六拾貳號　十一月十七日　府縣

濟貧恤窮施行濟届方之義昨十四年乙第四十四號ヲ以テ相達置候所別紙之通改正候條本年ヨリ半年每ニ取調前半年分ハ八月限リ後半年分ハ翌年二月限リ兩度ニ有無トモ可届